

**2008-2009 年度
初年次教育調査報告書(要約版)**

河合塾

目次

I 調査の目的	1
II 調査・評価の概要	4
III アンケート（質問紙）調査分析	7
IV 訪問ヒアリングの概要	47
V 訪問大学の評価（実地評価）	50
VI まとめ、提言	59
<付録> アンケート（質問紙）調査票	63

河合塾 初年次教育についての調査報告

【はじめに】

近年、大学での学びに適応できない学生が増加し、全国の大学で問題となっている。背景には、大学の大量化・ユニバーサル化によりこれまでは大学に入学しなかった層が大量に大学に進学するようになったことをはじめ、多様な要因があると考えられるが、学生の適応不全への包括的な対応として重視されているのが、大学入学後の最初の1年間の教育、すなわち初年次教育である。

そこで河合塾では、2009年度に全国立大学、公立大学、私立大学の全学部を対象に、初年次教育調査を実施した。以下、その調査の概要と結果、その分析を報告し、それに基づいて今後の初年次教育の在り方についての提言を行いたい。同時に、本調査によって明らかとなった優れた教育力をもつ大学とそのグッドプラクティスを、社会に広く伝えたいと考えている。

I 調査の目的

(1) 評価の視点

初年次教育については、当初は手法や枠組みが多様だったが、現在は共通理解が形成されつつある。そこでここでは、初年次教育を以下の8点を目的としたものと定義する。

- ① 学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける
- ② 高校までに身につけておくべき学力の不足分を補習する
- ③ 大学という場を理解する
- ④ 人としての守るべき規範を理解する
- ⑤ 大学の中で人間関係を構築する
- ⑥ レポートの書き方、文献探索方法など、大学で学ぶためのスタディスキルを獲得する
- ⑦ クリティカルシンキング・コミュニケーション力など大学で学ぶための思考力を身につける
- ⑧ 高校までの受動的な学習から、能動的で自立的・自律的な学習態度への転換を図る

そして本調査では、上記8点について、学生は初年次教育を通して、A いかに関心度変容し、B いかにして学生が自立し、自律化するか、大学は、C いかに関心度全学生に一定水準以上の初年次教育を保証しているか、の3つの視点から評価することにした。

(2) 初年次教育の評価の視点 A=命題知から、実用知・活用知への変容

では、初年次教育が目的とする力を身につけた結果、学生は何かから何に変容するのか。このことを考えるためには、「本来、大学における学びとはどのようなものであるべきか」が問題となる。高校までの学びは「XはYである」という形での命題を暗記することが中心となっている。すなわち命題知の学習である。これは大学の入学選抜のための学力試験が、命題知の正確さや量をチェックする方向で行われているためである。

これに対して、実際の社会で求められるのは、命題知のみではなく、命題知を基礎にした実践知・活用知である。

命題知と実践知・活用知を例示しておく、以下のようなものである。

命題知：「水の沸点は100℃である」ということを覚えている力。

実践知・活用知：高度3000m程度の山で飯盒でコメを炊きながら「この辺じゃ沸点はどのくらいだろう」と問われて、例えば「吹きこぼれないように蓋に石でも載せておきましょう」と、飯盒内の圧力を高めることで沸点を高くするように行動できるような力。（参考：『学力問題のウソ』PHP文庫 小笠原喜康著 118ページ）

社会生活の中におけるこのような場面では、「水の沸点は100℃である」という命題知を伝えただけでは何の役にも立たない。社会の中で実際に活用できる知へと変容させていくことが、大学の教育には求められているはずである。

そして、経済産業省や経済団体等の調査によると、企業は大学卒業生に、いわゆる「社会人基礎力」などの「汎用力＝ジェネリックスキル」を強く求めていることがわかっている。（※社会人基礎力とは、経済産業省よって「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」と定義された「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力を指す。さらに「前に踏み出す力」は[主体性][働きかけ力][実行力]、「考え抜く力」は[課題発見力][計画力][想像力]、「チームで働く力」は[発信力][傾聴力][柔軟性][状況把握力][規律性][ストレスコントロール力]に分解される。）

このような事実の中にも、社会で求められる「力」と、高校までの命題知習得を中心とした学習との間に存在する大きなギャップが確認できる。

そして、このギャップを埋めることこそが従来の専門教育・教養教育に加え、新たに大学教育に求められているのである。初年次教育は、この学士課程教育を通じた「大きな変容」を実現するための入口であり、そのことが意識的に評価の視点に据えられていなければならない。

この命題知から実践知・活用知への変容は、また、「受動的学び」から「能動的学び」への変容と一体のものである。命題知得るための学習は、受動的に講義を聴くことで実現されるが、実践知・活用知を身につけるための学習は、一方向的な講義によっては実現しえない。何らかの協働体に参加し、実践的に活動することにおいて身につく能力である。

したがって初年次教育は、必然的に能動的な学習態度を促すような授業とならざるを得ないはずである。

(3)初年次教育の評価の視点 B:学生の自律・自立化

二番目の視点は、学生を自律・自立させていく取り組みである。学生の自律・自立には、さまざまな要素があると考えられる。自己管理、時間管理などを中心としたソーシャルスキルはもちろん、スチューデントスキルに分類されるものも、自律・自立の要素である。

そこで本調査においては、学生が自分で目標設定を行い、学び、それをレビューして再度目標設定を行えるようになること。すなわち有用な社会人は意識的あるいは無意識的に行っているPDCAサイクルを自主的に行える能力を培う仕組みに焦点を当てることとした。

(4)初年次教育の評価の視点 C:全学生に対する一定水準以上の初年次教育の保証

初年次教育を評価する視点として重要と思われるものが、「全学生に一定水準以上の初年次教育を保証しているか」という点である。ここには2つの問題が含まれていて、一番目が「全学生に」という問題であり、二番目が「一定水準以上の」という問題である。

まず、「全学生に」という点だが、初年次教育においては、まず、すべての学生を対象に提供しているかが、問題とされるべきである。なぜならば、初年次教育は大学のユニバーサル化を含む時代背景の中で進行する学生の質的变化に対応するために行われるものであって、個々の学生の個別事情に対応するために設定されているものではない。その大学・学部が必須と考える最低限の内容が、すべての学生に保証されている必要がある。逆に言えば、すべての学生に保証している初年次教育のレベルが、その大学・学部の初年次教育のレベルを表現しているということである。逆に、たとえば文部科学省の GP に採択されている初年次教育には、「選択」とされているものが多い。これは先導的な試行としては意味があるものの、「選択」としている時点で、本当にその科目が必要な学生がその科目を「選択しない」可能性が大きく、そのまま大学・学部全体の初年次教育と見なすことはできない。すなわち、たとえばグループワークでコミュニケーションを学ばせる必要がある学生は、多くの場合これまでそういった訓練の場を経験しておらず、あるいはコミュニケーションを苦手としている。そうした学生にとって、グループワークを課す科目を「選択」とすれば、選択しないケースが増えると推測できるからである。

次に「一定水準以上の」という問題である。

初年次教育の中心となる「初年次ゼミ」は、上記の変容を実現しようとするれば、内容に盛り込むことが多岐にわたり、すべてを教員裁量にまかせることはできないはずである。

また、初年次教育として「初年次ゼミ」であるとか、「オリエンテーション」であるとか、さまざまなプログラムが組み立てられていても、実際には一方的な講義が行われているだけという例も聞かれる。

スタディスキルにせよ、学生の変容にせよ、明確な目的が教員に共有され、一定程度の内容と水準がすべての授業において担保されている必要がある。しかも初年次教育に関するプログラムは比較的新しい領域であり、教員にとっても、専門科目での教育経験をストレートに適用することはできないとされている。だからこそ、この「一定水準以上の」内容を大学・学部としてどう担保しているのかに、大学としての姿勢が表現されていると考えられる。

II 調査・評価の概要

(1)調査の概要

本調査では、以上のように「A：命題知から、実用知・活用知への変容」、「B：学生の自律・自立化」、「C：全学生に一定水準以上の初年次教育を保証しているか」の3つの視点から初年次教育を捉え、調査を実施した。

調査の手順は、「初年次教育アンケート（質問紙）調査の実施」→「アンケート（質問紙）結果のポイント化」→「ポイント上位大学・学部の訪問ヒアリング」→「訪問大学・学部の実地評価」である。

「初年次教育アンケート」は2009年4月に全国の1999学部の学部長を対象に発送し、10月までに1092学部（一部学科、全学機構を含む）からの回答を得た。（質問項目は巻末のアンケート（質問紙）を参照）

- ・アンケート回答期間＝2009年4月中旬発送、2009年10月下旬までに回答のあったもの
- ・アンケート発送件数＝1999件
- ・アンケート回収件数＝1092件（※一部学科、全学機構からの回答を含む）
- ・アンケート回収率＝54.6%

(2)アンケート(質問紙)の設計

質問は大きく分けて3つの部分で構成した。

第一の質問群は、初年次ゼミのシステムに関する外形的要素に関してである。

①必修か選択か、②ゼミの学生カバー率、③時間数（ボリューム）、④1クラス平均人数を基本とし、それ以外に「授業（ゼミ）に入るスチューデントアシスタントの導入の有無」「新入生の実態調査の有無」を質問した。

第二の質問群は、学生の態度変容や自律・自立化に関わる初年次ゼミの内容に関してである。

①グループワークの有無・頻度、②ディベートの有無・頻度、③フィールドワークの有無・頻度、④レポートの有無・頻度、⑤プレゼンテーションの有無・頻度、⑥グループ宿題の有無・頻度、⑦「ふり返しシート」の有無・頻度である。これ以外に、「スタディスキルとしての図書館利用の有無」「スタディスキルとしてのレポートの書き方の有無」を質問した。

第三の質問群は、初年次ゼミ実施の体制に関してである。

①シラバスの有無、②ガイドライン・マニュアルの有無、③共通テキストの有無、④FDまたはコーディネータの有無、⑤初年次教育の組織評価の有無、⑥初年次教育の効果測定の有無である。これに加えて、「初年次教育を担当することの教員に対するインセンティブの有無」を質問した。

「一定水準以上」をどうやって担保しているかは、内容そのものの評価とならざるを得ない。しかし、これはアンケートや訪問ヒアリングなどの外形的な調査では評価が困難である。このため、「一定水準以上」が担保されているとすれば、シラバスはもとより、ガイドラインやマニュアル、共通テキストなどに基づく教育内容統一、初年次教育の質向上のためのFD、新任教員を初年次

教育の担当にするに際しての新任研修の実施などが行われているのではないか、という仮説を立てて、これらの有無を調査・評価することとした。

また、全学・全学部出動についても、大学・学部の姿勢が表現される課題であり、「一定水準以上」を担保する要因であると考えた。なぜなら、初年次教育は全学・全学部的な課題であるはずであり、大学として、学部として、入学してきた学生をどう育てていくかが問われる。これは一部の教員のみの問題ではないはずであり、この学生達をどう育てるのかの意識を少なくとも共有することが求められる。さらに、実際の教務分担も行われていくべきであると考えたからである。

また、これらの三つの質問群のどれにも属さないものだが、大学・学部のスタンスに関わるものとして、「レベルをある程度犠牲にしてでも脱落者を出さないことを重視するか、脱落者が出てもレベルを守るほうを重視するか、そのいずれでもないか」を質問した。

(3) 評価項目のポイント化について

このアンケートへの回答のポイント化を行った。目的は、アンケートの結果を定量的に分析するためであると同時に、優れた初年次教育を行っている大学をセレクトし、訪問ヒアリングを実施するためである。

ポイント化は以下の要領で行った。

初年次教育調査アンケート評価項目のポイント化

- (1) 学生の態度変容に関する項目 (満点: 28点)
 - (2) 外形的な要素の項目 (満点: 14点)
 - (3) 運営に関わる条件整備の項目 (満点: 14点)
 - (4) 初年次ゼミでのSAの活用 (満点: 2点)
- (合計: 58点)

(1) 学生の態度変容に関する評価項目	(評価基準)		(評価基準)	(評価基準)
	初年次ゼミの授業時間内に扱われる項目	項目の有無	項目の頻度	
【A】グループ学習(4p満点) 【C】プレゼンテーション(4p満点) 【D】レポート提出(4p満点) 【E】フィールドワーク(4p満点) 【F】ディベート(4p満点) 【G】ふり返りシート(4p満点)	学部全講座で必須(2p)	+	大(2p) 中(1p) 小(0p) 最後の発表時のみ(0p)	
	学科により全講座で必須(1p) 教員の裁量(0p) 教育課題としていない(0p)			
初年次ゼミの授業時間外の項目	学部全講座で必須(1p) 学科により全講座で必須(1p)	+	大(1p) 中(1p) 小(0p) 最後の発表時のみ(0p)	グループでの頻度
	教員の裁量(0p) 与えないことにしている(0p)			全てがグループ宿題(2p) 2~3回に1回(1p) 時々(2p) 最後の発表時のみ(1p) 教員裁量(0p)

(2) 外形的な要素の評価項目	(評価基準)	
	【H】初期把握(2p満点)	全ての新入生に対して行っている(2p) 一部の新入生に対して行っている(1p) 行っていない(0p)
	【I】初年次ゼミのカバー率(4p満点)	学部全体に必修(4p) 学部全体に選択または、学科により異なっている 70%~100%未満(3p) 30%~70%未満(2p) 30%未満(1p)
	【J】初年次ゼミのボリューム(4p満点)	半期×週1コマ(90分)=(1p) 半期×週2コマ(90分×2)=(2p) 通年×週1コマ(90分)=(2p) 通年×週2コマ(90分×2)=(4p)
	【K】初年次ゼミで教員一人あたりの担当生徒数(4p満点) (※「教室に入る授業サポート」を教員としてカウントした場合も考慮)	10人以下(4p) 11~20人(3p) 21~30人(2p) 31人以上(1p)

(3) 運営に関わる条件整備の評価項目	【L】初年次教育の効果測定(6p満点)	下記の6項目の○の該当数をポイント化 []学生の授業評価を基に行っている []学生調査を基に行っている []学生の成績を基に行っている []教員が記入するこの学生カルテまたは類似のものを基に行っている []学生が自ら記入する、成長を促す「ふり返りシート」や「ポートフォリオ」を基に行っている []その他(具体的に)
	【M】初年次ゼミの平準化・レベル向上(4p)	シラバス有(1p) 共通テキスト有(1p) ガイドライン有(1p) FD研修またはコーディネーター制度有(1p)
	【N】初年次教育の計画・実施組織の活動評価(2p)	下記の項目のどれかに○があれば(2p) []第三者評価の中で行われている []自己評価を行っている []学内の他者評価機関によって行われている []その他(具体的に) ※その他は内容のみを判断
	【O】初年次教育を担当することのインセンティブ(2p)	下記の項目のどれかに○があれば(2p) []昇任の際の評価の一部としている []FD活動上の評価の一部としている []その他(具体的に) ※その他は内容のみを判断

S次~Aゼ4のミ活で初用の年	(評価基準)
	活用している(2p)

Ⅲ アンケート(質問紙)調査分析

本アンケート調査の分析に当たっては、大学のセグメント化を行った。属性としたのは以下の 5 点である。

- ①学系別傾向
- ②学部の規模別傾向
- ③難易度別
- ④設立区分別（国公私）の傾向

そしてアンケートのポイント化をもとにしたセグメント別の傾向分析を行うとともに、各質問項目でのセグメント別の回答数と回答比率を比較することで、傾向の分析を試みた。

有意な意味が読み取れる点については、アンケート結果一覧表にコメントを付す。

[1]セグメント別ポイントと分析

(※初年次ゼミの「設定なし」の回答を除いて集計)

■全大学・学部

学生の態度変容に関する評価項目								
評価項目	【A】グループ学習	【B】ゼミ授業外のグループ宿題	【C】プレゼン	【D】レポート提出	【E】フィールドワーク	【F】ディベート	【G】ふり返り	【A~G】計
満点値	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(28)
データ数	879	1.0	0.6	1.0	1.2	0.3	0.6	0.5
								5.2

外形的な要素の評価項目				運営に関わる条件整備の評価項目								
評価項目	【H】初期把握	【I】ゼミカバー率	【J】ゼミホリユーム	【K】担当学生数	【H~K】計	【L】効果測定	【M】平準化・レベル向上	【N】活動評価	【O】インセンティブ	【L~O】計	ゼミSA活用	合計
満点値	(2)	(4)	(4)	(4)	(14)	(6)	(4)	(2)	(2)	(14)	(2)	(58)
データ数	879	0.8	3.4	1.4	2.8	8.4	1.4	2.4	1.4	0.4	5.6	0.2
												19.3

ポイント化を行ったのは 16 項目についてであり、その満点は 58 ポイント。全大学・学部の平均は 19.3 ポイントであった。

【学生の態度変容】に関する項目の合計は、満点が 28 ポイントとなる。しかし、全大学・学部の平均ポイントはわずか 5.2 ポイントであった。このことは、「初年次ゼミの設定がある」と回答した大学・学部のほとんどで、この基本的な内容が満たされていないことを示している。

この項目で最高のポイントを示したのは、三重大学（全学）の 24 ポイントであり、京都ノートルダム女子大学（生活福祉文化学部）23 ポイント、神戸学院大学（薬学部）の 23 ポイント、岩手県立大学（ソフトウェア情報学部）の 21 ポイント、金沢工業大学（全学）の 20 ポイントと続く。平均点が低いのは、初年次ゼミの設定があった場合でも 1 ポイント、2 ポイントどまりの大学・学部が多いためである。また、大学・学部によって大きな差が生じている項目でもある。

初年次ゼミの【外形的な要素】の評価項目については、14 ポイントが満点であるのに対し、全大学・学部の平均点は 8.4 ポイントであった。

【運営に関わる条件整備】の評価項目については、14ポイント満点に対して、平均点が5.6ポイントであった。

3つの項目群の結果を比較すると、【学生の態度変容】に関する初年次ゼミのポイントは、他の2項目群に比してきわめて低い。つまり、初年次ゼミの【外形的な要素】や【運営に関わる条件整備】は次第に進んできたものの、肝心の内容に関しては、手付かずであったり後回しになっている現状がうかがえる。

■学系別（学系は河合塾の分類による）

（※全学実施はサンプル数が少数であるため除いて考察）

セグメント：【学系別】にみた平均点

学系名称	評価項目 データ数	学生の態度変容に関する評価項目							【A~G】 計
		【A】グループ 学習	【B】ゼミ授業 外のグループ 宿題	【C】 プレゼン	【D】レポート 提出	【E】フィールド* ワーク	【F】 ディベート	【G】 ふり返り	
	満点値	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(28)
文・人文	182	0.8	0.6	1.0	1.4	0.3	0.4	0.4	4.9
社会・国際	71	1.2	0.7	1.0	1.3	0.3	0.7	0.6	5.6
法・政治	48	0.4	0.2	0.6	0.9	0.0	0.4	0.2	2.7
経済・経営・商	162	0.8	0.5	1.0	1.0	0.2	0.5	0.5	4.5
教育・教員養成・総合科学課程	24	1.1	1.0	1.2	1.3	0.3	0.7	0.4	6.0
理	33	0.5	0.8	0.4	0.7	0.1	0.3	0.2	3.0
工	99	1.0	0.7	0.8	1.1	0.4	0.6	0.5	5.0
農	28	1.1	0.8	1.3	1.5	0.3	1.4	0.6	7.0
医・歯・薬・保健	97	1.9	0.8	1.4	1.5	0.4	0.8	1.0	7.8
家政・生活科学	42	1.0	0.5	0.7	1.3	0.5	0.6	0.3	4.9
芸術・体育・他	31	0.8	0.3	0.7	1.1	0.5	0.5	0.3	4.1
総合・環境・人間・情報	57	1.0	0.6	1.3	1.1	0.2	0.5	0.5	5.2
全学	5	2.4	0.8	2.2	2.2	0.4	1.6	1.2	10.8
(全体の平均点)	879	1.0	0.6	1.0	1.2	0.3	0.6	0.5	5.2

学系名称	評価項目 データ数	外形的な要素の評価項目				運営に関わる条件整備の評価項目						合計	
		【H】 初期把握	【I】ゼミ カバー率	【J】ゼミ ホリウム	【K】担当 学生数	【H~K】 計	【L】効果 測定	【M】平準化 レベル向上	【N】活動 評価	【O】 インセン ティブ	【L~O】 計		ゼミSA 活用
	満点値	(2)	(4)	(4)	(4)	(14)	(6)	(4)	(2)	(2)	(14)	(2)	(58)
文・人文	182	0.7	3.5	1.4	2.5	8.1	1.5	2.5	1.4	0.2	5.6	0.2	18.8
社会・国際	71	0.8	3.7	1.4	2.8	8.8	1.3	2.5	1.3	0.4	5.5	0.2	20.2
法・政治	48	0.5	3.2	1.4	2.8	7.9	1.1	2.4	1.5	0.3	5.3	0.1	16.0
経済・経営・商	162	0.8	3.6	1.4	2.8	8.6	1.3	2.5	1.3	0.4	5.6	0.2	18.8
教育・教員養成・総合科学課程	24	0.8	3.4	1.2	2.9	8.3	1.5	2.2	1.6	0.3	5.6	0.3	20.2
理	33	0.9	3.2	1.3	3.2	8.6	1.6	2.3	1.5	0.4	5.8	0.4	17.8
工	99	1.1	3.1	1.3	2.8	8.4	1.5	2.2	1.4	0.4	5.5	0.4	19.2
農	28	0.5	3.1	1.3	2.3	7.3	1.4	2.3	1.6	0.6	5.8	0.2	20.3
医・歯・薬・保健	97	0.9	3.3	1.4	3.1	8.6	1.4	2.5	1.3	0.4	5.5	0.2	22.2
家政・生活科学	42	0.9	3.4	1.2	2.6	8.2	1.3	2.0	1.0	0.3	4.5	0.1	17.8
芸術・体育・他	31	0.9	3.7	1.5	2.3	8.5	1.3	2.6	1.2	0.5	5.6	0.3	18.5
総合・環境・人間・情報	57	0.9	3.5	1.4	3.1	8.9	1.5	2.4	1.4	0.6	5.9	0.2	20.2
全学	5	0.6	2.4	1.0	2.6	6.6	2.6	3.4	1.6	0.0	7.6	0.4	25.4
(全体の平均点)	879	0.8	3.4	1.4	2.8	8.4	1.4	2.4	1.4	0.4	5.6	0.2	19.3

全項目合計ポイントでは医・歯・薬・保健学部系が22.2と高く、法学部系16.0、家政・生活科学部系17.8、理学部系17.8と低いポイントであった。

【学生の態度変容】に関する項目の合計では、平均が5.2であったのに対して医・歯・薬・保健学部系が7.8、農学部系が7.0と高いポイントを示した。これに対して、法・政治学部系が2.7、理学部系が3.0と低いポイントを示した。

【外形的な要素】については学系による有意な差は見られなかった。

【運営に関わる条件整備】については、平均5.6に対し家政・生活科学部系が4.5と低いポイント

トを示した以外は、有意な差が見られなかった。

■定員規模別

(※本調査における定員規模の定義：

1年生の定員が；大規模=350人以上、中規模=200～349人、小規模=200人未満)

セグメント:【定員規模別】にみた平均点

評価項目	学生の態度変容に関する評価項目								【A～G】計
	【A】グループ学習	【B】ゼミ授業外のグループ宿題	【C】プレゼン	【D】レポート提出	【E】フィードバック	【F】ディベート	【G】ふり返り		
1年生の定員規模	満点値	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(28)
	データ数								
350人以上	262	1.0	0.5	1.0	1.0	0.3	0.6	0.4	4.9
200～349人	305	0.9	0.6	1.0	1.2	0.3	0.5	0.5	5.0
200人未満	312	1.1	0.6	1.0	1.3	0.3	0.7	0.6	5.6
(全体の平均点)	879	1.0	0.6	1.0	1.2	0.3	0.6	0.5	5.2

評価項目	外形的な要素の評価項目				運営に関わる条件整備の評価項目							合計	
	【H】初期把握	【I】ゼミカバー率	【J】ゼミホリウム	【K】担当学生数	【H～K】計	【L】効果測定	【M】平準化・レベル向上	【N】活動評価	【O】インセンティブ	【L～O】計	ゼミSA活用		
1年生の定員規模	満点値	(2)	(4)	(4)	(4)	(14)	(6)	(4)	(2)	(2)	(14)	(2)	(58)
	データ数												
350人以上	262	0.8	3.4	1.3	2.6	8.2	1.3	2.4	1.4	0.3	5.4	0.3	18.7
200～349人	305	0.8	3.5	1.5	2.7	8.5	1.4	2.5	1.4	0.4	5.7	0.2	19.4
200人未満	312	0.8	3.4	1.3	2.9	8.4	1.4	2.4	1.3	0.4	5.5	0.2	19.7
(全体の平均点)	879	0.8	3.4	1.4	2.8	8.4	1.4	2.4	1.4	0.4	5.6	0.2	19.3

定員規模別で見ると、全項目合計では、小規模が19.7と最も高く、中規模19.4、大規模18.7と規模順に並んだが、それほど大きな差は見られない。

【学生の態度変容】に関する項目ではそれほど大きな差は見られないものの、A～Gの合計点では平均が5.2に対し、350人以上の学部では4.9、200～349人の学部では5.0、200人未満の学部では5.6で、小規模の方が【学生の態度変容】への取り組みが行い易いことを示している。

【外形的な要素】については、これも合計点で大規模学部は8.2、中規模学部は8.5、小規模学部は8.4で、大規模学部の方が多少ポイントが低い程度であった。中でも【Iゼミカバー率】については、大規模学部も小規模学部も3.4であり、規模による差はみられなかった。

【運営に関わる条件整備】も【外形的な要素】同様、規模による有意な差は見られなかった。

■難易度別

(※本調査における難易度の定義:2009年度の入試結果を河合塾の設定基準の偏差値を基に偏差値、[55.0以上]、[45.0～54.9]、[45.0未満]の3つの領域に分けて考察)

セグメント:【難易度別】にみた平均点 ※全学の5件分は除外 ※入試難易度は2009年入試結果の河合塾の設定基準

評価項目	学生の態度変容に関する評価項目								【A～G】計
	【A】グループ学習	【B】セミ授業外のグループ宿題	【C】プレゼン	【D】レポート提出	【E】フィールドワーク	【F】ディベート	【G】ふり返り		
入試難易度(偏差値)	満点値	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(28)
	データ数								
55.0以上	153	0.8	0.5	0.9	0.9	0.2	0.5	0.3	4.3
45.0～54.9	288	1.1	0.7	1.0	1.2	0.2	0.6	0.5	5.3
45.0未満	433	1.0	0.6	1.0	1.3	0.4	0.6	0.6	5.3
(全体の平均点)	874	1.0	0.6	1.0	1.2	0.3	0.6	0.5	5.1

評価項目	外形的な要素の評価項目					運営に関わる条件整備の評価項目					【L～O】計	セミSA活用	合計
	【H】初期把握	【I】セミカパー率	【J】セミホリウム	【K】担当学生数	【H～K】計	【L】効果測定	【M】平準化・レベル向上	【N】活動評価	【O】インセンティブ				
入試難易度(偏差値)	満点値	(2)	(4)	(4)	(4)	(14)	(6)	(4)	(2)	(2)	(14)	(2)	(58)
	データ数												
55.0以上	153	0.6	3.2	1.4	2.9	8.2	1.1	2.1	1.2	0.3	4.7	0.2	17.4
45.0～54.9	288	0.7	3.4	1.3	2.7	8.1	1.4	2.4	1.5	0.3	5.6	0.2	19.1
45.0未満	433	1.0	3.5	1.5	2.8	8.7	1.5	2.5	1.3	0.4	5.8	0.2	20.0
(全体の平均点)	874	0.8	3.4	1.4	2.8	8.4	1.4	2.4	1.4	0.4	5.5	0.2	19.3

入試難易度別に同じ項目を比較すると以下の通りとなった。

全項目合計では[45.0未満]の難易度が20.0と最も高く、[45.0～54.9]の難易度19.1、[55.0以上]の難易度17.4と難易度の低い順に高いポイントを示した。

【学生の態度変容】については、すべての項目において、[55.0以上]の難易度の大学・学部は[45.0～54.9]の難易度の大学・学部、[45.0未満]の難易度の大学・学部よりも低いポイントを示した。合計ポイントにおいても、全大学・学部平均5.1、[45.0～54.9]の難易度が5.3、[45.0未満]の難易度が5.3であるのに対し、[55.0以上]の難易度では4.3にとどまった。

ただ、【外形的な要素】については難易度別には有意な差は見られなかった。【運営に関わる条件整備】については、平均5.5、[45.0～54.9]の難易度5.6、[45.0未満]の難易度5.8に対し、[55.0以上]の難易度が4.7と低いポイントを示している。

■設立区分別

セグメント:【設立区分別】にみた平均点

評価項目	学生の態度変容に関する評価項目								【A～G】計
	【A】グループ学習	【B】セミ授業外のグループ宿題	【C】プレゼン	【D】レポート提出	【E】フィールドワーク	【F】ディベート	【G】ふり返り		
設立区分	満点値	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(28)
	データ数								
国立	168	0.9	0.7	0.9	1.0	0.2	0.5	0.4	4.7
公立	56	1.0	0.6	0.9	1.4	0.2	0.6	0.3	4.9
私立	655	1.0	0.6	1.0	1.2	0.3	0.6	0.5	5.3
(全体の平均点)	879	1.0	0.6	1.0	1.2	0.3	0.6	0.5	5.2

評価項目	外形的な要素の評価項目				運営に関わる条件整備の評価項目							合計	
	【H】初期把握	【I】ゼミカバー率	【J】ゼミボリューム	【K】担当学生数	【H~K】計	【L】効果測定	【M】平準化・レベル向上	【N】活動評価	【O】インセンティブ	【L~O】計	ゼミSA活用		
設立区分	満点値 データ数	(2)	(4)	(4)	(4)	(14)	(6)	(4)	(2)	(2)	(14)	(2)	(58)
国立	168	0.7	3.3	1.3	2.9	8.2	1.4	2.3	1.5	0.3	5.5	0.2	18.6
公立	56	0.5	3.4	1.2	2.9	7.9	1.1	2.2	1.6	0.4	5.3	0.2	18.3
私立	655	0.9	3.5	1.4	2.7	8.5	1.4	2.5	1.3	0.4	5.6	0.2	19.6
(全体の平均点)	879	0.8	3.4	1.4	2.8	8.4	1.4	2.4	1.4	0.4	5.6	0.2	19.3

全項目合計で見ると、私立が 19.6 と最も高く、国立が 18.6、公立が 18.3 でほぼ並んでいる。

また、【学生の態度変容】に関する項目に関しては国立が 4.7 で、公立 4.9、私立 5.3 に対して、低いポイントを示した点が注目される。

【外形的な要素】に関しては、私立が 8.5 と最も高く、国立 8.2、公立 7.9 と続いた。特に、【Jゼミのボリューム】については、公立 1.2、国立 1.3 に対し私立は 1.4 と高いポイントを示した。

【運営に関わる条件整備】に関しては、合計で公立が 5.3、国立 5.5 に対し、私立は 5.6 と高いポイントであった。

[2]質問項目別集計結果と分析

(※各項目とも難易度別に関しては、全学としての5件分のデータを除いて集計)

■学生実態調査

1(1)学生実態調査:(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	全ての新生に対して実施		一部の新生に対して実施		不明		実施していない		総計	
文・人文	58	26.9%	15	6.9%	8	3.7%	135	62.5%	216	100.0%
社会・国際	25	31.6%	8	10.1%	2	2.5%	44	55.7%	79	100.0%
法・政治	11	21.6%	3	5.9%	0	0.0%	37	72.5%	51	100.0%
経済・経営・商	58	33.7%	13	7.6%	4	2.3%	97	56.4%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	10	35.7%	2	7.1%	1	3.6%	15	53.6%	28	100.0%
理	12	26.7%	13	28.9%	0	0.0%	20	44.4%	45	100.0%
工	56	42.7%	16	12.2%	3	2.3%	56	42.7%	131	100.0%
農	7	19.4%	5	13.9%	2	5.6%	22	61.1%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	53	33.8%	12	7.6%	5	3.2%	87	55.4%	157	100.0%
家政・生活科学	22	38.6%	3	5.3%	0	0.0%	32	56.1%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	29	43.3%	4	6.0%	1	1.5%	33	49.3%	67	100.0%
芸術・体育・他	16	33.3%	3	6.3%	2	4.2%	27	56.3%	48	100.0%
全学	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	5	100.0%
総計	358	32.8%	98	9.0%	29	2.7%	607	55.6%	1092	100.0%

1年生の定員	全ての新生に対して実施		一部の新生に対して実施		不明		実施していない		総計	
350人以上	97	31.8%	28	9.2%	5	1.6%	175	57.4%	305	100.0%
200~349人	122	32.7%	32	8.6%	15	4.0%	204	54.7%	373	100.0%
200人未満	139	33.6%	38	9.2%	9	2.2%	228	55.1%	414	100.0%
総計	358	32.8%	98	9.0%	29	2.7%	607	55.6%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	全ての新生に対して実施		一部の新生に対して実施		不明		実施していない		総計	
55.0以上	46	22.4%	18	8.8%	5	2.4%	136	66.3%	205	100.0%
45.0~54.9	99	27.0%	34	9.3%	14	3.8%	220	59.9%	367	100.0%
45.0未満	212	41.2%	45	8.7%	9	1.7%	249	48.3%	515	100.0%
総計	357	32.8%	97	8.9%	28	2.6%	605	55.7%	1087	100.0%

設立区分	全ての新生に対して実施		一部の新生に対して実施		不明		実施していない		総計	
国立	59	28.5%	19	9.2%	6	2.9%	123	59.4%	207	100.0%
公立	14	17.1%	13	15.9%	8	9.8%	47	57.3%	82	100.0%
私立	285	35.5%	66	8.2%	15	1.9%	437	54.4%	803	100.0%
総計	358	32.8%	98	9.0%	29	2.7%	607	55.6%	1092	100.0%

入学当初の学生実態調査については、「全学生に対して実施」している学部は32.8%と、全体の3分の1程度でしか行われていない。「一部の新生に実施」を合わせても41.8%半分に満たず、学生の現状に適応した初年次教育を提供する上で問題ではないかと懸念される。

学系別で見ると、総合・環境・人間・情報学部系、工学部系のポイントが高い。工学部系では「一部の新生に実施」まで合わせると50%を超えているのに対し、法・政治学部系は30%に満たなかった。

規模別では有意な差は見られず、難易度別では[45.0 未満]の難易度グループで「全学実施」が41.2%で[55.0 以上]の難易度グループ22.4%、[45.0~54.9]の難易度グループ27.0%の1.5~2倍近い実施率を示している。[45.0 未満]の大学・学部がそれだけ初年次教育に注力していることを示すものとして注目される。

また設立区分別では、私立で全学実施が35.5%と、国立28.5%、公立17.1%よりも高い比率を示している。

■初年次ゼミの履修形態

2(1)初年次ゼミの設定：(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	学部全体に必修として設定		学部全体に選択として設定		学科により異なる		不明		設定されていない		総計	
文・人文	147	68.1%	14	6.5%	21	9.7%	0	0.0%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	61	77.2%	6	7.6%	4	5.1%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	30	58.8%	13	25.5%	5	9.8%	0	0.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	121	70.3%	37	21.5%	4	2.3%	0	0.0%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	19	67.9%	1	3.6%	4	14.3%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	20	44.4%	4	8.9%	9	20.0%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	58	44.3%	20	15.3%	19	14.5%	2	1.5%	32	24.4%	131	100.0%
農	19	52.8%	4	11.1%	4	11.1%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	75	47.8%	6	3.8%	13	8.3%	3	1.9%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	31	54.4%	1	1.8%	9	15.8%	1	1.8%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	45	67.2%	8	11.9%	4	6.0%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	25	52.1%	2	4.2%	4	8.3%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	2	40.0%	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	653	59.8%	117	10.7%	102	9.3%	7	0.6%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部全体に必修として設定		学部全体に選択として設定		学科により異なる		不明		設定されていない		総計	
350人以上	178	58.4%	43	14.1%	40	13.1%	1	0.3%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	234	62.7%	42	11.3%	26	7.0%	3	0.8%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	241	58.2%	32	7.7%	36	8.7%	3	0.7%	102	24.6%	414	100.0%
総計	653	59.8%	117	10.7%	102	9.3%	7	0.6%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部全体に必修として設定		学部全体に選択として設定		学科により異なる		不明		設定されていない		総計	
55.0以上	101	49.3%	31	15.1%	20	9.8%	1	0.5%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	210	57.2%	43	11.7%	33	9.0%	2	0.5%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	340	66.0%	42	8.2%	47	9.1%	4	0.8%	82	15.9%	515	100.0%
総計	651	59.9%	116	10.7%	100	9.2%	7	0.6%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部全体に必修として設定		学部全体に選択として設定		学科により異なる		不明		設定されていない		総計	
国立	117	56.5%	26	12.6%	24	11.6%	1	0.5%	39	18.8%	207	100.0%
公立	44	53.7%	7	8.5%	3	3.7%	2	2.4%	26	31.7%	82	100.0%
私立	492	61.3%	84	10.5%	75	9.3%	4	0.5%	148	18.4%	803	100.0%
総計	653	59.8%	117	10.7%	102	9.3%	7	0.6%	213	19.5%	1092	100.0%

初年次ゼミを「学部全体に必修」として設定している学部は全体の59.8%であった。

学系別では、社会・国際学部系、経済・経営・商学部系が70%を超えているのに対して、理学部44.4%、工学部44.3%、医・歯・薬・保健学部系47.8%と低い数値を示した。

規模別では、中規模学部が62.7%と、小規模58.2%、大規模58.4%を上回った。

難易度別では、[45.0未満]の難易度グループ66.0%、[45.0～54.9]の難易度57.2%、[55.0以上]の難易度49.3%と、難易度が低い順に約10%ずつ上昇していく点が特徴的である。

設立区分別では、私立大学が61.3%と最も高く、国立が56.5%、公立53.7%であった。

■初年次ゼミのクラス編成

2(8)初年次ゼミのクラス編成(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部横断型		学部内 学科・コース横断型		学科・コース内型		その他		不明		初年次ゼミの設定なし	総計		
文・人文	36	16.7%	25	11.6%	108	50.0%	9	4.2%	4	1.9%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	17	21.5%	17	21.5%	34	43.0%	3	3.8%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	18	35.3%	11	21.6%	17	33.3%	1	2.0%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	41	23.8%	51	29.7%	60	34.9%	7	4.1%	3	1.7%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	5	17.9%	1	3.6%	17	60.7%	1	3.6%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	7	15.6%	3	6.7%	22	48.9%	0	0.0%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	14	10.7%	12	9.2%	59	45.0%	7	5.3%	7	5.3%	32	24.4%	131	100.0%
農	5	13.9%	10	27.8%	12	33.3%	0	0.0%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	27	17.2%	20	12.7%	40	25.5%	5	3.2%	5	3.2%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	5	8.8%	5	8.8%	28	49.1%	2	3.5%	2	3.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	16	23.9%	12	17.9%	25	37.3%	4	6.0%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	6	12.5%	6	12.5%	17	35.4%	2	4.2%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	200	18.3%	174	15.9%	440	40.3%	41	3.8%	24	2.2%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部横断型		学部内 学科・コース横断型		学科・コース内型		その他		不明		初年次ゼミの設定なし	総計		
350人以上	55	18.0%	49	16.1%	140	45.9%	11	3.6%	7	2.3%	43	14.1%	305	100.0%
200~349人	68	18.2%	60	16.1%	154	41.3%	16	4.3%	7	1.9%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	77	18.6%	65	15.7%	146	35.3%	14	3.4%	10	2.4%	102	24.6%	414	100.0%
総計	200	18.3%	174	15.9%	440	40.3%	41	3.8%	24	2.2%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部横断型		学部内 学科・コース横断型		学科・コース内型		その他		不明		初年次ゼミの設定なし	総計		
55.0以上	48	23.4%	38	18.5%	58	28.3%	8	3.9%	1	0.5%	52	25.4%	205	100.0%
45.0~54.9	65	17.7%	49	13.4%	149	40.6%	16	4.4%	9	2.5%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	84	16.3%	86	16.7%	232	45.0%	17	3.3%	14	2.7%	82	15.9%	515	100.0%
総計	197	18.1%	173	15.9%	439	40.4%	41	3.8%	24	2.2%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部横断型		学部内 学科・コース横断型		学科・コース内型		その他		不明		初年次ゼミの設定なし	総計		
国立	46	22.2%	28	13.5%	82	39.6%	7	3.4%	5	2.4%	39	18.8%	207	100.0%
公立	23	28.0%	17	20.7%	9	11.0%	4	4.9%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	131	16.3%	129	16.1%	349	43.5%	30	3.7%	16	2.0%	148	18.4%	803	100.0%
総計	200	18.3%	174	15.9%	440	40.3%	41	3.8%	24	2.2%	213	19.5%	1092	100.0%

全体では、「学部横断型」を採用しているのは18.3%、「学部内学科・コース横断型」は15.9%、「学科・コース内型」は40.3%であった。

「学部横断型」の採用を学系別でみると、当然のことではあるが全学実施の比率が60.0%と高かった。

規模別では有意な差は見られず、難易度別では[55.0以上]の難易度の学部で「学部横断型」の比率が高い。

設立区分別では、公立が28.0%と最も高く、国立22.2%、私立16.3%を示した。

■日本語表現としてのレポートの書き方

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【日本語表現としてのレポートの書き方】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし	総計		
文・人文	74	34.3%	36	16.7%	61	28.2%	5	2.3%	6	2.8%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	29	36.7%	11	13.9%	28	35.4%	3	3.8%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	20	39.2%	3	5.9%	24	47.1%	1	2.0%	0	0.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	71	41.3%	7	4.1%	76	44.2%	3	1.7%	5	2.9%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	7	25.0%	5	17.9%	11	39.3%	0	0.0%	1	3.6%	4	14.3%	28	100.0%
理	3	6.7%	4	8.9%	21	46.7%	4	8.9%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	25	19.1%	23	17.6%	35	26.7%	8	6.1%	8	6.1%	32	24.4%	131	100.0%
農	13	36.1%	3	8.3%	9	25.0%	1	2.8%	2	5.6%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	41	26.1%	6	3.8%	29	18.5%	11	7.0%	10	6.4%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	12	21.1%	7	12.3%	17	29.8%	4	7.0%	2	3.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	24	35.8%	5	7.5%	26	38.8%	1	1.5%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	11	22.9%	3	6.3%	12	25.0%	4	8.3%	1	2.1%	17	35.4%	48	100.0%
全学	1	20.0%	0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	331	30.3%	113	10.3%	353	32.3%	45	4.1%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし	総計		
350人以上	82	26.9%	34	11.1%	130	42.6%	7	2.3%	9	3.0%	43	14.1%	305	100.0%
200~349人	130	34.9%	42	11.3%	109	29.2%	13	3.5%	11	2.9%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	119	28.7%	37	8.9%	114	27.5%	25	6.0%	17	4.1%	102	24.6%	414	100.0%
総計	331	30.3%	113	10.3%	353	32.3%	45	4.1%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	学部全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
55.0以上	37	18.0%	6	2.9%	88	42.9%	17	8.3%	5	2.4%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	103	28.1%	39	10.6%	125	34.1%	6	1.6%	15	4.1%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	190	36.9%	68	13.2%	136	26.4%	22	4.3%	17	3.3%	82	15.9%	515	100.0%
総計	330	30.4%	113	10.4%	349	32.1%	45	4.1%	37	3.4%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
国立	41	19.8%	23	11.1%	84	40.6%	11	5.3%	9	4.3%	39	18.8%	207	100.0%
公立	27	32.9%	2	2.4%	19	23.2%	4	4.9%	4	4.9%	26	31.7%	82	100.0%
私立	263	32.8%	88	11.0%	250	31.1%	30	3.7%	24	3.0%	148	18.4%	803	100.0%
総計	331	30.3%	113	10.3%	353	32.3%	45	4.1%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

初年次ゼミ内で【日本語表現としてのレポートの書き方】を「学部全講座で必須」としているのは、学系別では経済・経営・商学部系が41.3%、法・政治学部系が39.2%と高いのに対して、理学部系が6.7%、工学部系が19.1%と低いのが特徴的である。

規模別では中規模が34.9%と、小規模28.7%、大規模26.9%よりも高く、難易度別では[45.0未満]の難易度グループ36.9%、[45.0～54.9]の難易度28.1%、[55.0以上]の難易度18.0%と、難易度が高くなるに従って約10%ずつ減少していく。

設立区分別では、国立大学が19.8%と、私立32.8%、公立32.9%よりも際立って少ない。

■アカデミックスキルとしてのレポートの書き方

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【アカデミックスキルとしてのレポートの書き方】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
文・人文	79	36.6%	38	17.6%	57	26.4%	3	1.4%	5	2.3%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	28	35.4%	11	13.9%	31	39.2%	1	1.3%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	21	41.2%	4	7.8%	23	45.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	63	36.6%	6	3.5%	84	48.8%	4	2.3%	5	2.9%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	9	32.1%	5	17.9%	9	32.1%	0	0.0%	1	3.6%	4	14.3%	28	100.0%
理	3	6.7%	4	8.9%	23	51.1%	3	6.7%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	24	18.3%	19	14.5%	40	30.5%	7	5.3%	9	6.9%	32	24.4%	131	100.0%
農	13	36.1%	3	8.3%	9	25.0%	1	2.8%	2	5.6%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	42	26.8%	4	2.5%	32	20.4%	10	6.4%	9	5.7%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	12	21.1%	7	12.3%	19	33.3%	1	1.8%	3	5.3%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	23	34.3%	3	4.5%	29	43.3%	2	3.0%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	8	16.7%	2	4.2%	13	27.1%	6	12.5%	2	4.2%	17	35.4%	48	100.0%
全学	2	40.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	327	29.9%	106	9.7%	371	34.0%	38	3.5%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
350人以上	87	28.5%	32	10.5%	128	42.0%	6	2.0%	9	3.0%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	116	31.1%	37	9.9%	126	33.8%	14	3.8%	12	3.2%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	124	30.0%	37	8.9%	117	28.3%	18	4.3%	16	3.9%	102	24.6%	414	100.0%
総計	327	29.9%	106	9.7%	371	34.0%	38	3.5%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	学部全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
55.0以上	46	22.4%	9	4.4%	82	40.0%	11	5.4%	5	2.4%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	105	28.6%	35	9.5%	127	34.6%	6	1.6%	15	4.1%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	174	33.8%	62	12.0%	160	31.1%	21	4.1%	16	3.1%	82	15.9%	515	100.0%
総計	325	29.9%	106	9.8%	369	33.9%	38	3.5%	36	3.3%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
国立	42	20.3%	23	11.1%	83	40.1%	11	5.3%	9	4.3%	39	18.8%	207	100.0%
公立	31	37.8%	1	1.2%	18	22.0%	2	2.4%	4	4.9%	26	31.7%	82	100.0%
私立	254	31.6%	82	10.2%	270	33.6%	25	3.1%	24	3.0%	148	18.4%	803	100.0%
総計	327	29.9%	106	9.7%	371	34.0%	38	3.5%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

全体を通して、学系別、規模別、難易度別、設立区分別ともに【日本語表現としてのレポートの書き方】と大差ない結果となった。

■ 図書館の使い方

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【図書館の使い方】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
文・人文	91	42.1%	29	13.4%	42	19.4%	4	1.9%	16	7.4%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	40	50.6%	9	11.4%	22	27.8%	0	0.0%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	21	41.2%	2	3.9%	22	43.1%	1	2.0%	2	3.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	77	44.8%	3	1.7%	67	39.0%	7	4.1%	8	4.7%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	13	46.4%	2	7.1%	7	25.0%	0	0.0%	2	7.1%	4	14.3%	28	100.0%
理	7	15.6%	5	11.1%	12	26.7%	7	15.6%	2	4.4%	12	26.7%	45	100.0%
工	29	22.1%	10	7.6%	36	27.5%	16	12.2%	8	6.1%	32	24.4%	131	100.0%
農	11	30.6%	4	11.1%	8	22.2%	3	8.3%	2	5.6%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	41	26.1%	4	2.5%	24	15.3%	15	9.6%	13	8.3%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	14	24.6%	8	14.0%	11	19.3%	5	8.8%	4	7.0%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	27	40.3%	6	9.0%	22	32.8%	1	1.5%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	14	29.2%	1	2.1%	11	22.9%	5	10.4%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	2	40.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	387	35.4%	83	7.6%	287	26.3%	64	5.9%	58	5.3%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
350人以上	111	36.4%	22	7.2%	97	31.8%	17	5.6%	15	4.9%	43	14.1%	305	100.0%
200~349人	147	39.4%	22	5.9%	99	26.5%	18	4.8%	19	5.1%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	129	31.2%	39	9.4%	91	22.0%	29	7.0%	24	5.8%	102	24.6%	414	100.0%
総計	387	35.4%	83	7.6%	287	26.3%	64	5.9%	58	5.3%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
55.0以上	53	25.9%	7	3.4%	61	29.8%	20	9.8%	12	5.9%	52	25.4%	205	100.0%
45.0~54.9	131	35.7%	25	6.8%	95	25.9%	18	4.9%	19	5.2%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	201	39.0%	51	9.9%	128	24.9%	26	5.0%	27	5.2%	82	15.9%	515	100.0%
総計	385	35.4%	83	7.6%	284	26.1%	64	5.9%	58	5.3%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
国立	62	30.0%	14	6.8%	61	29.5%	19	9.2%	12	5.8%	39	18.8%	207	100.0%
公立	27	32.9%	1	1.2%	18	22.0%	3	3.7%	7	8.5%	26	31.7%	82	100.0%
私立	298	37.1%	68	8.5%	208	25.9%	42	5.2%	39	4.9%	148	18.4%	803	100.0%
総計	387	35.4%	83	7.6%	287	26.3%	64	5.9%	58	5.3%	213	19.5%	1092	100.0%

全体として見ると、初年次ゼミで【図書館の使い方】を「学部の全講座で必須」としている学部は35.4%、学科により必須としているのが7.6%、教員裁量が26.3%、教育課題としていないが5.9%であった。

学系別では、社会・国際学部系50.6%を筆頭に教育・教員養成学部系46.4%、経済・経営・商学部系44.8%、文・人文学部系42.1%、法・政治学部系41.2%と、文系学部が高い数値を示したのに対し、理系学部が理学部系15.6%、工学部系22.1%、医・歯・薬・保健学部系26.1%と低い数値を示したのが特徴的である。

規模別では小規模学部が最も低い31.2%を示した。

難易度別では[55.0以上]の難易度が25.9%、設立区分別では国立が30.0%と、それぞれ最も低い数値を示した。

■ グループ学習

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【グループ学習】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
文・人文	43	19.9%	16	7.4%	107	49.5%	9	4.2%	7	3.2%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	26	32.9%	5	6.3%	38	48.1%	1	1.3%	1	1.3%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	5	9.8%	0	0.0%	37	72.5%	5	9.8%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	40	23.3%	2	1.2%	112	65.1%	6	3.5%	2	1.2%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	7	25.0%	4	14.3%	12	42.9%	1	3.6%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	3	6.7%	6	13.3%	22	48.9%	2	4.4%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	22	16.8%	27	20.6%	39	29.8%	5	3.8%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	7	19.4%	5	13.9%	13	36.1%	1	2.8%	2	5.6%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	48	30.6%	15	9.6%	27	17.2%	2	1.3%	5	3.2%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	10	17.5%	7	12.3%	20	35.1%	3	5.3%	2	3.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	16	23.9%	8	11.9%	31	46.3%	2	3.0%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	7	14.6%	2	4.2%	14	29.2%	7	14.6%	1	2.1%	17	35.4%	48	100.0%
全学	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	237	21.7%	97	8.9%	474	43.4%	44	4.0%	27	2.5%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	74	24.3%	27	8.9%	147	48.2%	7	2.3%	7	2.3%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	76	20.4%	24	6.4%	176	47.2%	20	5.4%	9	2.4%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	87	21.0%	46	11.1%	151	36.5%	17	4.1%	11	2.7%	102	24.6%	414	100.0%
総計	237	21.7%	97	8.9%	474	43.4%	44	4.0%	27	2.5%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	34	16.6%	14	6.8%	94	45.9%	8	3.9%	3	1.5%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	82	22.3%	34	9.3%	155	42.2%	10	2.7%	7	1.9%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	118	22.9%	49	9.5%	223	43.3%	26	5.0%	17	3.3%	82	15.9%	515	100.0%
総計	234	21.5%	97	8.9%	472	43.4%	44	4.0%	27	2.5%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	34	16.4%	27	13.0%	97	46.9%	8	3.9%	2	1.0%	39	18.8%	207	100.0%
公立	15	18.3%	3	3.7%	30	36.6%	4	4.9%	4	4.9%	26	31.7%	82	100.0%
私立	188	23.4%	67	8.3%	347	43.2%	32	4.0%	21	2.6%	148	18.4%	803	100.0%
総計	237	21.7%	97	8.9%	474	43.4%	44	4.0%	27	2.5%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、初年次ゼミで【グループ学習】を「学部の全講座で必須」としている学部は21.7%、学科により必須としているのが8.9%、教員裁量が43.4%、教育課題としていないが4.0%だった。学系別では、社会・国際学部系32.9%、医・歯・薬・保健学部系30.6%と高かったのに対し、理工学部系6.7%、法・政治学部系9.8%と大きな差が見られた。

規模別では、大規模学部が24.3%と最も高いのが特徴的である。

難易度別で見ると、[55.0以上]の難易度が16.6%と低く、[45.0～54.9]の難易度22.3%、[45.0未満]の難易度22.9%と高くなっている。

設立区分別では私立が23.4%と高く、公立18.3%、国立16.4%と低くなっている。

■ ディベート

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【ディベート】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	23	10.6%	14	6.5%	122	56.5%	16	7.4%	7	3.2%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	17	21.5%	4	5.1%	44	55.7%	5	6.3%	1	1.3%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	7	13.7%	0	0.0%	39	76.5%	1	2.0%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	31	18.0%	1	0.6%	114	66.3%	15	8.7%	1	0.6%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	5	17.9%	4	14.3%	15	53.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	2	4.4%	4	8.9%	24	53.3%	3	6.7%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	15	11.5%	13	9.9%	51	38.9%	14	10.7%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	10	27.8%	5	13.9%	11	30.6%	0	0.0%	2	5.6%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	24	15.3%	6	3.8%	44	28.0%	16	10.2%	7	4.5%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	7	12.3%	3	5.3%	23	40.4%	6	10.5%	3	5.3%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	7	10.4%	5	7.5%	42	62.7%	3	4.5%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	6	12.5%	1	2.1%	17	35.4%	7	14.6%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	157	14.4%	60	5.5%	548	50.2%	86	7.9%	28	2.6%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	51	16.7%	19	6.2%	161	52.8%	23	7.5%	8	2.6%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	44	11.8%	17	4.6%	202	54.2%	34	9.1%	8	2.1%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	62	15.0%	24	5.8%	185	44.7%	29	7.0%	12	2.9%	102	24.6%	414	100.0%
総計	157	14.4%	60	5.5%	548	50.2%	86	7.9%	28	2.6%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	24	11.7%	10	4.9%	104	50.7%	12	5.9%	3	1.5%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	52	14.2%	22	6.0%	181	49.3%	26	7.1%	7	1.9%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	78	15.1%	28	5.4%	261	50.7%	48	9.3%	18	3.5%	82	15.9%	515	100.0%
総計	154	14.2%	60	5.5%	546	50.2%	86	7.9%	28	2.6%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	23	11.1%	16	7.7%	114	55.1%	12	5.8%	3	1.4%	39	18.8%	207	100.0%
公立	11	13.4%	1	1.2%	33	40.2%	7	8.5%	4	4.9%	26	31.7%	82	100.0%
私立	123	15.3%	43	5.4%	401	49.9%	67	8.3%	21	2.6%	148	18.4%	803	100.0%
総計	157	14.4%	60	5.5%	548	50.2%	86	7.9%	28	2.6%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、初年次ゼミで【ディベート】を「学部の全講座で必須」としているのが14.4%、「学科により必須」としているのが5.5%、「教員裁量」が50.2%、「教育課題としていない」が7.9%であった。

学系別では、農学部系が 27.8%、社会・国際学部系が 21.5%と高く、理学部系 4.4%が突出して低い。

規模別では、大規模学部 16.7%、小規模 15.0%、中規模 11.8%の順となった。

難易度別では、[45.0 未満]の難易度 15.1%、[45.0～54.9]の難易度 14.2%、[55.0 以上]の難易度 11.7%の順に並んだ。

設立区分別では、私立 15.3%、公立 13.4%、国立 11.1%の順であった。

■フィールドワーク

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【フィールドワーク】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	16	7.4%	16	7.4%	104	48.1%	39	18.1%	7	3.2%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	6	7.6%	8	10.1%	48	60.8%	9	11.4%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	0	0.0%	2	3.9%	37	72.5%	9	17.6%	0	0.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	15	8.7%	2	1.2%	119	69.2%	24	14.0%	2	1.2%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	2	7.1%	18	64.3%	1	3.6%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	1	2.2%	2	4.4%	18	40.0%	11	24.4%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	9	6.9%	16	12.2%	52	39.7%	16	12.2%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	2	5.6%	5	13.9%	19	52.8%	1	2.8%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	12	7.6%	6	3.8%	42	26.8%	26	16.6%	11	7.0%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	4	7.0%	6	10.5%	16	28.1%	12	21.1%	4	7.0%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	5	7.5%	3	4.5%	41	61.2%	8	11.9%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	4	8.3%	2	4.2%	16	33.3%	8	16.7%	1	2.1%	17	35.4%	48	100.0%
全学	1	20.0%	0	0.0%	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	78	7.1%	70	6.4%	533	48.8%	165	15.1%	33	3.0%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	19	6.2%	21	6.9%	166	54.4%	46	15.1%	10	3.3%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	26	7.0%	28	7.5%	195	52.3%	46	12.3%	10	2.7%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	33	8.0%	21	5.1%	172	41.5%	73	17.6%	13	3.1%	102	24.6%	414	100.0%
総計	78	7.1%	70	6.4%	533	48.8%	165	15.1%	33	3.0%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	7	3.4%	7	3.4%	110	53.7%	25	12.2%	4	2.0%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	18	4.9%	26	7.1%	180	49.0%	54	14.7%	10	2.7%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	52	10.1%	37	7.2%	240	46.6%	85	16.5%	19	3.7%	82	15.9%	515	100.0%
総計	77	7.1%	70	6.4%	530	48.8%	164	15.1%	33	3.0%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	8	3.9%	17	8.2%	119	57.5%	23	11.1%	1	0.5%	39	18.8%	207	100.0%
公立	4	4.9%		0.0%	37	45.1%	10	12.2%	5	6.1%	26	31.7%	82	100.0%
私立	66	8.2%	53	6.6%	377	46.9%	132	16.4%	27	3.4%	148	18.4%	803	100.0%
総計	78	7.1%	70	6.4%	533	48.8%	165	15.1%	33	3.0%	213	19.5%	1092	100.0%

全体では、初年次ゼミで【フィールドワーク】を学部の「学部の全講座で必須」としているのが 7.1%、「学科により必須」としているのが 6.4%、「教員裁量」が 48.8%、「教育課題としていない」が、15.1%であった。

学系別では、教育・教員養成学部系が 10.7%、経済・経営・商学部系が 8.7%と高い数値を示したのに対して、法・政治学部系が 0.0%、理学部系が 2.2%と低いのが特徴的である。

規模別では、有意な差が見られず、難易度別では[45.0 未満]の難易度が 10.1%と突出して高く、[45.0～54.9]の難易度 4.9%、[55.0 以上]の難易度 3.4%と難易度が低いほど実施率が高かった。

設立区分別では、私立が 8.2%と比較的高く、以下公立 4.9%、国立 3.9%の順となった。

■プレゼンテーション

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【プレゼンテーション】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
文・人文	61	28.2%	29	13.4%	80	37.0%	7	3.2%	5	2.3%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	25	31.6%	11	13.9%	35	44.3%	0	0.0%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	9	17.6%	3	5.9%	35	68.6%	0	0.0%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	57	33.1%	4	2.3%	95	55.2%	5	2.9%	1	0.6%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	8	28.6%	7	25.0%	9	32.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	2	4.4%	9	20.0%	21	46.7%	1	2.2%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	22	16.8%	27	20.6%	40	30.5%	4	3.1%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	12	33.3%	5	13.9%	9	25.0%	1	2.8%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	47	29.9%	14	8.9%	29	18.5%	1	0.6%	6	3.8%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	10	17.5%	7	12.3%	21	36.8%	2	3.5%	2	3.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	26	38.8%	5	7.5%	23	34.3%	2	3.0%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	8	16.7%	5	10.4%	16	33.3%	2	4.2%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	290	26.6%	126	11.5%	415	38.0%	25	2.3%	23	2.1%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
350人以上	81	26.6%	35	11.5%	136	44.6%	4	1.3%	6	2.0%	43	14.1%	305	100.0%
200~349人	103	27.6%	45	12.1%	140	37.5%	10	2.7%	7	1.9%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	106	25.6%	46	11.1%	139	33.6%	11	2.7%	10	2.4%	102	24.6%	414	100.0%
総計	290	26.6%	126	11.5%	415	38.0%	25	2.3%	23	2.1%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
55.0以上	47	22.9%	14	6.8%	84	41.0%	6	2.9%	2	1.0%	52	25.4%	205	100.0%
45.0~54.9	96	26.2%	47	12.8%	134	36.5%	5	1.4%	6	1.6%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	144	28.0%	65	12.6%	195	37.9%	14	2.7%	15	2.9%	82	15.9%	515	100.0%
総計	287	26.4%	126	11.6%	413	38.0%	25	2.3%	23	2.1%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
国立	48	23.2%	35	16.9%	79	38.2%	5	2.4%	1	0.5%	39	18.8%	207	100.0%
公立	22	26.8%	3	3.7%	27	32.9%	1	1.2%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	220	27.4%	88	11.0%	309	38.5%	19	2.4%	19	2.4%	148	18.4%	803	100.0%
総計	290	26.6%	126	11.5%	415	38.0%	25	2.3%	23	2.1%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、初年次ゼミで【プレゼンテーション】を「学部の全講座で必須」としている学系は、全体の26.6%、「学科により必須」が11.5%、「教員裁量」が38.0%、「教育課題としてない」が2.3%である。

学系別で見ると、総合・環境・人間・情報学系系38.8%、農学系系33.3%、経済・経営・商学系系33.1%、社会・国際学系系31.6%と高い数値を示し、芸術・体育学系系16.7%、工学部系16.8%、法・政治学系系17.6%と続く。なお、理学部系は4.4%と極端に低かった。

規模別では有意な差が見られず、難易度別では[45.0未満]の難易度が28.0%と高く、以下、[45.0~54.9]の難易度が26.2%、[55.0以上]の難易度が22.9%と難易度が低い順に並んだ。

設立区分別では、国立が23.2%と低く、公立は26.8%、私立は27.4%と、ほぼ同率であった。

■レポート提出

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【レポート提出】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で 必須		学科により全講座 で必須		教員裁量		教育課題として いない		不明		初年次ゼミの設定 なし	総計		
文・人文	87	40.3%	32	14.8%	61	28.2%	0	0.0%	2	0.9%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	33	41.8%	11	13.9%	26	32.9%	0	0.0%	1	1.3%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	16	31.4%	3	5.9%	29	56.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	66	38.4%	5	2.9%	89	51.7%	1	0.6%	1	0.6%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	8	28.6%	6	21.4%	10	35.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	6	13.3%	8	17.8%	18	40.0%	1	2.2%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	33	25.2%	19	14.5%	38	29.0%	3	2.3%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	15	41.7%	5	13.9%	7	19.4%	0	0.0%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	49	31.2%	11	7.0%	28	17.8%	4	2.5%	5	3.2%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	17	29.8%	11	19.3%	12	21.1%	1	1.8%	1	1.8%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	25	37.3%	4	6.0%	27	40.3%	1	1.5%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	11	22.9%	4	8.3%	14	29.2%	2	4.2%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	369	33.8%	119	10.9%	361	33.1%	13	1.2%	17	1.6%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	97	31.8%	30	9.8%	129	42.3%	1	0.3%	5	1.6%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	134	35.9%	37	9.9%	125	33.5%	3	0.8%	6	1.6%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	138	33.3%	52	12.6%	107	25.8%	9	2.2%	6	1.4%	102	24.6%	414	100.0%
総計	369	33.8%	119	10.9%	361	33.1%	13	1.2%	17	1.6%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	51	24.9%	17	8.3%	76	37.1%	6	2.9%	3	1.5%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	116	31.6%	45	12.3%	122	33.2%	1	0.3%	4	1.1%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	199	38.6%	57	11.1%	161	31.3%	6	1.2%	10	1.9%	82	15.9%	515	100.0%
総計	366	33.7%	119	10.9%	359	33.0%	13	1.2%	17	1.6%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	56	27.1%	27	13.0%	80	38.6%	3	1.4%	2	1.0%	39	18.8%	207	100.0%
公立	32	39.0%	3	3.7%	17	20.7%	1	1.2%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	281	35.0%	89	11.1%	264	32.9%	9	1.1%	12	1.5%	148	18.4%	803	100.0%
総計	369	33.8%	119	10.9%	361	33.1%	13	1.2%	17	1.6%	213	19.5%	1092	100.0%

全体で見ると、初年次ゼミで【レポート提出】を「学部の全講座で必須」としている学部は33.8%、「学科により必須」が10.9%、「教員裁量」が33.1%、「教育課題としていない」が1.2%であった。これは、【態度変容】に関する初年次ゼミの項目としては、【図書館利用法】に次ぐ高い比率である。

学系別では、社会・国際学部系が41.8%、農学部系が41.7%、文・人文学部系が40.3%と高い数値を示したのに対し、理学部系は13.3%、芸術・体育学部系22.9%、工学部系25.2%と低い数値を示した。

規模別では、有意な差が見られなかった。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が38.6%と最も高く、以下、[45.0～54.9]の難易度31.6%、[55.0以上]の難易度24.9%と難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、国立が27.1%と低く、以下、私立35.0%、公立39.0%と高くなっている。

■ふり返しシート

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【ふり返しシート】(左数値＝データ件数/右数値＝比率)

学系名称	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	24	11.1%	13	6.0%	110	50.9%	30	13.9%	5	2.3%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	12	15.2%	4	5.1%	43	54.4%	12	15.2%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	4	7.8%	0	0.0%	31	60.8%	13	25.5%	0	0.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	30	17.4%	1	0.6%	98	57.0%	31	18.0%	2	1.2%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	2	7.1%	17	60.7%	1	3.6%	1	3.6%	4	14.3%	28	100.0%
理	2	4.4%	0	0.0%	24	53.3%	7	15.6%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	13	9.9%	12	9.2%	54	41.2%	12	9.2%	8	6.1%	32	24.4%	131	100.0%
農	5	13.9%	1	2.8%	15	41.7%	4	11.1%	3	8.3%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	26	16.6%	7	4.5%	34	21.7%	22	14.0%	8	5.1%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	3	5.3%	3	5.3%	20	35.1%	13	22.8%	3	5.3%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	10	14.9%	4	6.0%	34	50.7%	7	10.4%	2	3.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	3	6.3%	2	4.2%	17	35.4%	9	18.8%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	2	40.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	137	12.5%	49	4.5%	500	45.8%	161	14.7%	32	2.9%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	36	11.8%	13	4.3%	162	53.1%	43	14.1%	8	2.6%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	48	12.9%	18	4.8%	175	46.9%	55	14.7%	9	2.4%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	53	12.8%	18	4.3%	163	39.4%	63	15.2%	15	3.6%	102	24.6%	414	100.0%
総計	137	12.5%	49	4.5%	500	45.8%	161	14.7%	32	2.9%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	17	8.3%	4	2.0%	97	47.3%	32	15.6%	3	1.5%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	36	9.8%	18	4.9%	168	45.8%	56	15.3%	10	2.7%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	82	15.9%	27	5.2%	232	45.0%	73	14.2%	19	3.7%	82	15.9%	515	100.0%
総計	135	12.4%	49	4.5%	497	45.7%	161	14.8%	32	2.9%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		教育課題としていない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率
国立	21	10.1%	12	5.8%	107	51.7%	24	11.6%	4	1.9%	39	18.8%	207	100.0%
公立	5	6.1%	0	0.0%	30	36.6%	16	19.5%	5	6.1%	26	31.7%	82	100.0%
私立	111	13.8%	37	4.6%	363	45.2%	121	15.1%	23	2.9%	148	18.4%	803	100.0%
総計	137	12.5%	49	4.5%	500	45.8%	161	14.7%	32	2.9%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、初年次ゼミで【ふり返しシート】を「学部の全講座で必須」として用いている学部は12.5%、「学科により必須」が4.5%、「教員裁量」が45.8%、「教育課題としていない」が14.7%となった。

学系別では、経済・経営・商学部系が17.4%、医・歯・薬・保健学部系が16.6%、社会・国際学部系が15.2%と高い比率を示したのに対し、理学系4.4%、家政・生活科学部系が5.3%、芸術・体育学部系が6.3%、法・政治学部系が7.8%と低い数値を示した。

規模別では、有意な差が見られなかった。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が15.9%と比較的高く、以下、[45.0～54.9]の難易度9.8%、[55.0以上]の難易度8.3%と難易度順に並んだ。

設立区分別では、私立が13.8%と高く、国立10.1%、公立6.1%と続いた。

■ 授業時間外の学習課題

2(9)初年次ゼミの授業内に扱われる項目【授業時間外の学習課題】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		与えないことにしている		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率
文・人文	34	15.7%	21	9.7%	114	52.8%	5	2.3%	8	3.7%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	14	17.7%	8	10.1%	47	59.5%	1	1.3%	1	1.3%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	5	9.8%	0	0.0%	40	78.4%	2	3.9%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	35	20.3%	2	1.2%	117	68.0%	2	1.2%	6	3.5%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	7	25.0%	13	46.4%	0	0.0%	1	3.6%	4	14.3%	28	100.0%
理	2	4.4%	9	20.0%	21	46.7%	1	2.2%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	13	9.9%	12	9.2%	61	46.6%	7	5.3%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	7	19.4%	3	8.3%	16	44.4%	1	2.8%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	22	14.0%	7	4.5%	57	36.3%	7	4.5%	4	2.5%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	5	8.8%	4	7.0%	27	47.4%	4	7.0%	2	3.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	9	13.4%	5	7.5%	42	62.7%	0	0.0%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	5	10.4%	0	0.0%	21	43.8%	5	10.4%	0	0.0%	17	35.4%	48	100.0%
全学	1	20.0%	0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	155	14.2%	78	7.1%	580	53.1%	35	3.2%	31	2.8%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		与えないことにしている		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率
350人以上	42	13.8%	21	6.9%	179	58.7%	11	3.6%	9	3.0%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	54	14.5%	24	6.4%	209	56.0%	9	2.4%	9	2.4%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	59	14.3%	33	8.0%	192	46.4%	15	3.6%	13	3.1%	102	24.6%	414	100.0%
総計	155	14.2%	78	7.1%	580	53.1%	35	3.2%	31	2.8%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		与えないことにしている		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率
55.0以上	23	11.2%	8	3.9%	110	53.7%	8	3.9%	4	2.0%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	52	14.2%	35	9.5%	183	49.9%	7	1.9%	11	3.0%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	79	15.3%	35	6.8%	283	55.0%	20	3.9%	16	3.1%	82	15.9%	515	100.0%
総計	154	14.2%	78	7.2%	576	53.0%	35	3.2%	31	2.9%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	学部の全講座で必須		学科により全講座で必須		教員裁量		与えないことにしている		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率
国立	25	12.1%	22	10.6%	109	52.7%	7	3.4%	5	2.4%	39	18.8%	207	100.0%
公立	12	14.6%	2	2.4%	36	43.9%	3	3.7%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	118	14.7%	54	6.7%	435	54.2%	25	3.1%	23	2.9%	148	18.4%	803	100.0%
総計	155	14.2%	78	7.1%	580	53.1%	35	3.2%	31	2.8%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、初年次ゼミで【授業時間外の学習課題】を「学部の全講座で必須」としているのは14.2%、「学科により必須」が7.1%、「教員裁量」が53.1%、「与えないことにしている」が3.2%である。

学系別に見ると、経済・経営・商学部系20.3%、農学部系が19.4%と高い数値であるのに対して、家政・生活科学部系が8.8%、法・政治学部系が9.8%、理学部系が4.4%と低い数値を示している。

規模別では、有意な差が見られなかった。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が15.3%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度14.2%、[55.0以上]の難易度11.2%と続いた。

設立区分別では、国立が12.1%と若干低く、公立14.6%、私立14.7%とほぼ並んだ。

■ シラバス

2(12)①初年次ゼミで必須とされる項目【シラバス】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	ある(学部共通)		ある(学科共通)		ある(教員ごと)		ない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
文・人文	104	48.1%	45	20.8%	28	13.0%	1	0.5%	4	1.9%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	40	50.6%	15	19.0%	14	17.7%	2	2.5%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	27	52.9%	6	11.8%	10	19.6%	3	5.9%	2	3.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	107	62.2%	13	7.6%	34	19.8%	2	1.2%	6	3.5%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	12	42.9%	8	28.6%	3	10.7%	1	3.6%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	13	28.9%	15	33.3%	3	6.7%	1	2.2%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	44	33.6%	45	34.4%	6	4.6%	0	0.0%	4	3.1%	32	24.4%	131	100.0%
農	16	44.4%	7	19.4%	2	5.6%	0	0.0%	3	8.3%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	63	40.1%	16	10.2%	8	5.1%	4	2.5%	6	3.8%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	17	29.8%	18	31.6%	3	5.3%	1	1.8%	3	5.3%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	38	56.7%	9	13.4%	7	10.4%	2	3.0%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	16	33.3%	8	16.7%	5	10.4%	1	2.1%	1	2.1%	17	35.4%	48	100.0%
全学	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	502	46.0%	205	18.8%	123	11.3%	18	1.6%	31	2.8%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	ある(学部共通)		ある(学科共通)		ある(教員ごと)		ない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
350人以上	143	46.9%	58	19.0%	47	15.4%	5	1.6%	9	3.0%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	182	48.8%	60	16.1%	48	12.9%	4	1.1%	11	2.9%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	177	42.8%	87	21.0%	28	6.8%	9	2.2%	11	2.7%	102	24.6%	414	100.0%
総計	502	46.0%	205	18.8%	123	11.3%	18	1.6%	31	2.8%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	ある(学部共通)		ある(学科共通)		ある(教員ごと)		ない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
55.0以上	81	39.5%	25	12.2%	33	16.1%	4	2.0%	10	4.9%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	157	42.8%	77	21.0%	38	10.4%	8	2.2%	8	2.2%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	259	50.3%	103	20.0%	52	10.1%	6	1.2%	13	2.5%	82	15.9%	515	100.0%
総計	497	45.7%	205	18.9%	123	11.3%	18	1.7%	31	2.9%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	ある(学部共通)		ある(学科共通)		ある(教員ごと)		ない		不明		初年次ゼミの設定 なし		総計	
国立	80	38.6%	56	27.1%	23	11.1%	4	1.9%	5	2.4%	39	18.8%	207	100.0%
公立	34	41.5%	7	8.5%	7	8.5%	2	2.4%	6	7.3%	26	31.7%	82	100.0%
私立	388	48.3%	142	17.7%	93	11.6%	12	1.5%	20	2.5%	148	18.4%	803	100.0%
総計	502	46.0%	205	18.8%	123	11.3%	18	1.6%	31	2.8%	213	19.5%	1092	100.0%

全体では、初年次ゼミの【シラバス】について「学部共通である」が46.0%、「学科共通である」が18.8%、「教員ごと」が11.3%、「ない」が1.6%と、学部共通が最も高かった。

学系別に見ると、初年次ゼミの「学部共通」のシラバスをもつのは、経済・経営・商学部系が62.2%と最も高く、総合・環境・人間・情報学部系が56.7%、法・政治学部系が52.9%、社会・国際学部系が50.6%と続いた。低いのは理学部系28.9%、芸術・体育学部系33.3%、工学部系33.6%であった。ただし、理学部系と工学部系は「学科共通」のシラバスが33.3%、34.4%と高い数値を示した。これは、学科間の壁が高いためと思われる。

規模別では、「学部共通」のシラバスをもつのは中規模が48.8%、大規模46.9%、小規模42.8%となったが、それほど有意な差は見られない。

難易度別では、「学部共通」のシラバスは[45.0未満]の難易度が50.3%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度42.8%、[55.0以上]の難易度39.5%と難易度順に続いている。

設立区分別では、私立48.3%が最も高く、公立41.5%、国立38.6%となった。

■ 共通テキスト

2(12)②初年次ゼミで必須とされる項目【共通テキスト】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
文・人文	56	25.9%	121	56.0%	5	2.3%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	27	34.2%	44	55.7%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	13	25.5%	33	64.7%	2	3.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	56	32.6%	99	57.6%	7	4.1%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	2	7.1%	22	78.6%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	10	22.2%	22	48.9%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	25	19.1%	68	51.9%	6	4.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	6	16.7%	19	52.8%	3	8.3%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	28	17.8%	64	40.8%	5	3.2%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	9	15.8%	28	49.1%	5	8.8%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	18	26.9%	38	56.7%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	10	20.8%	19	39.6%	2	4.2%	17	35.4%	48	100.0%
全学	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	263	24.1%	579	53.0%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
350人以上	80	26.2%	172	56.4%	10	3.3%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	96	25.7%	196	52.5%	13	3.5%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	87	21.0%	211	51.0%	14	3.4%	102	24.6%	414	100.0%
総計	263	24.1%	579	53.0%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
55.0以上	21	10.2%	122	59.5%	10	4.9%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	87	23.7%	195	53.1%	6	1.6%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	152	29.5%	260	50.5%	21	4.1%	82	15.9%	515	100.0%
総計	260	23.9%	577	53.1%	37	3.4%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
国立	27	13.0%	136	65.7%	5	2.4%	39	18.8%	207	100.0%
公立	14	17.1%	38	46.3%	4	4.9%	26	31.7%	82	100.0%
私立	222	27.6%	405	50.4%	28	3.5%	148	18.4%	803	100.0%
総計	263	24.1%	579	53.0%	37	3.4%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、学部共通のテキストが「ある」のが24.1%、「ない」のが53.0%である。

学系別では、高い方から社会・国際学部系が34.2%にあり、経済・経営・商学部系が32.6%にある。一方、低いのは教育・教員養成・総合課程学部系の7.1%で、突出している。

規模別では、大規模が26.2%、中規模が25.7%、小規模が21.0%と、大規模の方が高い数値を示した。これは、内容の統一を図るためには、小規模よりも大規模の方が共通テキストなどに頼らざるを得ないという事情があるのではないかと思われる。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が29.5%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度23.7%、[55.0以上]の難易度10.2%と難易度が低い順に並んでいる。

設立区分別では、私立が27.6%と高く、公立の17.1%、国立の13.0%と大きく差が開いている。

■ ガイドライン

2(12)③初年次ゼミで必須とされる項目【内容のガイドラインまたは共通マニュアル(教員用)】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	ある(全教員必須で使用)		ある(教員ごとの裁量で使用)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	81	37.5%	41	19.0%	53	24.5%	7	3.2%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	24	30.4%	16	20.3%	30	38.0%	1	1.3%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	19	37.3%	10	19.6%	16	31.4%	3	5.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	60	34.9%	49	28.5%	43	25.0%	10	5.8%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	7	25.0%	7	25.0%	10	35.7%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	9	20.0%	9	20.0%	14	31.1%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	29	22.1%	26	19.8%	34	26.0%	10	7.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	9	25.0%	7	19.4%	9	25.0%	3	8.3%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	40	25.5%	17	10.8%	31	19.7%	9	5.7%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	11	19.3%	6	10.5%	19	33.3%	6	10.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	20	29.9%	12	17.9%	24	35.8%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	14	29.2%	10	20.8%	6	12.5%	1	2.1%	17	35.4%	48	100.0%
全学	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	327	29.9%	210	19.2%	290	26.6%	52	4.8%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	ある(全教員必須で使用)		ある(教員ごとの裁量で使用)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	90	29.5%	71	23.3%	86	28.2%	15	4.9%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	114	30.6%	76	20.4%	98	26.3%	17	4.6%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	123	29.7%	63	15.2%	106	25.6%	20	4.8%	102	24.6%	414	100.0%
総計	327	29.9%	210	19.2%	290	26.6%	52	4.8%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	ある(全教員必須で使用)		ある(教員ごとの裁量で使用)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	43	21.0%	38	18.5%	61	29.8%	11	5.4%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	101	27.5%	78	21.3%	90	24.5%	19	5.2%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	179	34.8%	94	18.3%	138	26.8%	22	4.3%	82	15.9%	515	100.0%
総計	323	29.7%	210	19.3%	289	26.6%	52	4.8%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	ある(全教員必須で使用)		ある(教員ごとの裁量で使用)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	55	26.6%	41	19.8%	63	30.4%	9	4.3%	39	18.8%	207	100.0%
公立	20	24.4%	14	17.1%	19	23.2%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	252	31.4%	155	19.3%	208	25.9%	40	5.0%	148	18.4%	803	100.0%
総計	327	29.9%	210	19.2%	290	26.6%	52	4.8%	213	19.5%	1092	100.0%

全体では、教員用の【内容のガイドラインまたは共通マニュアル】が「ある(全教員必須で使用)」が29.9%、「ある(教員ごとの裁量で使用)」が19.2%、「ない」が26.6%であった。

学系別では、文・人文学部系が37.5%、社会・国際学部系が37.3%と高く、家政・生活科学部系が19.3%、理学部系が20.0%、工学部系が22.1%と低い。

規模別では、有意な差が見られなかった。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が34.8%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度27.5%、[55.0以上]の難易度21.0%と難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、私立が31.4%と最も高く、国立26.6%、公立24.4%と続いている。

■FD 研修

2(12)④初年次ゼミで必須とされる項目【平準化・質の向上のためのFD研修】(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	ある(担当の全教員に参加が義務付けられている)		ある(新任の全教員に参加が義務付けられている)		ある(自由参加)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	40	18.5%	3	1.4%	40	18.5%	91	42.1%	8	3.7%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	21	26.6%	1	1.3%	14	17.7%	35	44.3%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	9	17.6%	0	0.0%	14	27.5%	22	43.1%	3	5.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	48	27.9%	3	1.7%	35	20.3%	70	40.7%	6	3.5%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	3	10.7%	7	25.0%	11	39.3%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	3	6.7%	1	2.2%	9	20.0%	19	42.2%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	15	11.5%	6	4.6%	23	17.6%	51	38.9%	4	3.1%	32	24.4%	131	100.0%
農	3	8.3%	1	2.8%	9	25.0%	10	27.8%	5	13.9%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	25	15.9%	4	2.5%	20	12.7%	42	26.8%	6	3.8%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	6	10.5%	2	3.5%	5	8.8%	24	42.1%	5	8.8%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	16	23.9%	1	1.5%	12	17.9%	27	40.3%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	9	18.8%	1	2.1%	6	12.5%	13	27.1%	2	4.2%	17	35.4%	48	100.0%
全学	1	20.0%	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	199	18.2%	27	2.5%	197	18.0%	415	38.0%	41	3.8%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	ある(担当の全教員に参加が義務付けられている)		ある(新任の全教員に参加が義務付けられている)		ある(自由参加)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	52	17.0%	6	2.0%	71	23.3%	123	40.3%	10	3.3%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	72	19.3%	13	3.5%	61	16.4%	142	38.1%	17	4.6%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	75	18.1%	8	1.9%	65	15.7%	150	36.2%	14	3.4%	102	24.6%	414	100.0%
総計	199	18.2%	27	2.5%	197	18.0%	415	38.0%	41	3.8%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	ある(担当の全教員に参加が義務付けられている)		ある(新任の全教員に参加が義務付けられている)		ある(自由参加)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	32	15.6%	7	3.4%	29	14.1%	72	35.1%	13	6.3%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	52	14.2%	10	2.7%	75	20.4%	144	39.2%	7	1.9%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	114	22.1%	9	1.7%	90	17.5%	199	38.6%	21	4.1%	82	15.9%	515	100.0%
総計	198	18.2%	26	2.4%	194	17.8%	415	38.2%	41	3.8%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	ある(担当の全教員に参加が義務付けられている)		ある(新任の全教員に参加が義務付けられている)		ある(自由参加)		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	32	15.5%	12	5.8%	47	22.7%	67	32.4%	10	4.8%	39	18.8%	207	100.0%
公立	13	15.9%	0	0.0%	16	19.5%	24	29.3%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	154	19.2%	15	1.9%	134	16.7%	324	40.3%	28	3.5%	148	18.4%	803	100.0%
総計	199	18.2%	27	2.5%	197	18.0%	415	38.0%	41	3.8%	213	19.5%	1092	100.0%

全体では、「ある(全員参加義務付け)」が 18.2%、「ある(新任の全教員に参加義務付け)」が 2.5%、「ある(自由参加)」が 18.0%、「ない」が 38.0%となった。

「ある(全員参加義務付け)」については、学系別では経済・経営・商学部系が 27.9%、社会・国際学部系が 26.6%と高く、理学部系が 6.7%、農学部系が 8.3%、家政・生活科学部系が 10.5%、教育・教員養成・総合課程学部系が 10.7%と低い。なお、工学部も 11.5%であり、理学部系、工学部系、農学部系とも、理学部系が低い点が注目される。

規模別では、有意な差は見られなかった。

難易度別では、[45.0 未満]の難易度が 22.1%と高く、続いて[55.0 以上]の難易度 15.6%、[45.0～54.9]の難易度 14.2%と、ここだけは[55.0 以上]の難易度と[45.0～54.9]の難易度の順位が僅差で逆転しているものの、[45.0 未満]の難易度が最も高い点は他の項目と同様であった。

設立区分別では、私立が 19.2%と最も高く、公立(15.9%)と国立(15.5%)はほぼ同じである。

■コーディネータ制度

2(12)④初年次ゼミで必須とされる項目【コーディネータ制度】(左数値＝データ件数/右数値＝比率)

学系名称	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
文・人文	59	27.3%	116	53.7%	7	3.2%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	23	29.1%	48	60.8%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	17	33.3%	30	58.8%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	51	29.7%	104	60.5%	7	4.1%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	6	21.4%	17	60.7%	1	3.6%	4	14.3%	28	100.0%
理	9	20.0%	23	51.1%	1	2.2%	12	26.7%	45	100.0%
工	25	19.1%	69	52.7%	5	3.8%	32	24.4%	131	100.0%
農	9	25.0%	17	47.2%	2	5.6%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	44	28.0%	44	28.0%	9	5.7%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	10	17.5%	28	49.1%	4	7.0%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	23	34.3%	34	50.7%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	10	20.8%	19	39.6%	2	4.2%	17	35.4%	48	100.0%
全学	2	40.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	288	26.4%	552	50.5%	39	3.6%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
350人以上	61	20.0%	188	61.6%	13	4.3%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	109	29.2%	185	49.6%	11	2.9%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	118	28.5%	179	43.2%	15	3.6%	102	24.6%	414	100.0%
総計	288	26.4%	552	50.5%	39	3.6%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
55.0以上	41	20.0%	102	49.8%	10	4.9%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	93	25.3%	182	49.6%	13	3.5%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	152	29.5%	265	51.5%	16	3.1%	82	15.9%	515	100.0%
総計	286	26.3%	549	50.5%	39	3.6%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	ある		ない		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
国立	47	22.7%	114	55.1%	7	3.4%	39	18.8%	207	100.0%
公立	17	20.7%	36	43.9%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	224	27.9%	402	50.1%	29	3.6%	148	18.4%	803	100.0%
総計	288	26.4%	552	50.5%	39	3.6%	213	19.5%	1092	100.0%

【コーディネータ制度】については、全体では、「ある」が26.4%、「ない」が50.5%であった。学系別で見ると、総合・環境・人間・情報学部系が34.3%、法・政治学部系が33.3%と高く、家政・生活科学部系が17.5%、工学部系19.1%と低い。

規模別では中規模が29.2%、小規模が28.5%と高く、大規模は20.0%と低い。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が29.5%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度25.3%、[55.0以上]の難易度20.0%と難易度の低い順に並ぶ。

設立区分別では、私立が27.9%と最も高く、国立の22.7%、公立の20.7%と続いている。

■初年次ゼミの提供組織

2(13)初年次ゼミの提供組織(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	自学部ですべて提供		学部でない組織が提供		学部と学部でない組織との両方で提供		その他		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	134	62.0%	17	7.9%	16	7.4%	11	5.1%	4	1.9%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	58	73.4%	4	5.1%	7	8.9%	2	2.5%	0	0.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	42	82.4%	3	5.9%	2	3.9%	0	0.0%	1	2.0%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	132	76.7%	10	5.8%	13	7.6%	5	2.9%	2	1.2%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	16	57.1%	5	17.9%	3	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%	28	100.0%
理	20	44.4%	6	13.3%	4	8.9%	3	6.7%	0	0.0%	12	26.7%	45	100.0%
工	51	38.9%	17	13.0%	10	7.6%	14	10.7%	7	5.3%	32	24.4%	131	100.0%
農	14	38.9%	4	11.1%	3	8.3%	6	16.7%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	64	40.8%	9	5.7%	12	7.6%	5	3.2%	7	4.5%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	34	59.6%	0	0.0%	1	1.8%	5	8.8%	2	3.5%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	43	64.2%	8	11.9%	3	4.5%	2	3.0%	1	1.5%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	22	45.8%	1	2.1%	4	8.3%	2	4.2%	2	4.2%	17	35.4%	48	100.0%
全学	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	631	57.8%	85	7.8%	79	7.2%	57	5.2%	27	2.5%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	自学部ですべて提供		学部でない組織が提供		学部と学部でない組織との両方で提供		その他		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	179	58.7%	28	9.2%	28	9.2%	20	6.6%	7	2.3%	43	14.1%	305	100.0%
200~349人	230	61.7%	32	8.6%	24	6.4%	13	3.5%	6	1.6%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	222	53.6%	25	6.0%	27	6.5%	24	5.8%	14	3.4%	102	24.6%	414	100.0%
総計	631	57.8%	85	7.8%	79	7.2%	57	5.2%	27	2.5%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	自学部ですべて提供		学部でない組織が提供		学部と学部でない組織との両方で提供		その他		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	114	55.6%	14	6.8%	12	5.9%	9	4.4%	4	2.0%	52	25.4%	205	100.0%
45.0~54.9	209	56.9%	32	8.7%	24	6.5%	19	5.2%	4	1.1%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	307	59.6%	38	7.4%	42	8.2%	27	5.2%	19	3.7%	82	15.9%	515	100.0%
総計	630	58.0%	84	7.7%	78	7.2%	55	5.1%	27	2.5%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	自学部ですべて提供		学部でない組織が提供		学部と学部でない組織との両方で提供		その他		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	109	52.7%	30	14.5%	16	7.7%	12	5.8%	1	0.5%	39	18.8%	207	100.0%
公立	38	46.3%	1	1.2%	5	6.1%	9	11.0%	3	3.7%	26	31.7%	82	100.0%
私立	484	60.3%	54	6.7%	58	7.2%	36	4.5%	23	2.9%	148	18.4%	803	100.0%
総計	631	57.8%	85	7.8%	79	7.2%	57	5.2%	27	2.5%	213	19.5%	1092	100.0%

全体では、「自学部ですべて提供」が57.8%と最も多く、「学部でない組織が提供」が7.8%、「学部と学部でない組織との両方で提供」が7.2%、その他が5.2%となった。

学系別では、「自学部ですべて提供」しているのが、法・政治学部系が82.4%、経済・経営・商学部系が76.7%、社会・国際学部系が73.4%と高く、工学部系と農学部系がともに38.9%と低い数値を示した。

規模別、難易度別では、有意な差はないように思われる。

設立区分別では、「自学部ですべて提供」は私立が60.3%と最も高く、国立52.7%、公立46.3%と続いた。逆に学部でない組織が提供しているのは国立14.5%であり、私立6.7%、公立1.2%を大きく上回っている。

■初年次教育における先輩学生の活用【オリエンテーション】

3(1)初年次教育における先輩学生の活用【オリエンテーション】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	活用している		活用していない		不明		総計	
文・人文	96	44.4%	96	44.4%	24	11.1%	216	100.0%
社会・国際	37	46.8%	34	43.0%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	12	23.5%	35	68.6%	4	7.8%	51	100.0%
経済・経営・商	57	33.1%	106	61.6%	9	5.2%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	9	32.1%	18	64.3%	1	3.6%	28	100.0%
理	14	31.1%	26	57.8%	5	11.1%	45	100.0%
工	45	34.4%	67	51.1%	19	14.5%	131	100.0%
農	8	22.2%	23	63.9%	5	13.9%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	52	33.1%	79	50.3%	26	16.6%	157	100.0%
家政・生活科学	21	36.8%	26	45.6%	10	17.5%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	32	47.8%	31	46.3%	4	6.0%	67	100.0%
芸術・体育・他	17	35.4%	24	50.0%	7	14.6%	48	100.0%
全学	0	0.0%	3	60.0%	2	40.0%	5	100.0%
総計	400	36.6%	568	52.0%	124	11.4%	1092	100.0%

1年生の定員	活用している		活用していない		不明		総計	
350人以上	91	29.8%	186	61.0%	28	9.2%	305	100.0%
200～349人	151	40.5%	172	46.1%	50	13.4%	373	100.0%
200人未満	158	38.2%	210	50.7%	46	11.1%	414	100.0%
総計	400	36.6%	568	52.0%	124	11.4%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	活用している		活用していない		不明		総計	
55.0以上	51	24.9%	130	63.4%	24	11.7%	205	100.0%
45.0～54.9	128	34.9%	195	53.1%	44	12.0%	367	100.0%
45.0未満	221	42.9%	240	46.6%	54	10.5%	515	100.0%
総計	400	36.8%	565	52.0%	122	11.2%	1087	100.0%

設立区分	活用している		活用していない		不明		総計	
国立	62	30.0%	127	61.4%	18	8.7%	207	100.0%
公立	22	26.8%	41	50.0%	19	23.2%	82	100.0%
私立	316	39.4%	400	49.8%	87	10.8%	803	100.0%
総計	400	36.6%	568	52.0%	124	11.4%	1092	100.0%

全体的に見ると、【オリエンテーション】で先輩学生を「活用していない」が52.0%で、「活用している」の36.6%を上回った。

学系別では、総合・環境・人間・情報学部系47.8%、社会・国際学部系46.8%、文・人文学部系44.4%が活用している比率が高く、農学部系が22.2%、法・政治学部系が23.5%と低い。

規模別では、中規模40.5%、小規模38.2%、大規模29.8%の順となった。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が42.9%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度34.9%、[55.0以上]の難易度24.9%と難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、私立が39.4%で最も高く、国立30.0%、公立26.8%となった。

■初年次教育における先輩学生の活用【履修指導・相談】

3(1)初年次教育における先輩学生の活用【履修指導・相談】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	活用している		活用していない		不明		総計	
文・人文	72	33.3%	116	53.7%	28	13.0%	216	100.0%
社会・国際	20	25.3%	50	63.3%	9	11.4%	79	100.0%
法・政治	14	27.5%	33	64.7%	4	7.8%	51	100.0%
経済・経営・商	47	27.3%	113	65.7%	12	7.0%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	10	35.7%	16	57.1%	2	7.1%	28	100.0%
理	9	20.0%	29	64.4%	7	15.6%	45	100.0%
工	24	18.3%	87	66.4%	20	15.3%	131	100.0%
農	6	16.7%	25	69.4%	5	13.9%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	25	15.9%	100	63.7%	32	20.4%	157	100.0%
家政・生活科学	11	19.3%	36	63.2%	10	17.5%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	23	34.3%	38	56.7%	6	9.0%	67	100.0%
芸術・体育・他	8	16.7%	31	64.6%	9	18.8%	48	100.0%
全学	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%	5	100.0%
総計	270	24.7%	677	62.0%	145	13.3%	1092	100.0%

1年生の定員	活用している		活用していない		不明		総計	
350人以上	67	22.0%	210	68.9%	28	9.2%	305	100.0%
200～349人	107	28.7%	207	55.5%	59	15.8%	373	100.0%
200人未満	96	23.2%	260	62.8%	58	14.0%	414	100.0%
総計	270	24.7%	677	62.0%	145	13.3%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	活用している		活用していない		不明		総計	
55.0以上	45	22.0%	133	64.9%	27	13.2%	205	100.0%
45.0～54.9	90	24.5%	227	61.9%	50	13.6%	367	100.0%
45.0未満	134	26.0%	314	61.0%	67	13.0%	515	100.0%
総計	269	24.7%	674	62.0%	144	13.2%	1087	100.0%

設立区分	活用している		活用していない		不明		総計	
国立	55	26.6%	130	62.8%	22	10.6%	207	100.0%
公立	12	14.6%	55	67.1%	15	18.3%	82	100.0%
私立	203	25.3%	492	61.3%	108	13.4%	803	100.0%
総計	270	24.7%	677	62.0%	145	13.3%	1092	100.0%

全体では、【履修指導・相談】に先輩学生を「活用している」のは24.7%にとどまり、「活用していない」は62%に上った。

学系別では、教育・教員養成・総合課程学部系の35.7%、総合・環境・人間・情報学部系の34.3%、文・人文学部系の33.3%が高く、医・歯・薬・保健学部系の15.9%、芸術・体育学部系の16.7%、農学部系の16.7%、工学部系の18.3%が低い。

規模別では、中規模が28.7%と最も高く、小規模23.2%、大規模22.0%と続いている。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が26.0%で最も高く、以下、[45.0～54.9]の難易度24.5%、[55.0以上]の難易度22.0%と、難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、国立の26.6%、私立の25.3%に対して、公立は14.6%と低いのが特徴的である。

■初年次教育における先輩学生の活用【初年次ゼミ】

3(1)初年次教育における先輩学生の活用【初年次ゼミ】(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	活用している		活用していない		教員裁量		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
文・人文	14	6.5%	106	49.1%	44	20.4%	18	8.3%	34	15.7%	216	100.0%
社会・国際	8	10.1%	36	45.6%	18	22.8%	9	11.4%	8	10.1%	79	100.0%
法・政治	2	3.9%	27	52.9%	16	31.4%	3	5.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	14	8.1%	84	48.8%	55	32.0%	9	5.2%	10	5.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	14	50.0%	6	21.4%	1	3.6%	4	14.3%	28	100.0%
理	6	13.3%	16	35.6%	8	17.8%	3	6.7%	12	26.7%	45	100.0%
工	19	14.5%	38	29.0%	32	24.4%	10	7.6%	32	24.4%	131	100.0%
農	3	8.3%	13	36.1%	11	30.6%	1	2.8%	8	22.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	9	5.7%	59	37.6%	19	12.1%	10	6.4%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	3	5.3%	22	38.6%	13	22.8%	4	7.0%	15	26.3%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	6	9.0%	27	40.3%	24	35.8%	0	0.0%	10	14.9%	67	100.0%
芸術・体育・他	4	8.3%	18	37.5%	6	12.5%	3	6.3%	17	35.4%	48	100.0%
全学	1	20.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	92	8.4%	462	42.3%	254	23.3%	71	6.5%	213	19.5%	1092	100.0%

1年生の定員	活用している		活用していない		教員裁量		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
350人以上	32	10.5%	136	44.6%	78	25.6%	16	5.2%	43	14.1%	305	100.0%
200～349人	34	9.1%	149	39.9%	96	25.7%	26	7.0%	68	18.2%	373	100.0%
200人未満	26	6.3%	177	42.8%	80	19.3%	29	7.0%	102	24.6%	414	100.0%
総計	92	8.4%	462	42.3%	254	23.3%	71	6.5%	213	19.5%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	活用している		活用していない		教員裁量		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
55.0以上	16	7.8%	78	38.0%	47	22.9%	12	5.9%	52	25.4%	205	100.0%
45.0～54.9	25	6.8%	167	45.5%	79	21.5%	17	4.6%	79	21.5%	367	100.0%
45.0未満	50	9.7%	215	41.7%	126	24.5%	42	8.2%	82	15.9%	515	100.0%
総計	91	8.4%	460	42.3%	252	23.2%	71	6.5%	213	19.6%	1087	100.0%

設立区分	活用している		活用していない		教員裁量		不明		初年次ゼミの設定なし		総計	
国立	19	9.2%	84	40.6%	59	28.5%	6	2.9%	39	18.8%	207	100.0%
公立	6	7.3%	31	37.8%	11	13.4%	8	9.8%	26	31.7%	82	100.0%
私立	67	8.3%	347	43.2%	184	22.9%	57	7.1%	148	18.4%	803	100.0%
総計	92	8.4%	462	42.3%	254	23.3%	71	6.5%	213	19.5%	1092	100.0%

全体的に見ると、【初年次ゼミ】で先輩学生を「活用している」のは 8.4%にとどまり、「活用していない」の 42.3%、「教員裁量による」の 23.3%を大きく下回った。

学系別では、工学部が 14.5%、理学部が 13.3%と高く、法・政治学部系が 3.9%と低い。

規模別では、大規模が 10.5%と最も高く、中規模の 9.1%、小規模の 6.3%と続く。

難易度別では、[45.0 未満]の難易度が 9.7%と最も高く、[55.0 以上]の難易度の 7.8%、[45.0～54.9]の難易度の 6.8%と続いた。

設立区分別では、国立 9.2%、私立 8.3%、公立 7.3%と大きな差は生じなかった。

■初年次教育の効果測定【学生の授業評価】

4(1)初年次教育の効果測定【学生の授業評価】(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	行っている		行っていない		総計	
文・人文	127	58.8%	89	41.2%	216	100.0%
社会・国際	48	60.8%	31	39.2%	79	100.0%
法・政治	26	51.0%	25	49.0%	51	100.0%
経済・経営・商	89	51.7%	83	48.3%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	18	64.3%	10	35.7%	28	100.0%
理	27	60.0%	18	40.0%	45	100.0%
工	72	55.0%	59	45.0%	131	100.0%
農	23	63.9%	13	36.1%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	69	43.9%	88	56.1%	157	100.0%
家政・生活科学	25	43.9%	32	56.1%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	39	58.2%	28	41.8%	67	100.0%
芸術・体育・他	25	52.1%	23	47.9%	48	100.0%
全学	4	80.0%	1	20.0%	5	100.0%
総計	592	54.2%	500	45.8%	1092	100.0%

1年生の定員	行っている		行っていない		総計	
350人以上	169	55.4%	136	44.6%	305	100.0%
200～349人	202	54.2%	171	45.8%	373	100.0%
200人未満	221	53.4%	193	46.6%	414	100.0%
総計	592	54.2%	500	45.8%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行っている		行っていない		総計	
55.0以上	106	51.7%	99	48.3%	205	100.0%
45.0～54.9	206	56.1%	161	43.9%	367	100.0%
45.0未満	276	53.6%	239	46.4%	515	100.0%
総計	588	54.1%	499	45.9%	1087	100.0%

設立区分	行っている		行っていない		総計	
国立	130	62.8%	77	37.2%	207	100.0%
公立	45	54.9%	37	45.1%	82	100.0%
私立	417	51.9%	386	48.1%	803	100.0%
総計	592	54.2%	500	45.8%	1092	100.0%

全体では、初年次教育の効果測定のために【学生の授業評価】を「行っている」のは54.2%、「行っていない」のは45.8%と分かれた。

学系別では、教育・教員養成・総合課程学部系の64.3%、農学部系の63.9%、社会・国際学部系の60.8%、理学部系の60.0%が高く、医・歯・薬・保健学部系と家政・生活科学部系がともに43.9%と低い。

規模別、難易度別では、有意な差は見られなかった。

設立区分別では、国立が62.8%と、私立の51.9%、公立の54.9%よりも高い数値を示している。

■初年次教育の効果測定【学生調査】

4(1)初年次教育の効果測定【学生調査】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行っている		行っていない		総計	
文・人文	29	13.4%	187	86.6%	216	100.0%
社会・国際	9	11.4%	70	88.6%	79	100.0%
法・政治	7	13.7%	44	86.3%	51	100.0%
経済・経営・商	20	11.6%	152	88.4%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	4	14.3%	24	85.7%	28	100.0%
理	4	8.9%	41	91.1%	45	100.0%
工	20	15.3%	111	84.7%	131	100.0%
農	2	5.6%	34	94.4%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	16	10.2%	141	89.8%	157	100.0%
家政・生活科学	4	7.0%	53	93.0%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	10	14.9%	57	85.1%	67	100.0%
芸術・体育・他	4	8.3%	44	91.7%	48	100.0%
全学	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	130	11.9%	962	88.1%	1092	100.0%

1年生の定員	行っている		行っていない		総計	
350人以上	34	11.1%	271	88.9%	305	100.0%
200～349人	56	15.0%	317	85.0%	373	100.0%
200人未満	40	9.7%	374	90.3%	414	100.0%
総計	130	11.9%	962	88.1%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行っている		行っていない		総計	
55.0以上	19	9.3%	186	90.7%	205	100.0%
45.0～54.9	41	11.2%	326	88.8%	367	100.0%
45.0未満	69	13.4%	446	86.6%	515	100.0%
総計	129	11.9%	958	88.1%	1087	100.0%

設立区分	行っている		行っていない		総計	
国立	22	10.6%	185	89.4%	207	100.0%
公立	4	4.9%	78	95.1%	82	100.0%
私立	104	13.0%	699	87.0%	803	100.0%
総計	130	11.9%	962	88.1%	1092	100.0%

全体では、初年次教育について【学生調査】による効果測定を「行っている」のは 11.9%、「行っていない」のは 88.1%となった。

学系別では、工学部系が 15.3%、総合・環境・人間・情報学部系が 14.9%と高く、農学部系が 5.6%、家政・生活科学部系が 7.0%、芸術・体育学部系が 8.3%と低い。

規模別では中規模が 15.0%と最も高く、大規模 11.1%、小規模 9.7%となった。

難易度別では、[45.0 未満]の難易度が 13.4%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度 11.2%、[55.0 以上]の難易度 9.3%と難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、私立が 13.0%と最も高く、国立が 10.6%、公立が 4.9%となった。

■初年次教育の効果測定【学生の成績】

4(1)初年次教育の効果測定【学生の成績】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行っている		行っていない		総計	
文・人文	74	34.3%	142	65.7%	216	100.0%
社会・国際	20	25.3%	59	74.7%	79	100.0%
法・政治	11	21.6%	40	78.4%	51	100.0%
経済・経営・商	55	32.0%	117	68.0%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	7	25.0%	21	75.0%	28	100.0%
理	19	42.2%	26	57.8%	45	100.0%
工	33	25.2%	98	74.8%	131	100.0%
農	10	27.8%	26	72.2%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	42	26.8%	115	73.2%	157	100.0%
家政・生活科学	20	35.1%	37	64.9%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	19	28.4%	48	71.6%	67	100.0%
芸術・体育・他	13	27.1%	35	72.9%	48	100.0%
全学	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	324	29.7%	768	70.3%	1092	100.0%

1年生の定員	行っている		行っていない		総計	
350人以上	76	24.9%	229	75.1%	305	100.0%
200～349人	113	30.3%	260	69.7%	373	100.0%
200人未満	135	32.6%	279	67.4%	414	100.0%
総計	324	29.7%	768	70.3%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行っている		行っていない		総計	
55.0以上	48	23.4%	157	76.6%	205	100.0%
45.0～54.9	111	30.2%	256	69.8%	367	100.0%
45.0未満	164	31.8%	351	68.2%	515	100.0%
総計	323	29.7%	764	70.3%	1087	100.0%

設立区分	行っている		行っていない		総計	
国立	52	25.1%	155	74.9%	207	100.0%
公立	21	25.6%	61	74.4%	82	100.0%
私立	251	31.3%	552	68.7%	803	100.0%
総計	324	29.7%	768	70.3%	1092	100.0%

全体では、初年次教育の効果測定を【学生の成績】により「行っている」のは29.7%にとどまり、「行っていない」が70.3%に上った。

学系別では、理学部系が42.2%、家政・生活科学部系が35.1%、文・人文学部系が34.3%と高く、法・政治学部系が21.6%と低い。

規模別では、小規模が32.6%と最も高く、中規模30.3%、大規模24.9%の順となった。

難易度別では[45.0未満]の難易度が31.8%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度30.2%、[55.0以上]の難易度23.4%と、難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、私立が31.3%と高く、公立25.6%、国立25.1%と続いている。

■初年次教育の効果測定【教員が記入する学生カルテ】

4(1)初年次教育の効果測定【教員が記入する学生カルテ】(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	行っている		行っていない		総計	
文・人文	15	6.9%	201	93.1%	216	100.0%
社会・国際	8	10.1%	71	89.9%	79	100.0%
法・政治	6	11.8%	45	88.2%	51	100.0%
経済・経営・商	24	14.0%	148	86.0%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	2	7.1%	26	92.9%	28	100.0%
理	6	13.3%	39	86.7%	45	100.0%
工	14	10.7%	117	89.3%	131	100.0%
農	0	0.0%	36	100.0%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	13	8.3%	144	91.7%	157	100.0%
家政・生活科学	5	8.8%	52	91.2%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	8	11.9%	59	88.1%	67	100.0%
芸術・体育・他	1	2.1%	47	97.9%	48	100.0%
全学	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	103	9.4%	989	90.6%	1092	100.0%

1年生の定員	行っている		行っていない		総計	
350人以上	22	7.2%	283	92.8%	305	100.0%
200～349人	34	9.1%	339	90.9%	373	100.0%
200人未満	47	11.4%	367	88.6%	414	100.0%
総計	103	9.4%	989	90.6%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行っている		行っていない		総計	
55.0以上	4	2.0%	201	98.0%	205	100.0%
45.0～54.9	25	6.8%	342	93.2%	367	100.0%
45.0未満	73	14.2%	442	85.8%	515	100.0%
総計	102	9.4%	985	90.6%	1087	100.0%

設立区分	行っている		行っていない		総計	
国立	11	5.3%	196	94.7%	207	100.0%
公立	1	1.2%	81	98.8%	82	100.0%
私立	91	11.3%	712	88.7%	803	100.0%
総計	103	9.4%	989	90.6%	1092	100.0%

全体では、初年次教育について【学生カルテ】による効果測定を「行っている」学部は 9.4%にとどまり、「行っていない」学部は 90.6%にのぼった。

学系別では、経済・経営・商学部系が 14.0%、理学部系が 13.3%と高く、農学部が 0.0%、芸術・体育学部系が 2.1%と低い。

規模別では、小規模が 11.4%、中規模が 9.1%、大規模が 7.2%となった。

難易度別では、[45.0 未満]の難易度で 14.2%と高く、以下、[45.0～54.9]の難易度 6.8%、[55.0 以上]の難易度 2.0%と難易度により大きく差が開いた。

設立区分別では、私立 11.3%が最も高く、国立の 5.3%、公立の 1.2%と大きく差が開いた。

■初年次教育の効果測定【学生が記入するふり返しシート（ポートフォリオ）】

4(1)初年次教育の効果測定【学生が記入するふり返しシート(ポートフォリオ)】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行っている		行っていない		総計	
文・人文	23	10.6%	193	89.4%	216	100.0%
社会・国際	10	12.7%	69	87.3%	79	100.0%
法・政治	4	7.8%	47	92.2%	51	100.0%
経済・経営・商	17	9.9%	155	90.1%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	4	14.3%	24	85.7%	28	100.0%
理	1	2.2%	44	97.8%	45	100.0%
工	26	19.8%	105	80.2%	131	100.0%
農	3	8.3%	33	91.7%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	29	18.5%	128	81.5%	157	100.0%
家政・生活科学	7	12.3%	50	87.7%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	11	16.4%	56	83.6%	67	100.0%
芸術・体育・他	2	4.2%	46	95.8%	48	100.0%
全学	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	138	12.6%	954	87.4%	1092	100.0%

1年生の定員	行っている		行っていない		総計	
350人以上	37	12.1%	268	87.9%	305	100.0%
200～349人	48	12.9%	325	87.1%	373	100.0%
200人未満	53	12.8%	361	87.2%	414	100.0%
総計	138	12.6%	954	87.4%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行っている		行っていない		総計	
55.0以上	17	8.3%	188	91.7%	205	100.0%
45.0～54.9	39	10.6%	328	89.4%	367	100.0%
45.0未満	81	15.7%	434	84.3%	515	100.0%
総計	137	12.6%	950	87.4%	1087	100.0%

設立区分	行っている		行っていない		総計	
国立	22	10.6%	185	89.4%	207	100.0%
公立	7	8.5%	75	91.5%	82	100.0%
私立	109	13.6%	694	86.4%	803	100.0%
総計	138	12.6%	954	87.4%	1092	100.0%

全体では、初年次教育について【ポートフォリオ】による効果測定を行っている学部は12.6%にとどまり、「行っていない」は87.4%にのぼった。

学系別では、工学部系が19.8%、医・歯・薬・保健学部系が18.5%と高く、理学部系が2.2%、芸術・体育学部系が4.2%と低い。

規模別では、有意な差は見られなかった。

難易度別では、[45.0未満]の難易度が15.7%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度10.6%、[55.0以上]の難易度8.3%と難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、私立が13.6%と最も高く、国立10.6%、公立8.5%となった。

■初年次教育の効果測定【その他】

4(1)初年次教育の効果測定【その他】(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行っている		行っていない		総計	
文・人文	21	9.7%	195	90.3%	216	100.0%
社会・国際	5	6.3%	74	93.7%	79	100.0%
法・政治	2	3.9%	49	96.1%	51	100.0%
経済・経営・商	13	7.6%	159	92.4%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	25	89.3%	28	100.0%
理	3	6.7%	42	93.3%	45	100.0%
工	14	10.7%	117	89.3%	131	100.0%
農	2	5.6%	34	94.4%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	12	7.6%	145	92.4%	157	100.0%
家政・生活科学	3	5.3%	54	94.7%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	4	6.0%	63	94.0%	67	100.0%
芸術・体育・他	3	6.3%	45	93.8%	48	100.0%
全学	2	40.0%	3	60.0%	5	100.0%
総計	87	8.0%	1005	92.0%	1092	100.0%

1年生の定員	行っている		行っていない		総計	
350人以上	24	7.9%	281	92.1%	305	100.0%
200～349人	32	8.6%	341	91.4%	373	100.0%
200人未満	31	7.5%	383	92.5%	414	100.0%
総計	87	8.0%	1005	92.0%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行っている		行っていない		総計	
55.0以上	16	7.8%	189	92.2%	205	100.0%
45.0～54.9	26	7.1%	341	92.9%	367	100.0%
45.0未満	43	8.3%	472	91.7%	515	100.0%
総計	85	7.8%	1002	92.2%	1087	100.0%

設立区分	行っている		行っていない		総計	
国立	21	10.1%	186	89.9%	207	100.0%
公立	3	3.7%	79	96.3%	82	100.0%
私立	63	7.8%	740	92.2%	803	100.0%
総計	87	8.0%	1005	92.0%	1092	100.0%

全体では「その他」の効果測定を採用しているのは8.0%、採用していないのは92.0%となった。

■初年次教育の効果測定実施状況

4(1)初年次教育の効果測定実施状況(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	何らかの形で 行っている		不明		行っていない		総計	
文・人文	165	76.4%	12	5.6%	39	18.1%	216	100.0%
社会・国際	60	75.9%	3	3.8%	16	20.3%	79	100.0%
法・政治	34	66.7%	2	3.9%	15	29.4%	51	100.0%
経済・経営・商	133	77.3%	0	0.0%	39	22.7%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	21	75.0%	0	0.0%	7	25.0%	28	100.0%
理	34	75.6%	2	4.4%	9	20.0%	45	100.0%
工	92	70.2%	11	8.4%	28	21.4%	131	100.0%
農	27	75.0%	3	8.3%	6	16.7%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	110	70.1%	13	8.3%	34	21.7%	157	100.0%
家政・生活科学	42	73.7%	3	5.3%	12	21.1%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	54	80.6%	2	3.0%	11	16.4%	67	100.0%
芸術・体育・他	31	64.6%	7	14.6%	10	20.8%	48	100.0%
全学	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	5	100.0%
総計	807	73.9%	58	5.3%	227	20.8%	1092	100.0%

1年生の定員	何らかの形で 行っている		不明		行っていない		総計	
350人以上	219	71.8%	12	3.9%	74	24.3%	305	100.0%
200～349人	279	74.8%	23	6.2%	71	19.0%	373	100.0%
200人未満	309	74.6%	23	5.6%	82	19.8%	414	100.0%
総計	807	73.9%	58	5.3%	227	20.8%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	何らかの形で 行っている		不明		行っていない		総計	
55.0以上	139	67.8%	16	7.8%	50	24.4%	205	100.0%
45.0～54.9	273	74.4%	18	4.9%	76	20.7%	367	100.0%
45.0未満	391	75.9%	24	4.7%	100	19.4%	515	100.0%
総計	803	73.9%	58	5.3%	226	20.8%	1087	100.0%

設立区分	何らかの形で 行っている		不明		行っていない		総計	
国立	159	76.8%	11	5.3%	37	17.9%	207	100.0%
公立	57	69.5%	10	12.2%	15	18.3%	82	100.0%
私立	591	73.6%	37	4.6%	175	21.8%	803	100.0%
総計	807	73.9%	58	5.3%	227	20.8%	1092	100.0%

全体では、初年次教育の効果測定を何らかの形で「行っている」が73.9%、「行っていない」が20.8%となった。

■担当教員と学生の面談

4(2)初年次における担当教員と学生の面談(左数値＝データ件数/右数値＝比率)

学系名称	行われている		面談を行うとは決 められていない (教員裁量)		学生ごとの担当教 員が決められてい ない		不明		総計	
文・人文	57	26.4%	137	63.4%	7	3.2%	15	6.9%	216	100.0%
社会・国際	20	25.3%	48	60.8%	5	6.3%	6	7.6%	79	100.0%
法・政治	7	13.7%	39	76.5%	2	3.9%	3	5.9%	51	100.0%
経済・経営・商	46	26.7%	113	65.7%	7	4.1%	6	3.5%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	10	35.7%	15	53.6%	1	3.6%	2	7.1%	28	100.0%
理	16	35.6%	23	51.1%	3	6.7%	3	6.7%	45	100.0%
工	54	41.2%	52	39.7%	2	1.5%	23	17.6%	131	100.0%
農	12	33.3%	18	50.0%	0	0.0%	6	16.7%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	76	48.4%	58	36.9%	2	1.3%	21	13.4%	157	100.0%
家政・生活科学	21	36.8%	27	47.4%	0	0.0%	9	15.8%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	25	37.3%	37	55.2%	2	3.0%	3	4.5%	67	100.0%
芸術・体育・他	11	22.9%	29	60.4%	2	4.2%	6	12.5%	48	100.0%
全学	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	5	100.0%
総計	355	32.5%	599	54.9%	33	3.0%	105	9.6%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		面談を行うとは決 められていない (教員裁量)		学生ごとの担当教 員が決められてい ない		不明		総計	
350人以上	81	26.6%	186	61.0%	13	4.3%	25	8.2%	305	100.0%
200～349人	119	31.9%	202	54.2%	13	3.5%	39	10.5%	373	100.0%
200人未満	155	37.4%	211	51.0%	7	1.7%	41	9.9%	414	100.0%
総計	355	32.5%	599	54.9%	33	3.0%	105	9.6%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		面談を行うとは決 められていない (教員裁量)		学生ごとの担当教 員が決められてい ない		不明		総計	
55.0以上	49	23.9%	128	62.4%	9	4.4%	19	9.3%	205	100.0%
45.0～54.9	121	33.0%	205	55.9%	11	3.0%	30	8.2%	367	100.0%
45.0未満	185	35.9%	263	51.1%	13	2.5%	54	10.5%	515	100.0%
総計	355	32.7%	596	54.8%	33	3.0%	103	9.5%	1087	100.0%

設立区分	行われている		面談を行うとは決 められていない (教員裁量)		学生ごとの担当教 員が決められてい ない		不明		総計	
国立	67	32.4%	115	55.6%	6	2.9%	19	9.2%	207	100.0%
公立	23	28.0%	43	52.4%	1	1.2%	15	18.3%	82	100.0%
私立	265	33.0%	441	54.9%	26	3.2%	71	8.8%	803	100.0%
総計	355	32.5%	599	54.9%	33	3.0%	105	9.6%	1092	100.0%

全体で見ると、担当教員と学生の面談が「行われている」のが32.5%、「教員裁量」が54.9%、「担当教員が決められていない」が3.0%であった。

学系別では、医・歯・薬・保健学部系が 48.4%、工学部系が 41.2%と高く、法・政治学部系が 13.7%と低い。

規模別では、小規模が 37.4%と最も高く、中規模 31.9%、大規模 26.6%の順となった。

難易度別では、[45.0 未満]の難易度が 35.9%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度 33.0%、[55.0 以上]の難易度 23.9%と、難易度の低い順に並んだ。

設立区分別では、私立が 33.0%、国立が 32.4%とほとんど差がなく、公立が 28.0%とやや低い数値を示した。

■初年次教育における学生への基本スタンス

4(3)初年次教育における学生への基本スタンス(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	全て面倒見る		水準重視		どちらともいえない		不明		総計	
文・人文	94	43.5%	12	5.6%	90	41.7%	20	9.3%	216	100.0%
社会・国際	29	36.7%	5	6.3%	42	53.2%	3	3.8%	79	100.0%
法・政治	12	23.5%	7	13.7%	30	58.8%	2	3.9%	51	100.0%
経済・経営・商	77	44.8%	17	9.9%	76	44.2%	2	1.2%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	8	28.6%	0	0.0%	18	64.3%	2	7.1%	28	100.0%
理	13	28.9%	8	17.8%	20	44.4%	4	8.9%	45	100.0%
工	49	37.4%	16	12.2%	50	38.2%	16	12.2%	131	100.0%
農	10	27.8%	10	27.8%	13	36.1%	3	8.3%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	45	28.7%	38	24.2%	58	36.9%	16	10.2%	157	100.0%
家政・生活科学	25	43.9%	2	3.5%	22	38.6%	8	14.0%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	26	38.8%	4	6.0%	35	52.2%	2	3.0%	67	100.0%
芸術・体育・他	19	39.6%	2	4.2%	21	43.8%	6	12.5%	48	100.0%
全学	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	1	20.0%	5	100.0%
総計	407	37.3%	121	11.1%	479	43.9%	85	7.8%	1092	100.0%

1年生の定員	全て面倒見る		水準重視		どちらともいえない		不明		総計	
350人以上	109	35.7%	36	11.8%	146	47.9%	14	4.6%	305	100.0%
200～349人	150	40.2%	35	9.4%	152	40.8%	36	9.7%	373	100.0%
200人未満	148	35.7%	50	12.1%	181	43.7%	35	8.5%	414	100.0%
総計	407	37.3%	121	11.1%	479	43.9%	85	7.8%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	全て面倒見る		水準重視		どちらともいえない		不明		総計	
55.0以上	38	18.5%	41	20.0%	104	50.7%	22	10.7%	205	100.0%
45.0～54.9	115	31.3%	47	12.8%	176	48.0%	29	7.9%	367	100.0%
45.0未満	254	49.3%	33	6.4%	195	37.9%	33	6.4%	515	100.0%
総計	407	37.4%	121	11.1%	475	43.7%	84	7.7%	1087	100.0%

設立区分	全て面倒見る		水準重視		どちらともいえない		不明		総計	
国立	46	22.2%	40	19.3%	105	50.7%	16	7.7%	207	100.0%
公立	19	23.2%	9	11.0%	40	48.8%	14	17.1%	82	100.0%
私立	342	42.6%	72	9.0%	334	41.6%	55	6.8%	803	100.0%
総計	407	37.3%	121	11.1%	479	43.9%	85	7.8%	1092	100.0%

全体的には、初年次教育の学生への基本スタンスとして、「脱落が出ないことを重視」が 37.3%、「水準重視」が 11.1%、「どちらとも言えない」が 43.9%であった。

「水準重視」に関しては、学系別では農学部系が 27.8%、医・歯・薬・保健学部系が 24.2%と高い数値を示し、低い数値の教育・教員養成・総合課程学部系 (0.0%)、家政・生活科学学部系 (3.5%)、芸術・体育学部系 (4.2%)、文・人文学部系 (5.6%)、総合・環境・人間・情報学部系 (6.0%)、社会・国際学部系 (6.3%) などと対比を見せた。

規模別では、小規模が 12.1%と最も高く、大規模が 11.8%、中規模が 9.4%となった。

難易度別では、[55.0 以上]の難易度が 20.0%と最も高く、[45.0～54.9]の難易度 12.8%、[45.0 未満]の難易度 6.4%と、他の項目とは逆の、難易度の高い順に並んだ。

設立区分別では、国立が 19.3%と最も高く、公立 11.0%、私立 9.0%と続いた。

■初年次教育の計画組織

5(1)初年次教育の計画組織(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	a 学部・学科のライン上の組織		b 学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率				
文・人文	128	59.3%	10	4.6%	0	0.0%	7	3.2%	41	19.0%	0	0.0%	13	6.0%	17	7.9%	216	100.0%
社会・国際	50	63.3%	5	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	16	20.3%	0	0.0%	5	6.3%	3	3.8%	79	100.0%
法・政治	32	62.7%	4	7.8%	1	2.0%	0	0.0%	9	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	9.8%	51	100.0%
経済・経営・商	115	66.9%	5	2.9%	1	0.6%	2	1.2%	36	20.9%	1	0.6%	6	3.5%	6	3.5%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	11	39.3%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	11	39.3%	0	0.0%	3	10.7%	2	7.1%	28	100.0%
理	24	53.3%	1	2.2%	0	0.0%	1	2.2%	11	24.4%	0	0.0%	4	8.9%	4	8.9%	45	100.0%
工	72	55.0%	9	6.9%	1	0.8%	2	1.5%	24	18.3%	2	1.5%	9	6.9%	12	9.2%	131	100.0%
農	17	47.2%	1	2.8%	0	0.0%	1	2.8%	8	22.2%	1	2.8%	6	16.7%	2	5.6%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	70	44.6%	8	5.1%	0	0.0%	2	1.3%	50	31.8%	0	0.0%	8	5.1%	19	12.1%	157	100.0%
家政・生活科学	34	59.6%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	10	17.5%	1	1.8%	5	8.8%	6	10.5%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	35	52.2%	4	6.0%	0	0.0%	0	0.0%	19	28.4%	0	0.0%	6	9.0%	3	4.5%	67	100.0%
芸術・体育・他	18	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	27.1%	1	2.1%	6	12.5%	10	20.8%	48	100.0%
全学	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	608	55.7%	49	4.5%	3	0.3%	15	1.4%	251	23.0%	6	0.5%	71	6.5%	89	8.2%	1092	100.0%

1年生の定員	a 学部・学科のライン上の組織		b 学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率				
350人以上	171	56.1%	15	4.9%	1	0.3%	3	1.0%	76	24.9%	3	1.0%	18	5.9%	18	5.9%	305	100.0%
200~349人	207	55.5%	16	4.3%	2	0.5%	8	2.1%	84	22.5%	2	0.5%	23	6.2%	31	8.3%	373	100.0%
200人未満	230	55.6%	18	4.3%	0	0.0%	4	1.0%	91	22.0%	1	0.2%	30	7.2%	40	9.7%	414	100.0%
総計	608	55.7%	49	4.5%	3	0.3%	15	1.4%	251	23.0%	6	0.5%	71	6.5%	89	8.2%	1092	100.0%

入試難易度(偏差値)	a 学部・学科のライン上の組織		b 学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率				
55.0以上	109	53.2%	10	4.9%	2	1.0%	3	1.5%	42	20.5%	0	0.0%	13	6.3%	26	12.7%	205	100.0%
45.0~54.9	210	57.2%	24	6.5%	0	0.0%	7	1.9%	74	20.2%	2	0.5%	26	7.1%	24	6.5%	367	100.0%
45.0未満	287	55.7%	15	2.9%	1	0.2%	5	1.0%	132	25.6%	4	0.8%	32	6.2%	39	7.6%	515	100.0%
総計	606	55.7%	49	4.5%	3	0.3%	15	1.4%	248	22.8%	6	0.6%	71	6.5%	89	8.2%	1087	100.0%

設立区分	a 学部・学科のライン上の組織		b 学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率				
国立	103	49.8%	13	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	53	25.6%	2	1.0%	19	9.2%	17	8.2%	207	100.0%
公立	36	43.9%	3	3.7%	1	1.2%	1	1.2%	24	29.3%	0	0.0%	6	7.3%	11	13.4%	82	100.0%
私立	469	58.4%	33	4.1%	2	0.2%	14	1.7%	174	21.7%	4	0.5%	46	5.7%	61	7.6%	803	100.0%
総計	608	55.7%	49	4.5%	3	0.3%	15	1.4%	251	23.0%	6	0.5%	71	6.5%	89	8.2%	1092	100.0%

初年次教育の計画組織については、全体では「a 学部・学科のライン上の組織」が 55.7%、「b 学会議・運営会議などの全学組織」が 4.5%、「c 付置組織」が 0.3%、「a と b の両者」が 1.4%、「a と c の両者」が 23.0%、「b と c の両者」が 0.5%、「a と b と c の三者」が 6.5%となった。

■初年次教育の実施組織

5(1)初年次教育の実施組織(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	a 学部・学科のライン上の組織		b 学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率				
文・人文	149	69.0%	3	1.4%	0	0.0%	6	2.8%	28	13.0%	0	0.0%	10	4.6%	20	9.3%	216	100.0%
社会・国際	59	74.7%	3	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	11	13.9%	0	0.0%	1	1.3%	5	6.3%	79	100.0%
法・政治	34	66.7%	3	5.9%	1	2.0%	0	0.0%	6	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	7	13.7%	51	100.0%
経済・経営・商	129	75.0%	3	1.7%	0	0.0%	4	2.3%	18	10.5%	0	0.0%	7	4.1%	11	6.4%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	14	50.0%	1	3.6%	0	0.0%	1	3.6%	7	25.0%	0	0.0%	4	14.3%	1	3.6%	28	100.0%
理	26	57.8%	1	2.2%	0	0.0%	1	2.2%	9	20.0%	0	0.0%	4	8.9%	4	8.9%	45	100.0%
工	80	61.1%	5	3.8%	0	0.0%	4	3.1%	12	9.2%	1	0.8%	14	10.7%	15	11.5%	131	100.0%
農	24	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%	5	13.9%	0	0.0%	3	8.3%	3	8.3%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	66	54.8%	3	1.9%	0	0.0%	1	0.6%	35	22.3%	0	0.0%	9	5.7%	23	14.6%	157	100.0%
家政・生活科学	42	73.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	5	8.8%	0	0.0%	1	1.8%	8	14.0%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	45	67.2%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	13.4%	0	0.0%	6	9.0%	5	7.5%	67	100.0%
芸術・体育・他	27	56.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	14.6%	0	0.0%	3	6.3%	11	22.9%	48	100.0%
全学	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
総計	717	65.7%	24	2.2%	1	0.1%	19	1.7%	155	14.2%	1	0.1%	62	5.7%	113	10.3%	1092	100.0%

1年生の定員	a 学部・学科のライン上の組織		b 学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率				
350人以上	200	65.6%	8	2.6%	0	0.0%	6	2.0%	48	15.7%	1	0.3%	20	6.6%	22	7.2%	305	100.0%
200~349人	249	66.8%	10	2.7%	1	0.3%	9	2.4%	49	13.1%	0	0.0%	16	4.3%	39	10.5%	373	100.0%
200人未満	268	64.7%	6	1.4%	0	0.0%	4	1.0%	58	14.0%	0	0.0%	26	6.3%	52	12.6%	414	100.0%
総計	717	65.7%	24	2.2%	1	0.1%	19	1.7%	155	14.2%	1	0.1%	62	5.7%	113	10.3%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	a 学部・学科のライン上の組織		b 教学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 教学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 教学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 教学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率				
55.0以上	126	61.5%	6	2.9%	0	0.0%	4	2.0%	27	13.2%	0	0.0%	11	5.4%	31	15.1%	205	100.0%
45.0～54.9	247	67.3%	14	3.8%	0	0.0%	9	2.5%	47	12.8%	1	0.3%	19	5.2%	30	8.2%	367	100.0%
45.0未満	342	66.4%	4	0.8%	1	0.2%	6	1.2%	78	15.1%	0	0.0%	32	6.2%	52	10.1%	515	100.0%
総計	715	65.8%	24	2.2%	1	0.1%	19	1.7%	152	14.0%	1	0.1%	62	5.7%	113	10.4%	1087	100.0%

設立区分	a 学部・学科のライン上の組織		b 教学会議・運営会議などの全学組織		c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 教学会議・運営会議などの全学組織		a 学部・学科のライン上の組織 & c 付置組織		b 教学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		a 学部・学科のライン上の組織 & b 教学会議・運営会議などの全学組織 & c 付置組織		不明	総計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率				
国立	124	59.9%	11	5.3%	0	0.0%	3	1.4%	34	16.4%	1	0.5%	15	7.2%	19	9.2%	207	100.0%
公立	49	59.8%	1	1.2%	0	0.0%	1	1.2%	13	15.9%	0	0.0%	5	6.1%	13	15.9%	82	100.0%
私立	544	67.7%	12	1.5%	1	0.1%	15	1.9%	108	13.4%	0	0.0%	42	5.2%	81	10.1%	803	100.0%
総計	717	65.7%	24	2.2%	1	0.1%	19	1.7%	155	14.2%	1	0.1%	62	5.7%	113	10.3%	1092	100.0%

初年次教育の実施組織については、全体では、「a 学部・学科のライン上の組織」が 65.7%、「b 教学会議・運営会議などの全学組織」が 2.2%、「c 付置組織」が 0.1%、「a と b の両者」が 1.7%、「a と c の両者」が 14.2%、「b と c の両者」が 0.1%、「a と b と c の三者」が 5.7%となった。

■ 計画・実施組織の活動評価

5(3) 初年次教育の計画・実施組織の活動評価(第三者評価)(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	30	13.9%	19	8.8%	167	77.3%	216	100.0%
社会・国際	7	8.9%	4	5.1%	68	86.1%	79	100.0%
法・政治	10	19.6%	4	7.8%	37	72.5%	51	100.0%
経済・経営・商	30	17.4%	3	1.7%	139	80.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	1	3.6%	0	0.0%	27	96.4%	28	100.0%
理	7	15.6%	2	4.4%	36	80.0%	45	100.0%
工	19	14.5%	13	9.9%	99	75.6%	131	100.0%
農	8	22.2%	3	8.3%	25	69.4%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	21	13.4%	21	13.4%	115	73.2%	157	100.0%
家政・生活科学	4	7.0%	8	14.0%	45	78.9%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	17	25.4%	1	1.5%	49	73.1%	67	100.0%
芸術・体育・他	5	10.4%	8	16.7%	35	72.9%	48	100.0%
全学	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%	5	100.0%
総計	159	14.6%	86	7.9%	847	77.6%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	46	15.1%	22	7.2%	237	77.7%	305	100.0%
200～349人	54	14.5%	27	7.2%	292	78.3%	373	100.0%
200人未満	59	14.3%	37	8.9%	318	76.8%	414	100.0%
総計	159	14.6%	86	7.9%	847	77.6%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	27	13.2%	26	12.7%	152	74.1%	205	100.0%
45.0～54.9	51	13.9%	24	6.5%	292	79.6%	367	100.0%
45.0未満	81	15.7%	36	7.0%	398	77.3%	515	100.0%
総計	159	14.6%	86	7.9%	842	77.5%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	29	14.0%	15	7.2%	163	78.7%	207	100.0%
公立	9	11.0%	12	14.6%	61	74.4%	82	100.0%
私立	121	15.1%	59	7.3%	623	77.6%	803	100.0%
総計	159	14.6%	86	7.9%	847	77.6%	1092	100.0%

計画・実施組織の活動評価については、【第三評価】が「行われている」が 14.6%、「行われていない」が 77.6%となった。

5(3)初年次教育の計画・実施組織の活動評価(自己評価)(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	122	56.5%	19	8.8%	75	34.7%	216	100.0%
社会・国際	43	54.4%	4	5.1%	32	40.5%	79	100.0%
法・政治	32	62.7%	4	7.8%	15	29.4%	51	100.0%
経済・経営・商	95	55.2%	3	1.7%	74	43.0%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	18	64.3%	0	0.0%	10	35.7%	28	100.0%
理	28	62.2%	2	4.4%	15	33.3%	45	100.0%
工	72	55.0%	13	9.9%	46	35.1%	131	100.0%
農	20	55.6%	3	8.3%	13	36.1%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	76	48.4%	21	13.4%	60	38.2%	157	100.0%
家政・生活科学	19	33.3%	8	14.0%	30	52.6%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	36	53.7%	1	1.5%	30	44.8%	67	100.0%
芸術・体育・他	21	43.8%	8	16.7%	19	39.6%	48	100.0%
全学	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	5	100.0%
総計	585	53.6%	86	7.9%	421	38.6%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	161	52.8%	22	7.2%	122	40.0%	305	100.0%
200～349人	212	56.8%	27	7.2%	134	35.9%	373	100.0%
200人未満	212	51.2%	37	8.9%	165	39.9%	414	100.0%
総計	585	53.6%	86	7.9%	421	38.6%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	99	48.3%	26	12.7%	80	39.0%	205	100.0%
45.0～54.9	211	57.5%	24	6.5%	132	36.0%	367	100.0%
45.0未満	272	52.8%	36	7.0%	207	40.2%	515	100.0%
総計	582	53.5%	86	7.9%	419	38.5%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	116	56.0%	15	7.2%	76	36.7%	207	100.0%
公立	50	61.0%	12	14.6%	20	24.4%	82	100.0%
私立	419	52.2%	59	7.3%	325	40.5%	803	100.0%
総計	585	53.6%	86	7.9%	421	38.6%	1092	100.0%

【自己評価】が「行われている」が53.6%、「行われていない」が38.6%となった。

5(3)初年次教育の計画・実施組織の活動評価(学内の他者評価機関)(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	8	3.7%	19	8.8%	189	87.5%	216	100.0%
社会・国際	5	6.3%	4	5.1%	70	88.6%	79	100.0%
法・政治	1	2.0%	4	7.8%	46	90.2%	51	100.0%
経済・経営・商	6	3.5%	3	1.7%	163	94.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	2	7.1%	0	0.0%	26	92.9%	28	100.0%
理	2	4.4%	2	4.4%	41	91.1%	45	100.0%
工	8	6.1%	13	9.9%	110	84.0%	131	100.0%
農	2	5.6%	3	8.3%	31	86.1%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	5	3.2%	21	13.4%	131	83.4%	157	100.0%
家政・生活科学	1	1.8%	8	14.0%	48	84.2%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	5	7.5%	1	1.5%	61	91.0%	67	100.0%
芸術・体育・他	3	6.3%	8	16.7%	37	77.1%	48	100.0%
全学	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%	5	100.0%
総計	48	4.4%	86	7.9%	958	87.7%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	14	4.6%	22	7.2%	269	88.2%	305	100.0%
200～349人	21	5.6%	27	7.2%	325	87.1%	373	100.0%
200人未満	13	3.1%	37	8.9%	364	87.9%	414	100.0%
総計	48	4.4%	86	7.9%	958	87.7%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	13	6.3%	26	12.7%	166	81.0%	205	100.0%
45.0～54.9	11	3.0%	24	6.5%	332	90.5%	367	100.0%
45.0未満	24	4.7%	36	7.0%	455	88.3%	515	100.0%
総計	48	4.4%	86	7.9%	953	87.7%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	10	4.8%	15	7.2%	182	87.9%	207	100.0%
公立	2	2.4%	12	14.6%	68	82.9%	82	100.0%
私立	36	4.5%	59	7.3%	708	88.2%	803	100.0%
総計	48	4.4%	86	7.9%	958	87.7%	1092	100.0%

【学内の他者評価機関】による評価が「行われている」のが4.4%、「行われていない」が87.7%であった。

5(3)初年次教育の計画・実施組織の活動評価(その他の評価)(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	10	4.6%	19	8.8%	187	86.6%	216	100.0%
社会・国際	4	5.1%	4	5.1%	71	89.9%	79	100.0%
法・政治	2	3.9%	4	7.8%	45	88.2%	51	100.0%
経済・経営・商	6	3.5%	3	1.7%	163	94.8%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	3	10.7%	0	0.0%	25	89.3%	28	100.0%
理	4	8.9%	2	4.4%	39	86.7%	45	100.0%
工	11	8.4%	13	9.9%	107	81.7%	131	100.0%
農	4	11.1%	3	8.3%	29	80.6%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	5	3.2%	21	13.4%	131	83.4%	157	100.0%
家政・生活科学	8	14.0%	8	14.0%	41	71.9%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	4	6.0%	1	1.5%	62	92.5%	67	100.0%
芸術・体育・他	3	6.3%	8	16.7%	37	77.1%	48	100.0%
全学	1	20.0%	0	0.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	65	6.0%	86	7.9%	941	86.2%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	17	5.6%	22	7.2%	266	87.2%	305	100.0%
200～349人	22	5.9%	27	7.2%	324	86.9%	373	100.0%
200人未満	26	6.3%	37	8.9%	351	84.8%	414	100.0%
総計	65	6.0%	86	7.9%	941	86.2%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	7	3.4%	26	12.7%	172	83.9%	205	100.0%
45.0～54.9	20	5.4%	24	6.5%	323	88.0%	367	100.0%
45.0未満	37	7.2%	36	7.0%	442	85.8%	515	100.0%
総計	64	5.9%	86	7.9%	937	86.2%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	11	5.3%	15	7.2%	181	87.4%	207	100.0%
公立	0	0.0%	12	14.6%	70	85.4%	82	100.0%
私立	54	6.7%	59	7.3%	690	85.9%	803	100.0%
総計	65	6.0%	86	7.9%	941	86.2%	1092	100.0%

【その他の方法】で評価が「行われている」のは6.0%、「行われていない」が86.2%であった。

5(3)初年次教育の計画・実施組織の活動評価状況(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
文・人文	141	65.3%	19	8.8%	56	25.9%	216	100.0%
社会・国際	47	59.5%	4	5.1%	28	35.4%	79	100.0%
法・政治	36	70.6%	4	7.8%	11	21.6%	51	100.0%
経済・経営・商	111	64.5%	3	1.7%	58	33.7%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	21	75.0%	0	0.0%	7	25.0%	28	100.0%
理	31	68.9%	2	4.4%	12	26.7%	45	100.0%
工	88	67.2%	13	9.9%	30	22.9%	131	100.0%
農	27	75.0%	3	8.3%	6	16.7%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	88	56.1%	21	13.4%	48	30.6%	157	100.0%
家政・生活科学	27	47.4%	8	14.0%	22	38.6%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	47	70.1%	1	1.5%	19	28.4%	67	100.0%
芸術・体育・他	27	56.3%	8	16.7%	13	27.1%	48	100.0%
全学	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	5	100.0%
総計	695	63.6%	86	7.9%	311	28.5%	1092	100.0%

1年生の定員	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
350人以上	198	64.9%	22	7.2%	85	27.9%	305	100.0%
200～349人	243	65.1%	27	7.2%	103	27.6%	373	100.0%
200人未満	254	61.4%	37	8.9%	123	29.7%	414	100.0%
総計	695	63.6%	86	7.9%	311	28.5%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
55.0以上	114	55.6%	26	12.7%	65	31.7%	205	100.0%
45.0～54.9	248	67.6%	24	6.5%	95	25.9%	367	100.0%
45.0未満	329	63.9%	36	7.0%	150	29.1%	515	100.0%
総計	691	63.6%	86	7.9%	310	28.5%	1087	100.0%

設立区分	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
国立	140	67.6%	15	7.2%	52	25.1%	207	100.0%
公立	53	64.6%	12	14.6%	17	20.7%	82	100.0%
私立	502	62.5%	59	7.3%	242	30.1%	803	100.0%
総計	695	63.6%	86	7.9%	311	28.5%	1092	100.0%

以上を含む【何らかの形】で活動評価が「行われている」が63.6%、「行われていない」が28.5%であった。

■初年次教育を担当することに対するインセンティブ

5(4)初年次教育担当することに対するインセンティブ【昇任の際の評価】(左数値＝データ件数／右数値＝比)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	1	0.5%	17	7.9%	198	91.7%	216	100.0%
社会・国際	0	0.0%	4	5.1%	75	94.9%	79	100.0%
法・政治	2	3.9%	3	5.9%	46	90.2%	51	100.0%
経済・経営・商	5	2.9%	3	1.7%	164	95.3%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	0	0.0%	0	0.0%	28	100.0%	28	100.0%
理	1	2.2%	2	4.4%	42	93.3%	45	100.0%
工	6	4.6%	11	8.4%	114	87.0%	131	100.0%
農	3	8.3%	2	5.6%	31	86.1%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	5	3.2%	19	12.1%	133	84.7%	157	100.0%
家政・生活科学	2	3.5%	6	10.5%	49	86.0%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	3	4.5%	1	1.5%	63	94.0%	67	100.0%
芸術・体育・他	5	10.4%	7	14.6%	36	75.0%	48	100.0%
全学	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	33	3.0%	76	7.0%	983	90.0%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	6	2.0%	15	4.9%	284	93.1%	305	100.0%
200～349人	13	3.5%	26	7.0%	334	89.5%	373	100.0%
200人未満	14	3.4%	35	8.5%	365	88.2%	414	100.0%
総計	33	3.0%	76	7.0%	983	90.0%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	7	3.4%	22	10.7%	176	85.9%	205	100.0%
45.0～54.9	9	2.5%	20	5.4%	338	92.1%	367	100.0%
45.0未満	17	3.3%	33	6.4%	465	90.3%	515	100.0%
総計	33	3.0%	75	6.9%	979	90.1%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	9	4.3%	10	4.8%	188	90.8%	207	100.0%
公立	3	3.7%	12	14.6%	67	81.7%	82	100.0%
私立	21	2.6%	54	6.7%	728	90.7%	803	100.0%
総計	33	3.0%	76	7.0%	983	90.0%	1092	100.0%

【昇任の際の評価】として「行われている」が3.0%、「行われていない」が90.0%に上った。

5(4)初年次教育担当することでのインセンティブ【FD活動上の評価】(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	21	9.7%	17	7.9%	178	82.4%	216	100.0%
社会・国際	13	16.5%	4	5.1%	62	78.5%	79	100.0%
法・政治	5	9.8%	3	5.9%	43	84.3%	51	100.0%
経済・経営・商	27	15.7%	3	1.7%	142	82.6%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	4	14.3%	0	0.0%	24	85.7%	28	100.0%
理	5	11.1%	2	4.4%	38	84.4%	45	100.0%
工	19	14.5%	11	8.4%	101	77.1%	131	100.0%
農	7	19.4%	2	5.6%	27	75.0%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	21	13.4%	19	12.1%	117	74.5%	157	100.0%
家政・生活科学	6	10.5%	6	10.5%	45	78.9%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	12	17.9%	1	1.5%	54	80.6%	67	100.0%
芸術・体育・他	7	14.6%	7	14.6%	34	70.8%	48	100.0%
全学	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	147	13.5%	76	7.0%	869	79.6%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	38	12.5%	15	4.9%	252	82.6%	305	100.0%
200～349人	46	12.3%	26	7.0%	301	80.7%	373	100.0%
200人未満	63	15.2%	35	8.5%	316	76.3%	414	100.0%
総計	147	13.5%	76	7.0%	869	79.6%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	17	8.3%	22	10.7%	166	81.0%	205	100.0%
45.0～54.9	48	13.1%	20	5.4%	299	81.5%	367	100.0%
45.0未満	82	15.9%	33	6.4%	400	77.7%	515	100.0%
総計	147	13.5%	75	6.9%	865	79.6%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	19	9.2%	10	4.8%	178	86.0%	207	100.0%
公立	10	12.2%	12	14.6%	60	73.2%	82	100.0%
私立	118	14.7%	54	6.7%	631	78.6%	803	100.0%
総計	147	13.5%	76	7.0%	869	79.6%	1092	100.0%

【FD活動上の評価】として「行われている」が13.5%、「行われていない」が79.6%となった。

5(4)初年次教育担当することでのインセンティブ【その他】(左数値＝データ件数／右数値＝比率)

学系名称	行われている		不明		行われていない		総計	
文・人文	6	2.8%	17	7.9%	193	89.4%	216	100.0%
社会・国際	2	2.5%	4	5.1%	73	92.4%	79	100.0%
法・政治	3	5.9%	3	5.9%	45	88.2%	51	100.0%
経済・経営・商	11	6.4%	3	1.7%	158	91.9%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	4	14.3%	0	0.0%	24	85.7%	28	100.0%
理	5	11.1%	2	4.4%	38	84.4%	45	100.0%
工	11	8.4%	11	8.4%	109	83.2%	131	100.0%
農	6	16.7%	2	5.6%	28	77.8%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	8	5.1%	19	12.1%	130	82.8%	157	100.0%
家政・生活科学	2	3.5%	6	10.5%	49	86.0%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	7	10.4%	1	1.5%	59	88.1%	67	100.0%
芸術・体育・他	2	4.2%	7	14.6%	39	81.3%	48	100.0%
全学	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	67	6.1%	76	7.0%	949	86.9%	1092	100.0%

1年生の定員	行われている		不明		行われていない		総計	
350人以上	20	6.6%	15	4.9%	270	88.5%	305	100.0%
200～349人	28	7.5%	26	7.0%	319	85.5%	373	100.0%
200人未満	19	4.6%	35	8.5%	360	87.0%	414	100.0%
総計	67	6.1%	76	7.0%	949	86.9%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	行われている		不明		行われていない		総計	
55.0以上	15	7.3%	22	10.7%	168	82.0%	205	100.0%
45.0～54.9	23	6.3%	20	5.4%	324	88.3%	367	100.0%
45.0未満	29	5.6%	33	6.4%	453	88.0%	515	100.0%
総計	67	6.2%	75	6.9%	945	86.9%	1087	100.0%

設立区分	行われている		不明		行われていない		総計	
国立	22	10.6%	10	4.8%	175	84.5%	207	100.0%
公立	4	4.9%	12	14.6%	66	80.5%	82	100.0%
私立	41	5.1%	54	6.7%	708	88.2%	803	100.0%
総計	67	6.1%	76	7.0%	949	86.9%	1092	100.0%

【その他の方法】で「行われている」が6.1%、「行われていない」が86.9%となった。

5(4)初年次教育担当することでのインセンティブの状況(左数値=データ件数/右数値=比率)

学系名称	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
文・人文	27	12.5%	17	7.9%	172	79.6%	216	100.0%
社会・国際	15	19.0%	4	5.1%	60	75.9%	79	100.0%
法・政治	10	19.6%	3	5.9%	38	74.5%	51	100.0%
経済・経営・商	39	22.7%	3	1.7%	130	75.6%	172	100.0%
教育・教員養成・総合課程	8	28.6%	0	0.0%	20	71.4%	28	100.0%
理	10	22.2%	2	4.4%	33	73.3%	45	100.0%
工	31	23.7%	11	8.4%	89	67.9%	131	100.0%
農	13	36.1%	2	5.6%	21	58.3%	36	100.0%
医・歯・薬・保健	34	21.7%	19	12.1%	104	66.2%	157	100.0%
家政・生活科学	9	15.8%	6	10.5%	42	73.7%	57	100.0%
総合・環境・人間・情報	21	31.3%	1	1.5%	45	67.2%	67	100.0%
芸術・体育・他	11	22.9%	7	14.6%	30	62.5%	48	100.0%
全学	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
総計	228	20.9%	76	7.0%	788	72.2%	1092	100.0%

1年生の定員	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
350人以上	58	19.0%	15	4.9%	232	76.1%	305	100.0%
200~349人	80	21.4%	26	7.0%	267	71.6%	373	100.0%
200人未満	90	21.7%	35	8.5%	289	69.8%	414	100.0%
総計	228	20.9%	76	7.0%	788	72.2%	1092	100.0%

入試難易度 (偏差値)	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
55.0以上	37	18.0%	22	10.7%	146	71.2%	205	100.0%
45.0~54.9	74	20.2%	20	5.4%	273	74.4%	367	100.0%
45.0未満	117	22.7%	33	6.4%	365	70.9%	515	100.0%
総計	228	21.0%	75	6.9%	784	72.1%	1087	100.0%

設立区分	何らかの形で行われている		不明		行っていない		総計	
国立	44	21.3%	10	4.8%	153	73.9%	207	100.0%
公立	17	20.7%	12	14.6%	53	64.6%	82	100.0%
私立	167	20.8%	54	6.7%	582	72.5%	803	100.0%
総計	228	20.9%	76	7.0%	788	72.2%	1092	100.0%

以上を含む【何らかの形】で「行われている」のは20.9%、「行われていない」が72.2%であった。

[3]アンケート調査結果と分析のまとめ

アンケートの集計を分析して明らかなことは以下のとおりである。

全体的に見ると、特に【学生の態度変容】に関わる初年次ゼミの内容については、ほとんどの大学で取り組みが遅れていることが明らかとなった。そして、進んだ大学とそうでない大学との差が極めて大きいのも、この【学生の態度変容】に関わる部分である。

これを踏まえた上でセグメント別の分析を概括すると、【態度変容】に関する項目群では、学系別では医・歯・薬・保健系と農学部系が高いポイントを示したのに対し、法・政治学部系および理学部系が低いポイントを示している。医・歯・薬・保健系は資格とも密接に関連するため、PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）やグループワークによる授業標準化が他の学系と比較して進んでいると思われる。

また難易度別では、[45.0 未満]の難易度の大学・学部ほど初年次教育に力を入れている。【学生の態度変容】に関わる初年次ゼミの内容についても、ほとんどすべての項目において、ほぼ例外なく[45.0 未満]の難易度の大学・学部ほど必須としている率が高い。逆に、難易度が上がるほど必須としている取り組みが減少している。これは入学者の学力や意欲の面で、「そうしなくてもまだ対応できている」という状況を示しているものと思われる。

この傾向は【外形的な要素】や【運営に関わる条件の整備】についても同様であり、分析結果から、[45.0 未満]の難易度の大学・学部がいわゆる大学のユニバーサル化の中で、初年次教育に大きな努力を払っている様子が確認できる。

規模別では、全体的に見ると小規模ほどポイントは高いが、規模による差はさほど生じていない。また設立区分別に見ると、私立大学は資金的には困難な条件にありながら、国立大学、公立大学以上に、初年次教育に力を注いでいる。

以上のような結果は、[55.0 以上]の難易度の大学や国立大学が初年次教育の必要性から免れえているということを示しているのではなく、むしろ、それができるに条件を備えているにもかかわらず、多くの[55.0 以上]の難易度の大学、国立大学で実現できていない現状を示しているのではないかと、当プロジェクトは考える。

IV 訪問ヒアリングの概要

(1) 訪問ヒアリング大学の選抜

アンケート調査から全体的な傾向を捉えることはできたものの、どのような優れた初年次教育が行われているのか、具体的なグッドプラクティスの在り方までは把握することができなかった。そこで、さらに訪問ヒアリング調査を行うことで、明らかにすることにした。訪問対象大学の選抜は以下の方法に拠る。

アンケート調査を以下の方法でポイント化し、概ね 30 ポイント以上の大学・学部を選抜した。ポイント化した項目は 58 点満点で平均が 19.3 であることから、30 ポイント以上を数えた大学としたのである。

その内から、さらに

①私立大学の場合は入学定員 200 人以上（中規模）の学部

②医・歯・薬・保健学部系の資格系学部については、医学部 1 大学、薬学部 1 大学のみ

という条件を加え、大学との折衝等を経て、以下の 32 大学・35 学部を訪問することとした。

①については、少人数だから可能な教育について明らかにする意義はあるものの、中規模の学部でどのような初年次教育が可能であるのかを見出すためである。

②については、医療系は教育目的が明確であり、また PBL やオスキー（OSCE=Objective Structured Clinical Examination=客観的臨床技能試験）等のプログラムが確立しているため、その代表を見ることによって、グッドプラクティスを見いだせると判断したためである。

訪問ヒアリングは、以下 32 大学 35 学部で実施した。（地域順）

岩手県立大学（ソフトウェア情報学部）、東北福祉大学（総合マネジメント学部）、駿河台大学（経済学部）、大東文化大学（国際関係学部）、淑徳大学（国際コミュニケーション学部）、嘉悦大学（経営経済学部）、産業能率大学（経営学部）（情報マネジメント学部）、清泉女子大学（文学部）、多摩大学（経営情報学部）、玉川大学（全学）、神奈川大学（全学）、文教大学（国際学部）、新潟大学（農学部生産環境科学科）、信州大学（繊維学部化学材料系）、金沢工業大学（全学）、愛知学院大学（総合政策学部）、名古屋商科大学（全学）、星城大学（経営学部）、三重大学（全学）、同志社大学（法学部）、京都ノートルダム女子大学（生活福祉文化学部）、京都文教大学（人間学部）（臨床心理学部）、大阪成蹊大学（現代経営情報学部）、近畿大学（理工学部）、関西国際大学（人間科学部）、神戸学院大学（薬学部）、愛媛大学（医学部）（教育学部）、高知大学（農学部）、九州産業大学（経営学部）、長崎大学（工学部構造・社会開発系）、立命館アジア太平洋大学（全学）、日本文理大学（全学）

(2) 評価の視点

訪問調査では、【評価の視点A】【評価の視点B】【評価の視点C】の具体的要素についてヒアリングし、エビデンスの提示や説明を受けた上で、評価をした。

【評価の視点A】に関して

まず、初年次ゼミが全員必修もしくは、事実上 90%以上の学生が履修し、必修と同等となっていることを前提条件とした。

その上で【評価の視点A】の「命題知から活用知への転換」に関してどの程度取り組まれている

かについては、初年次ゼミの中で

①PBL（Problem/Project Based Learning）で問題発見・解決型の取り組みがどの程度導入されているか。

②グループワークが、どの程度、どのように導入されているか。

さらに初年次ゼミの内容以外で、

③「命題知から活用知への転換を促進する取り組み」が、どのように、どの程度あるか。

の3点で評価した。

具体的には、

- ・初年次ゼミと有機的に関連する科目等が設定されている。
- ・4年間のゼミや研究室活動の連続の中に初年次ゼミが位置づけられている。
- ・同期や上級生の活用が意図的に行われている。

の取り組みを評価した。

【評価の視点B】に関して

【評価の視点B】は、「自律・自立化を促す取り組み」についてである。学生の面倒見がよいことは、ユニバーサルアクセス型大学にとって重要であるが、面倒見のよさだけにとどまれば社会人として不可欠な「自律・自立」の資質を形成することはできない。従ってここでは学生の面倒をよく見ながら、学生が個人としてPDCAサイクルを確立できるように援助を行っているかどうかを評価した。具体的には、

①ふり返りシートの有無、内容。

②学生に目標設定させ、その結果をふり返った上で、次の目標設定をさせているか。

③②のプロセスへの教員の関わりの度合い。

の3点について評価を行った。

【評価の視点C】に関して

【評価の視点C】の「一定水準以上の初年次教育を担保しているか」について、上記【評価の視点A】【評価の視点B】に関する取り組みについて、全新入生対して同質の教育が提供されているか、継続的な改革がどのように担保されているのかを評価した。具体的には、

①マニュアル・ガイドラインの有無

②共通テキストの有無

③FD・コーディネータの有無

④初年次研修の有無

⑤全学出勤への積極性の度合い

の5項目で評価した。

(3)評価の方法

具体的な評価方法は以下の通り。

河合塾の当調査チームの固定した3名と一緒に32大学・35学部を訪問し、毎回議論・検討を行いつつ、上記の項目についてルーブリック（達成レベルの目安を数段階に分けて設定し、達成度

を判断する基準とするもの) を定め、レベルごとのポイントを決定した。さらに、調査が進むに連れて以前のポイントを再検討し、評価の精度を向上させる方法を採用した。

因みに、これはパフォーマンス評価のためによく採用される手法である。

本調査は、京都大学・高等教育研究開発センターの松下佳代教授による、JELS「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」(お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」のサブプログラムとして) において用いられた下記の評価手続きにほぼ即して行った。

- ①評価基準法の枠組みを決める
- ②課題分析をして予想される解法をリストアップする
- ③ルーブリックの素案をつくる
- ④複数の教員で採点し、モデレーションを行う
 - ・できれば 3 人くらいで
 - ・得点と根拠をつきあわせて議論する
- ⑤「④」と並行して、ルーブリックの修正を行う
- ⑥得点を決定し、採点事例を抽出する

なお、レベルの設定は「非常に進んでいる」「やや進んでいる」「やや遅れている」の 3 段階とした。

V 訪問大学の評価(実地評価)

【評価の視点 A】のグッドプラクティスに関する概括

■答えが一つではない問題に PBL としてグループワークで取り組ませていること

PBL で重要なのは、学生に厳しい経験をさせ、壁を乗り越えさせるようなプログラムを組んでいるか否かである。学生の態度変容は、学生がグループに参加し、協働を通じて解決すべきテーマを見出し、その手法を探っていくなかで生じるものだからである。さらに、取り組むテーマの解は予め用意されたものや簡単な答ではなく、教員も一緒に考えざるを得ないような問題であることが望ましい。それは、学生の実践知・活用知は学生と教員が共に向き合い、相互作用の中でよりよく身につくはずだからである。

さらに、PBL の導入を初年次ゼミの中で教員裁量に任せるのではなく、必須事項として全学生に経験させることが重要である。

実際、訪問ヒアリングした多くの大学で、答えが一つではない問題に PBL としてグループワークで取り組ませていた。

たとえば同志社大学では、「リーガルリサーチ」という初年次ゼミにおいて、法学という特殊な世界に慣れさせ、頭を切り替えさせることを目的にした PBL を行っている。目標は半年かけてレポートを1本書かせることだが、そのレベルはそれなりに高い。「法学では答えは一つではない。だから現在、もっとも妥当な答えを見つけ出す」。このためにグループワークで文献調査や資料収集を行い、ディベートも行う。議論を深めることを最も重視し、授業は成果発表と質問の場という位置づけである。たとえば、学生は1週間のうちに新聞で一番興味を持った記事を持ち寄り、グループで討議し、統一テーマを決める。それについてグループで調べ、討議し、統一見解を練り上げて発表する。このプロセスを経て学生は討議力、調整力、社会性も身につける。

岩手県立大学、駿河台大学、愛知学院大学、京都文教大学等、前期では個人ワークを中心にスタディスキルを習得し、後期にそのスキルを用いてグループワークを行うといったように、段階を踏んでグループワークに取り組ませている大学も数多くあった。

また、初年次ゼミでのグループワークのテーマについては、ほとんどの大学が大きく分けて①専門について考えさせる、②一般的な社会問題等について考えさせる、③大学や地域の問題を考えさせる、の3つのいずれかであった。

①は初年次ゼミを学部が提供している大学であり、②と③は全学で共通した初年次ゼミを提供している大学に多かった。ただ、②を全学共通で行っている場合、学部の側から「初年次ゼミで必要な能力を形成していないのでは」という不満が聞かれたケースが複数あった。

③の例を挙げると、多摩大学が地域にある「サンリオピューロランドへの提案」や、市役所、町内会、商店街への提案をテーマにしている。立命館アジア太平洋大学では、「ジャパンマインド、別府マインド、APU マインド」をテーマとしている。日本文理大学の「社会参画入門」では、まず学内の改善課題発見というように身近なところから始めて、その後、社会参画へと発展させる、というテーマ設定が行われている。

■他の科目と初年次ゼミが有機的に関連していること

全体的に、進んでいる大学・学部では初年次ゼミを通年開講して前期にスタディスキルを学ばせ、後期にそれを活かした実践を行わせるというパターンが多くみられた。また、前期後期のつなが

りだけでなく、4年間を通じてゼミを連続させ、その入り口として初年次ゼミを位置づけている大学・学部も多かった。

たとえば産業能率大学情報マネジメント学部では、初年次ゼミの前期が問題発見、後期が問題解決を課題として、前期は教員を選ぶことはできないが、後期からは教員をシラバスで選べるようにして、そこから2年前期、2年後期と2年かけてテーマ研究を行わせ、さらに3年時以降のゼミへと連続させている。

このような縦の連携以外に注目したいのは、初年次ゼミが単体で設計されているのではなく、他の初年次科目群と有機的に関連付けられている取り組みである。文教大学（国際学部）、嘉悦大学（経営経済学部）、関西国際大学（人間科学部）、神戸学院大学（薬学部）、金沢工業大学（全学）、高知大学（農学部）などで積極的に行われ、正課同士の連携もあれば、正課と非正課との連携もあるが、いずれも高い効果を挙げているように見受けられる。

たとえば文教大学（国際学部）では、「初年次ゼミ」と「国際学入門」と「領域入門」が関連付けられて設計されており、「初年次ゼミ」でスタディスキルを習得し、「国際学入門」で国際学とは何かについて考えるPBLを、「領域入門」では、「国際学入門」で広がった問題意識を深めるといった連携が構築されている。

嘉悦大学（経営経済学部）では、「初年次ゼミ」と学園祭結合し、まず必修として全学生に模擬店を経験させることで、簿記の必要性や企業の役割分担などを考えさせている。さらに、「ヒューマンリソースセンター」の運営など、学内の仕事を体験させることと連携させ効果を挙げている。新潟大学（農学部生産環境科学科）では、「情報処理演習」で学んだことを「スタディスキル」という科目で実践させるように連動させている。

金沢工業大学（全学）では、「初年次ゼミ」と他科目を有機的に関連付ける取り組みが多様にあるが、一つ例を挙げると、「レポートの書き方」を初年次ゼミで教えると、他の授業でもそれに基づいて積極的にレポートを書かせ、「必ず添削して返却する」ということが徹底されている。

星城大学（経営学部）では、「総合言葉演習」と「文化教養ゼミ」を連携させている。「総合言葉演習」は必修で、授業は3回で1クールとして1回目が「読み」、2回目が「書く」で、3回目に他の人の発表を聞いて、自分の書いたものをもう一度考えて修正するというサイクルを繰り返す。そして「文化教養ゼミ」では、1回目に全体講義を聞き、2回目にゼミを行ってレポートを書かせる。このレポートには必ず教員がコメントを付して返却している。

関西国際大学（人間科学部）では、「キャリアプランニング」、「基礎演習」、「学習技術」、「サービスラーニング」が、初年次の必修科目として設置されている。どの科目も、同じクラスのメンバーで受講する。春学期に「学習技術」でスタディスキルを身につけ、「基礎演習」でスタディスキルを活用した演習を行うとともに、「キャリアプランニング」で自分の将来を構想し、「サービスラーニング」で社会に目を向けさせている。

神戸学院大学（薬学部）では、「演習実習」、「早期体験学習」、「文章表現」、「基礎情報処理演習」の4科目が有機的に関連付けられて運営されているが、それ以外の科目との連携も強く意識されている。たとえば「演習実習」と他のさまざまな授業との関連をみると、「演習実習」で薬局見学に行かせ礼状を書かせる時には、「文章表現」ではこれに合わせて敬語の使い方を教える。顕微鏡で動物細胞と植物細胞の違いを観察させる実験の裏では「固体と細胞」の授業が行われており、両者はリンクしている。また風邪薬の授業ではレポートを書かせるが、参考文献の扱いは「基

基礎情報処理演習」で教えてリンクさせている。さらに、薬剤師の仕事の項目では、赤ちゃんにミルクに混ぜて風邪薬を吞ませていいのか、などのテーマについて1週間調査をさせた上でプレゼンテーションをさせる。また、薬剤師は単に薬の説明をすれば済む仕事ではないことを自覚させるために、「文章表現」ではロールプレイをさせている。薬草園見学の項目では、生薬と漢方薬と植物に関してレポートを提出させるが、そこではレポートに写真を貼り付けることが必須とし、ワープロソフトの Word で作成した文章に写真を貼り付けることを「基礎情報処理演習」で教える。分子モデルを教えるのに合わせては、「基礎情報処理演習」で化学構造式の書き方を教え、同時期に履修することになっている「有機化学」の授業の大切さを実感させる、などである。

高知大学（農学部）では、「大学基礎論」、「学問基礎論」、「課題探求セミナー」、「フィールドサイエンス演習」が有機的に関連付けられている。「大学基礎論」で「大学で学ぶことはどういうことか」を自覚させ、さらに「学問基礎論」では、農学部内で2年次から選択するコースを経験させるグループワークを実施。「課題探求セミナー」ではPBLを行い、加えて「フィールドサイエンス」で農学に関するフィールドワークを行って、「なぜ農学部なのか」のアイデンティティ確立を目指している。

長崎大学（工学部）では、学部全体の取り組みではないが、構造・社会開発系で「フレッシュマンセミナー」が全員必修となっている。ここでは全学教育センターが提供する教養セミナーと連動し、専門に引き付けながら学生に態度転換を促すようなPBLが行われている。

これらの大学では、初年次ゼミと他の科目や正課以外の活動を関連させることで、相乗効果を生み出している。愛媛大学（医学部）の例にもあるが、「スキルのためのスキル」という学び方では学生のモチベーションを高めることは困難であり、学んだ知識やスキルが他の科目や活動の中で活かされてこそ効果的である。あるいは嘉悦大学（経営経済学部）のように、学園祭への模擬店の出店を必須化し、その中で経験したことを初年次ゼミにつなげるという方法もある。

初年次ゼミ単体で設計を考えている大学が多いように見受けられるが、大学・学部総体で初年次教育を提供すると考えるならば、その教育効果を高めるためにも他の科目、活動との連携は考えられてしかるべきである。

■縦・横・斜めの関係を導入していること

縦とは教員との関係、横とは同期との関係、そして斜めとは上級生と下級生との関係である。大学に居場所がつかれずリタイアしていく学生が多い中で、縦と横だけでなく、斜めの関係も構築し、重層的なネットワークの中に学生を置くことが有効である。そして、この斜めの関係は学びの場面においても効果を発揮すると期待できる。

斜めの関係の一形態であるスチューデントアシスタント（SA）は、多くの大学で導入されているが、その多くはオリエンテーションや履修アドバイザーなどに限られている。また、初年次ゼミなどの授業に活用している場合でも、プリントを配ったりするアルバイト的な役割に限定している大学が多い。しかし中には、初年次教育・初年次ゼミに活用して、教育上の効果を挙げている大学もある。岩手県立大学（ソフトウェア情報学部）や嘉悦大学（経営経済学部）、名古屋商科大学（全学）、三重大学（全学）などである。

岩手県立大学（ソフトウェア情報学部）では、1年後期に「初年次ゼミ」として位置づけられて

いる「学の世界入門」が設置されているが、これは実質的には2年次配当の「プロジェクト演習Ⅰ」、3年次配当の「プロジェクト演習Ⅱ」との合同授業、すなわち1年生・2年生・3年生の合同授業で、3年生が授業でリーダー的役割を担う。スタディスキルも磨くが、全寮制のイメージで、学年を超えた交流の中で各々の人間性も高めていく。1年生は1つの講座につき8人ずつ、1学年160人が20講座に所属する。授業は3学年なので1講座24人となる。またグループワークでは各学年2人×3学年=6人でチームを編成する。このようにして、上級生が下級生の面倒を見ながらグループワークを行い、コミュニケーション力を高めていくという仕組みが実現されている。

嘉悦大学（経営経済学部）では「初年次ゼミ」において、SAはキーになる回に4~5人のグループに1人が付く。SAは、1年生が授業中にレポートを書いている時には、その場でどんだんアドバイスするなど、積極的に1年生に関わる。未熟なレポートを書いて提出し、次回にコメントのついたレポートを教員から返してもらうよりも「よいレポートを書けた」という達成感があり、それが次回のモチベーションにつながるという考えである。SA導入当初は教員がSAを指名していたが、現在では黙っていても希望者が集まるという。SAに対しては各授業の前にその授業の狙いとその授業でのSAの役割を明確に伝える。また、SAは学期前に研修を行い、終了後には反省会を持つ。授業を一緒に作るというスタンスで、現在では60~70人以上がSAに登録している。また嘉悦大学では上級生のSAによる強制的な1年生のメンターとしては活用していない。

「今日から私があなたのメンターです」といっても一朝一夕に良好な関係は築けないと考えるからである。ちなみに大学における生活面での支援については、同期によるバディを試行中であり、欠席の際にはバディに連絡させるなどの相互扶助を考えている。さらにSAを束ねるのがヒューマンリソースセンターで、現在は2年生の女子学生がセンター長をしている。研修もマニュアル作りも学生たちが行っている。

清泉女子大学（文学部）では、「共通基礎演習」を学科横断型のクラス編成で実施しているが、その目的は、日頃親しく接する機会の少ない学生同士が協働することで、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション・トレーニングを行うことにある。具体的には、授業の中に、コンフリクト・レゾリューション、すなわち人との衝突に対応したり、紛争を解決したりするための手法を学ぶプログラムを取り入れるなどしている。

名古屋商科大学（全学）では、上級生サポーター制度が導入され、初年次ゼミである「ビジョンプランニングセミナー（VPS）」の1クラスに1名のサポーターが配置されている。サポーターは大学院生によるティーチングアシスタント（TA）ではなく、新入生と同じ学部生によるピア・サポートなので、新入生が身近に感じることができる。またサポーターとなることで社会人基礎力が伸びるなど、自身が得ることも多いという。さらに、サポーターは日誌を書くことが義務づけられており、教員はサポーターに課題も出している。SA同士がMLを用いてネットワークを構築し、問題を共有している。「VPS」では受講生は5人単位でグループ化され、1クラスにSA1人が入ることにより、受講生一人ひとりを見ることができる。SAは3年生が中心だが、2年生も4年生もいる。教員は授業前にSAと打ち合わせをし、さらに週に1回は昼食を食べながらの打ち合わせも行う。同学ではさらに、「VPS」でのSAの活用以外に、SAによる相談コーナーも設けている。ただ、SAは学生のレポートなどにはコメントを書かないことが原則とされている。

三重大学（全学）では、学生が学生を励ます仕組みを作りたいという長年の念願があったが、2009

年度から SA（ピア・サポーター）を導入した。ピア・サポーターは学内資格とし、資格を取得することで単位認定も行っている。今後、70名～100名が資格を取得することを目標としている。さらにピア・サポーターの上級資格計画で、こちらは20名程度を想定している。基本スタンスは、学生が学生のケアをすることで、新入生のドロップアウトなどを防止しようというものである。

SA の導入に際して重要と思われることは、単なる手伝いのアルバイトに終始させる発想であっては意味がないということである。SA と新入生が相互に関わることで、相互に変容が促されることが大切なのである。そのためには、SA への研修や教育も必要になるから、導入当初は手間がかかるかもしれない。それでも、新入生が SA との関わることによって刺激を受け、変容が加速され、そして自身もまた SA になって下級生に関わるというサイクルが確立された時には、大きな教育効果が得られると思われるのである。

また SA とは異なるが、横の関係を生かす取り組みとして、大阪成蹊大学（現代経営情報学部）では、ラーニングコミュニティに近い仕組みが導入されている。「文章作法Ⅰ」「文章作法Ⅱ」「情報リテラシー」「情報処理基礎」などの6つの科目がこれにあたり、この科目をクラス単位で受講するようになっていて、同級生同士で刺激を与えあい、コミュニケーションも高まっている。

【評価の視点 B】のグッドプラクティスに関する概括

【評価の視点 B】の「自律・自立促進の取り組み」については、訪問ヒアリングを行った大学でも、ほとんどの大学が実施できていないという現状であった。その理由としては、①学生一人ひとりの「伸びしろ」に大学として関与すべき、という発想が希薄であること、②教員が一人ひとりの学生に向き合うためのマンパワーの不足、などが考えられる。

しかし、学生が自分の初年次ゼミでの実践をふり返り、獲得した能力と向き合い、次の自分の目標を設定していく、ということは、人が物事に上達していく普遍的な在りようのはずである。それを大学の初年次に習慣として身につけさせることは、導入している大学では大きな効果を挙げているように見受けられる。

特に、ふり返りシートについては、自分が経験したこと、学んだこと、できるようになったことを言語化することに意味がある。言語化しなければ、自分が何を経験したかを意識化＝対自化することもできないのであり、結局のところ何を学んだかと問われても、「何となく面白かった」というような感想しか持てなくなる。経験したことや学んだことは、それを対自化することで、定着していく。

たとえば金沢工業大学（全学）の「修学ポートフォリオ」では、毎日「一週間の行動履歴」（①出席遅刻、②学習、③課外活動、④健康管理、⑤1週間で満足できたこと、努力したこと、反省点、困ったこと）を記録し、学期末に「各期の達成度自己評価」を作成してポートフォリオに入力する。これを修学アドバイザーに提出、修学アドバイザーはコメントをつけて1週間後に返却し、学生はそれにさらにコメントを記入する。30週間繰り返すうちに、学生は生活上何が重要であるかに気づき、自己管理能力とタイム・マネジメント力が身についていく。ポートフォリオにはその他に、「キャリアポートフォリオ」「自己評価ポートフォリオ」「プロジェクトデザインポートフォリオ」の計4種類があり、相互に関連して運用されている。4種のポートフォリオを相互に関連させるツールが「達成度評価ポートフォリオシステム」で、4つのポートフォリオの成果をサマリー化し、俯瞰することで1年間の自分の学習を評価し、自己成長の軌跡と自覚・自信・反省などを確認するとともに、次年度の目標を設定する。4つのポートフォリオが日常的なPDCAサイクルであるのに対して、「達成度評価ポートフォリオシステム」は、年間のPDCAサイクルを回していくシステムとなっている。これは学生が自ら作成する「第二学籍簿」であり、自己成長型教育の仕組みとして位置づけられている。

その他、岩手県立大学（ソフトウェア情報学部）では、自らがプロジェクトにどのように関わったのかをふり返らせており、東北福祉大学（総合マネジメント学部）では、「総合的リエゾン」に目標設定が導入され、「人間基礎論」にふり返りシートが導入されている。

また名古屋商科大学（全学）では、自分の能力を自己診断するチェックシートを4年間継続して使用することにより、自己の成長を自覚できるようにしている。

京都ノートルダム女子大学（生活福祉文化学部）では、「基礎演習Ⅱ」でグループワークへの関わりについて毎回自己評価をさせている。最後に学期を通じての自己評価をさせている。ただし、次の目標設定まではさせていない。

関西国際大学（人間科学部）では、Eポートフォリオが設けられ、学生が自分で記入する。その中でふり返りと同時に、次の目標設定をさせている。さらに各能力に関するベンチマークを開発し、学生に達成度をチェックさせている。それをポートフォリオに落とし込んで、自分の成長を

確認できるようにしている。

神戸学院大学（薬学部）では、「演習実習」ごとに全体の到達目標を示し、合わせて個人目標を決めさせている。全体の到達目標には必ず①知識、②技能、③態度を含めるようにしている。それらの目標について実習の各項目が終了してから「達成できたと思うもの」「改善すべきだと考えること」「今の気持ち、感想」を記入させる。教員は、これにコメントしてフィードバックする。さらに期が終わってから、「演習実習」だけでなく全体のふり返しを行わせている。

高知大学（農学部）では「大学基礎論」で、学期の最初と中間と最後にアンケートを行い、自己評価を行わせている。「課題探求ゼミ」でもふり返しを行わせ、「プレゼンができたか」「調査ができたか」などを問うている。

ただ、一方で今回の調査でも、せっかくふり返しシートを導入していても、「良かった」「悪かった」「面白かった」「つまらなかった」というレベルや、目標も「試験に向けて頑張る」という感想の記入にとどまっている例も少なくなかった。

ふり返らせて言語化させ、それに基づいて目標設定を行わせ、そのプロセスに教員が関与することは、これからの初年次教育ではもっと必要なのではないだろうか。

【評価の視点 C】のグッドプラクティスに関する概括

■一定水準を担保する取り組み

この点については、訪問した多くの大学で、ガイドラインやマニュアル、共通テキストなどが導入されていた。

関西国際大学のオリジナルテキストで、市販されている「知へのステップ」はよく知られているが、玉川大学でもオリジナルテキスト「大学生活ナビ」「読む・書く・プレゼン・ディベート」が作成され、市販されている。

また、多くの大学でガイドラインやティーチャーズマニュアルが作成されているが、九州産業大学（経営学部）では、毎年更新を原則としており、そこに多くの労力が費やされている。

FD やコーディネータ制度については、ほとんどの大学で導入されているものの、初年次教育に的を絞った FD や、参加を必須とするなどした徹底した取り組みは少ないのが現状であった。

そのような中で、嘉悦大学（経営経済学部）、駿河台大学（経済学部）、玉川大学（全学）、京都ノートルダム女子大学（生活福祉文化学部）、三重大学（全学）、関西国際大学（人間科学部）の平準化のための取り組みは注目される。

嘉悦大学（経営経済学部）では、初年次ゼミのすべての回の模擬授業をゼミ担当教員全員参加で行っている。マニュアルではなく、ライブの模擬授業で「その言い方、分かりにくいから、もっと違う言い方をしよう」などと検証している。平準化と同時に、授業をもっと面白くするための取り組みである。

駿河台大学（経済学部）では、「教員評価報告書」「授業改善計画書」が導入されている。11 ページにも及ぶ教員評価報告書の記入事項は多岐にわたるが、その中に、「教育体制の整備・教育改善作業等の実績」「授業内容の工夫・改善の実績」などが設けられており、細かい記入が求められるようになっている。授業改善計画書と合わせて、教員の意識を教育の改善に向けさせていく試みである。

玉川大学（全学）では、新任者研修会は全員出席で行い、1 年次ゼミナールの運営の考え方を説明するだけでなく、ディベートなどを取り上げたワークショップも行っている。

京都ノートルダム女子大学（生活福祉文化学部）では、ゼミは 9 コマが同時進行するように、毎回、綿密に打ち合わせを行い、授業終了後も毎回、時間を取って反省会を行っている。これによって、教員間の意識の共有は相当程度進んでいると思われる。

三重大学（全学）では、実際に全学の基礎演習を担うのは主に 3 名の特任教員である。その準備過程で基礎演習を企画した高等教育開発センターにおいて模擬授業を行い、また特任講師と高等教育開発センターとの緻密な打ち合わせによって、水準が確保されている。

新潟大学（農学部生産環境科学科）では、新任の教員は「スタディスキルズ」の副任となるので、主任の教員がオン・ザ・ジョブ・トレーニングで教えるという仕組みを採用している。

関西国際大学（人間科学部）では、年間 5～6 回 FD が行われている。以前は、FD 出席率は 6 割程度だったが、欠席者には補講を行うなどして大学としての姿勢を明確化し、現在ではほぼ 80～90%の出席率となっている。教員にとっても、FD に出なければ自分がどう動いたらいいか分からなくなるので、現在では進んで出席する。FD の中でワークショップを行うので教員がワークショップに慣れるという成果もある。そして、FD を必須化してから初年次教育の質が向上したという実感があるという。

これらの大学の例は、ここまでの徹底を行えば、成果は生まれてくるということを示している。

■全学[部]出動に関して—嘉悦大学と三重大学の提起している問題—

訪問した大学の中では、ほとんどの大学が全学[部]出動を是としていた。実際に、全学[部]出動になっていなくても、それは現実との妥協の産物であり、基本的な理念としては全学[部]出動であるべきと考えている大学が多かった。

しかし、確信を持って一部の教員のみで行っている大学も少数ながら存在した。それが嘉悦大学と三重大学である。

嘉悦大学に関しては、大学全体の改革を目指しており、その方向性が共有できる教員のみで初年次ゼミを担っている。その方向性が共有できるのであれば、専任教員である必要すらない、という立場であり、非常勤講師も担当している。

三重大学も、先に述べたように全学の基礎演習は中心となる3人の特任教員が担っている。初年次教育の教育開発は高等教育センターが担っているが、現場での教育は、この3人の特任教員を中心とするスタッフにゆだねている。別途、学部でも初年次教育が行われているが、こちらには、各々の学部の専門性を重視できるというメリットがある。

しかも、その結果として両大学ともに、【評価の視点A】の「学生を変容させる取り組み」についても、また一定水準以上を担保する取り組みについても、きわめて進んだレベルを実現している。ただ、両大学とも、このような手法が最良であるとしているわけではなく、どちらも過渡的な次善の策であると位置づけている点も共通している。嘉悦大学は、「このような一部の教員のみが先鋭的に初年次ゼミを担うのは、大学改革の過程における過渡的な方法である」という位置づけであり、三重大学は「全学的な意識改革を待ってから初年次教育を充実させるのではなく、まず進んだ初年次教育を行って、その成果を全学に認識させることで全学的な意識変革が可能になる」との立場である。

このように初年次ゼミを一部の教員に固定化する在り方が、ゴールではなく過渡的なものとして位置づけられているならば、効果的な選択なのではないだろうか。

VI まとめ、提言

以上、初年次教育の調査と分析、そして「学生を変容させる」という視点からの評価を行ってきた。

提言を行う前に、この調査を始めるにあたって立てた仮説を検証しておきたい。

第一に、「命題知の暗記から実践知・活用知の習得への転換」は、グループワークと PBL を通じて、学生に調べさせ、考えさせ、討議させ、レポートや発表などを行わせ、その活動をふり返らせていく、という経験を通じて実現されるという点についてである。この点については、アンケート調査でも、また実地調査でも明確に証明されたと考えられる。スタディスキルの習得や居場所づくりも重要ではあるが、「命題知の暗記から実践知・活用知の習得への転換」あるいは「受動的な学習態度から能動的な学習態度への転換」に向けた初年次ゼミを行うことこそが、現在の大学に求められる教育であると考えている。

このような初年次ゼミが、学生のどのような成長を促すのか。ここでは、ある大学の学生の「ふり返り」を紹介しておきたい。

「私はどちらかというと、一人で行動することが好きなため、連帯的な責任を感じるという経験は今まであまりしてこなかった。その方が楽であるという考えであったからである。しかしセミナーでグループ活動をするなかで連帯責任をおうこととなった。毎回、課題が出され、それをグループ活動で利用するため、一人として欠ける訳にはいかない学習であった。したがって、自分のためというよりはグループ全体のために課題に取り組んできた。そこで気づいたことは、自分のためのみならいい加減に取り組んでしまうことも、グループ全体のためならば、真面目に深く掘り下げて課題に取り組むことができるということだ。疲れて、普段なら絶対寝てしまうような時も、セミナーのために調べものをしたりした。それは一種の負けん気といってもよいだろう。メンバーのみんなもやっていることなのだから、という思いに駆られた。このように、当たり前なことではあるが、一人ではなく、グループで活動を行うことの方が自己を発展させることができることがあると再確認した。このことが、私にとっての成長ではないかと思う」

さらに、加えて重要なのは、初年次教育プログラムが上記の諸内容を有していたとしても、他の科目との有機的な連関を欠いたものであれば、その効果は低いということである。その点で、ゼミの4年間の連続や、他の科目との有機的な連関を意識的に行っていくことが、これからの初年次教育においては求められている。

さらに、「縦横斜め」の人間関係を駆使することは、大学での居場所づくりだけでなく、学びの相乗効果を実現する上でも効果的である。今後は、そうした取り組みが、多くの大学で導入されることを期待したい。

第二の問題は、「学生の自律・自立化」についてである。当プロジェクトが問題にしている「自律・自立化」とは単なる自己管理や時間管理だけではなく、自分で PDCA を回していける、自発自展していける主体のことである。それを獲得するには、目標を立て、実践し、それをふり返り、次の目標を立てる、というサイクルを繰り返し経験し、その意味を体得していくしかないはずである。その意味では、「学生にふり返りシートを書かせているか」、「ふり返りに基づいて次の目標を

立てさせているか」、「そのプロセスに教員が関与しているか」は一定の効果測定の指標となりえているはずである。

本調査では、この点で進んだ取り組みを行っている大学・学部は極めて少数であった。しかし、金沢工業大学や関西国際大学など、他大に先行して取り組んでいる大学・学部では大きな成果を挙げていることを勘案すれば、こうした内容ふり返りシートの導入や、それに基づく次の目標設定、それへの教員の関与が、初年次教育において導入されていくべきと考える。

第三の問題は、「全学生に対する一定水準以上の初年次教育の質保証である。教育の質保証は直接測定することはできないため、本調査では「ガイドライン・マニュアル」「共通テキスト」「FD・コーディネータ」「新任研修」「全学[部]出勤」の有無によって評価することにしたのである。一定水準以上の初年次教育を保証している大学・学部であれば、これらの要素が満たされているに違いない、というのがその仮説であった。

結論から言えば、一部では仮説は当たっていたが、一部では必ずしもそうではなかった。

ガイドラインやティーチングマニュアル、共通テキストは、教員の意識と教育内容を一定レベルに保つためにはそれなりに有効ではあるが、教員の意識改革なしにそれらにもたれかかるのでは逆効果というケースもあった。そうした弊害を意識して、あえてガイドラインやティーチングマニュアルを作らない大学・学部もある。しかし、それらをつくらないでは教育の質保証にならないのは自明である。つくらない代わりに何をするのが問題となる。

ガイドラインやティーチングマニュアル、共通テキストに代替するものとしては、たとえば同志社大学（法学部）や近畿大学（理工学部）に見られるように、実際の授業方法は教員裁量としつつも必ず盛り込むべき項目を明確にする方法も有効であろう。また嘉悦大学（経営経済学部）における毎回の模擬授業での検証も、注目すべき取り組みだと思われる。いずれにせよ、大学・学部の実情に応じた取り組みが求められているのであって、初年次教育の一定水準以上の質保証は、重要な課題であると考えられる。

もう一つ、教育の質保証については、全学[部]出勤の問題がある。これについては、全学[部]出勤が行われていれば、それだけ教員間で意識が共有され、それに基づいた実践がなされているはずであるという仮説であったが、調査の結果は必ずしもそうではなかった。教員の意識改革が遅れている場合、そうした教員に無理に初年次教育を担当させる弊害も大きいからである。

しかし同時に、教員の意識改革を彼岸化してしまうのでは、初年次教育という大きな問題に持てる教育資源を有効に投入することができなくなってしまう。

その点で、過渡的には意識を共有できない教員にはあえて初年次教育を担当させず、一部の精鋭が初年次教育を担当することも、将来的には全学で意識の共有を目指すという目標のもとでは効果的であると思われる。

以上の検証を踏まえて、どのような初年次教育が求められているのかが明らかになったと考える。もとより大学はレベルや個性が多様であり、それに応じて初年次教育は実施されるべきである。たとえば、マーチン・トロウによれば、現代の大学はエリート型、マス型、ユニバーサルアクセス型の3類型に分類できる。いずれの類型でも、初年次教育では①「友人の獲得」、②「スタディスキルの習得」、③「ロジカルシンキングなどの知の技法の習得」が課題となっているが、ユニバーサルアクセス型では3つのうちの①に比重が置かれ、マス型では①と②の比重が大きく、そ

してエリート型では③の比重が大きくなっていく傾向がある。このような類型やレベル、大学の個性による違いは前提としつつも、今回の調査を通じて見えてきたことがらを踏まえるならば、総括的には以上の3点を重視した初年次教育が重要であることは明らかであろう。

では、どうして、求められている初年次教育がすべての大学で実現できないのだろうか。その点に関して、当プロジェクトは以下のように考える。

それは、大学が学生と向き合っていない、すなわち教員を学生と向き合わせていないからである。今回の実地調査で痛感したことは、一部の教員のみ努力によって初年次教育が支えられている大学・学部なんと多いことか、ということである。つまり、多くの教員が自校の学生の現実に向き合っていない現状があるということである。

これまでの大学では、教員は研究者としての評価が優先されてきた。専門分野での業績で評価され、教養教育や初年次教育での活動は評価されないか、されたとしても専門分野よりもはるかに低いものとして扱われてきた。

その結果、多くの大学で、初年次教育を自分の問題とは考えない教員、できれば避けて通りたいと考えている教員が多数を占めることになった。

そして、そうした大学の在り方が、初年次教育をはじめとする大学教育の進展を妨げているのである。

「研究優先」という大学教員をめぐる待遇環境が変わらなければ初年次教育も変わらない、という意見もあるかもしれない。しかし、それは教員もまた対価との関係でしか動こうとしないということの意味している。常日頃、批判している教員が同じレベルで教育に携わっていて、はたしてそれでいいのだろうか。教員には、学生を育てることが社会から負託されているのである。しかも、初年次教育は学士力教育の重要な一部を構成し、専門教育の土台になっている。初年次教育が成果を上げることができなければ、専門教育も瓦解しかねないのである。

確かに現在の学生は、かつてと比べれば大きく変化している。学力低下は、大学教育を行う上で由々しき問題となっている。しかし、どんな問題があったとしても、それが現実である以上、それと向き合い、教育によって解決をしていく姿勢、つまり、目の前にいる現実の学生と向き合う姿勢こそが求められているはずである。

今回の大学訪問ヒアリングで、一つ、大変重要なことを感じた。それは、学生のことを恥じている大学と、誇りに思っている大学があるということである。難易度の問題ではない。難易度で言えば、それほど違わない大学でも、そのような違いが感じられたのである。

誇りに思っている大学は、自分たちは現実の学生と向き合っているという自信があり、恥じている大学は、自分の大学の学生は、あるべき学生の姿ではないというギャップを恥じているように思われた。それは、学生としっかりと向き合い、必要な教育を行っていないことを恥じているということでもあるはずである。

大学は何のために存在するのか。存在意義は複数あるが、その1つは紛れもなく、「学生が成長す

る場」としての存在である。

良くも悪くも現実の生身の学生と向き合い、彼らにとって必要と思われる教育を行う。それができない大学は退場するしかない。本調査では、学生を変容させる、ということを初年次教育の重要なキーワードとした。しかし、学生を変容させる初年次教育を行うためには、大学が、そして教員自身を変容する必要があるのではないだろうか。

初年次教育はその試金石である。

アンケート（質問紙）

調査票

「全国大学の2008年度初年次教育調査」へのご協力をお願い

学部長各位

【1】この調査は、全国の国公立大学で現在、どのように初年次教育が行われているのかを調査し、それを受験生、高校教員および社会に伝え、また大学に還元することを目的としています。河合塾がこのような調査を行う理由は、受験生を送り出す側として、大学でどのような教育が行われているのかを正しく把握し、それを受験指導に活かすことが大切であると考えからに他なりません。いわゆる大学の選択基準としては、主として「専門教育」の充実度と「偏差値」が挙げられますが、それ以外の「大学の教育力」も重要な選択基準になると思われまます。「初年次教育」もまた、大学に適應できない学生の増加という現実を照らせば、その一つに数えられるべきであるというのが、この調査の出発点です。

【2】この調査では、初年次教育を次のように定義します。

大学の大衆化・ユニバーサル化を背景として、これまでは大学に入学してこなかった層が大量に大学に進学するようになりました。そのことを含めて全体的に学生の大学への適應不全が起こっており、これへの包括的な対応が大学入学後の最初の1年間に強く求められるようになりました。これに対応するために、具体的には以下の8点を目的とした大学1年生に対する教育を初年次教育と定義します。

- ① 学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力をつくる（宿題、レポート提出等を通じて）
- ② 高校までの不足分を補習する（リメディアル教育等を通じて）
- ③ 大学という場を理解する（オリエンテーション、自校教育等を通じて）
- ④ 人としての守るべき規範を理解させる（オリエンテーション、初年次ゼミ等を通じて）
- ⑤ 大学の中に人間関係を構築する（グループ学習、合宿等を通じて）
- ⑥ レポートの書き方、文献探索方法など、大学で学ぶためのスタディスキルやアカデミックスキルを獲得する（初年次ゼミ等を通じて）
- ⑦ クリティカルシンキング・コミュニケーション力など大学で学ぶための思考方法を身につける（初年次ゼミ等を通じて）
- ⑧ 高校までの受動的な学習から、能動的で自立的・自律的な学習態度への転換を図る（初年次ゼミ等を通じて）

なお、本調査での初年次教育とは、あくまでも「大学の教育環境への適應のための取り組み」のことを指すのであって、「専門教育への導入」については対象としていません。この点に留意してください。

【3】本アンケートは、この初年次教育調査の重要な一環を担うもので、すべての大学のすべての学部の学部長に回答をお願いするものです。ただ、大学の事情によって学部長よりも回答の適任者がいらっしゃる場合には、その適任者の方にご回答をお願いいたします。

すべての大学を対象にして広く初年次教育の現状を調査し、受験生、高校教員、大学、そして社会へと報告・還元したいと考えています。

以上の点をご理解いただき、本アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

学校法人河合塾 教育研究部

全国大学の2008年度初年次教育に関するアンケート調査

2008年度の貴学部該当と思われるものを1つ選び[]の中に○印をつけてください。「複数回答可」の場合は、それに従ってください。

1、初年次教育のための学生実態調査について。

(1) 適切な初年次教育を行うためには、新入生全体の傾向を把握することが必要ですが、そのための学生実態調査（高校までの履修状況、生活環境、自己管理や学習習慣などについて）を入学後に行っていますか。

[]すべての新入生に対して行っている

[]一部の新入生に対して行っている

[]行っていない

2、初年次ゼミについて。

本調査でいう「初年次ゼミ」とは、初年次に行われる①大学の教育環境への適応を主目的とした、②少人数、③双方向型の正課カリキュラムの授業のことを指します。「専門への導入」を主目的としたゼミは除外してお答えください。また「専門への導入」を兼ねている初年次ゼミについては、上記初年次ゼミの規定に該当する領域をお答えください。

(1) 貴学部では初年次ゼミは設定されていますか。選択ですか。必修ですか。

[]学部全体に必修として設定

[]学部全体に選択として設定

→学部全体の新生数を母数として、初年次ゼミを履修する新生の割合は

[]10%未満 []10%以上 20%未満 []20%以上 30%未満 []30%以上 40%未満

[]40%以上 50%未満 []50%以上 60%未満 []60%以上 70%未満

[]70%以上 80%未満 []80%以上 90%未満 []90%以上

[]学科によって異なっている

→学部全体の新生数を母数として、学部で初年次ゼミを履修する新生の割合は

[]10%未満 []10%以上 20%未満 []20%以上 30%未満 []30%以上 40%未満

[]40%以上 50%未満 []50%以上 60%未満 []60%以上 70%未満

[]70%以上 80%未満 []80%以上 90%未満 []90%以上

・必修の学科名 _____

・選択の学科名 _____

・設定されていない学科名 _____

[]初年次ゼミは設定されていない

【以下は（1）で「必修として設定」「選択として設定」「学科によって異なる」と回答の場合、お答えください】

（2）初年次ゼミは何単位ですか。

【学部全体で共通の場合はこちらに記入してください】

半期 1 単位 半期 2 単位 半期 4 単位 通年 4 単位 通年 2 単位
 その他（ 単位）

【学科によって異なる場合はこちらに記入してください】

_____ 学科
 半期 1 単位 半期 2 単位 半期 4 単位 通年 4 単位 通年 2 単位
 その他（ 単位）

_____ 学科
 半期 1 単位 半期 2 単位 半期 4 単位 通年 4 単位 通年 2 単位
 その他（ 単位）

_____ 学科
 半期 1 単位 半期 2 単位 半期 4 単位 通年 4 単位 通年 2 単位
 その他（ 単位）

（3）1 コマ 90 分に換算して、初年次ゼミは週何コマになりますか。

【学部全体で共通の場合はこちらに記入してください】

90 分換算で週 1 コマ
 90 分換算で週 2 コマ
 その他（ _____ 分で、週 _____ コマ）

【学科によって異なる場合はこちらに記入してください】

_____ 学科
 90 分換算で週 1 コマ
 90 分換算で週 2 コマ
 その他（ _____ 分で、週 _____ コマ）

_____ 学科
 90 分換算で週 1 コマ
 90 分換算で週 2 コマ
 その他（ _____ 分で、週 _____ コマ）

_____ 学科
 90 分換算で週 1 コマ
 90 分換算で週 2 コマ
 その他（ _____ 分で、週 _____ コマ）

(4) 初年次ゼミのクラス規模はどの程度ですか。
学部平均で 10人以下 11人～20人 21人～30人 31人～40人
 41人～50人 51人以上

学部内の最大で 10人以下 11人～20人 21人～30人 31人～40人
 41人～50人 51人以上

(5) 初年次ゼミには大学院生および学部学生による「教室に入る授業サポート」が導入されていますか。

- すべての初年次ゼミで導入されている
 一部の初年次ゼミに導入されている
 導入されていない

(6) 「教室に入る授業サポート」は大学院生ですか学部学生ですか（複数回答可）。

【(5)で「すべての初年次ゼミで導入されている」「一部の初年次ゼミに導入されている」と回答された場合のみお答えください】

- 大学院生 学部学生 その他（具体的に_____）

(7) 「教室に入る授業サポート」を教員としてカウントした場合の教員の一人当たりの担当学生数は学部平均で何人ですか。

【(5)で「すべての初年次ゼミで導入されている」「一部の初年次ゼミに導入されている」と回答された場合のみお答えください】

- 10人以下 11人～20人 21人～30人 31人～40人 41人～50人
 51人以上

(8) 初年次ゼミのクラス編成の考え方について以下のどれが該当しますか。

- 学部横断型
 学部内 学科・コース横断型
 学科・コース内型
 その他（具体的に_____）

(9) 初年次ゼミの授業時間内に扱われる項目の有無と頻度についてお聞きします。

項目	必須の有無	頻度 (必須の場合のみ回答)
日本語表現としての レポートの書き方	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	
アカデミックスキルとしての レポートの書き方	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	
図書館の使い方	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	
グループ学習	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	[]基本的に毎回 (頻度大) []2~3回に1回程度 (頻度中) []時々 (頻度小) []最後の発表時のみ
ディベート	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	[]基本的に毎回 (頻度大) []2~3回に1回程度 (頻度中) []時々 (頻度小)
フィールドワーク	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	[]基本的に毎回 (頻度大) []2~3回に1回程度 (頻度中) []時々 (頻度小)
プレゼンテーション	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	[]基本的に毎回 (頻度大) []2~3回に1回程度 (頻度中) []時々 (頻度小) []最後の発表時のみ
レポート提出	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	[]基本的に毎回 (頻度大) []2~3回に1回程度 (頻度中) []時々 (頻度小) []最後の発表時のみ
ふり返しシート (学習の記録・ポートフォリオ など)	[]学部で全講座で必須 []学科により全講座で必須 []教員の裁量 []教育課題としていない	[]基本的に毎回 (頻度大) []2~3回に1回程度 (頻度中) []時々 (頻度小) []最後の発表時のみ

(10) 初年次ゼミの授業時間外に学習課題・宿題を学生に与えていますか。

	必須の有無	頻度 (必須の場合のみ回答)
授業外の学習・宿題	<input type="checkbox"/> 学部の全講座で必須 <input type="checkbox"/> 学科により全講座で必須 <input type="checkbox"/> 教員の裁量 <input type="checkbox"/> 与えないことにしている	<input type="checkbox"/> 基本的に毎回 (頻度大) <input type="checkbox"/> 2~3回に1回程度 (頻度中) <input type="checkbox"/> 時々 (頻度小) <input type="checkbox"/> 最後の発表時のみ

(11) その学習課題・宿題にはグループで取り組むものがどの程度含まれていますか。

【(10)で「学部の全講座で必須」「学科の全講座で必須」と回答された場合にお答えください】

- 基本的に宿題のすべてがグループ宿題である
- 宿題の2~3回に1回程度がグループ宿題である
- 宿題のうち時々がグループ宿題である
- 最後の発表時のみの宿題がグループ宿題である
- グループ宿題は教員の裁量によっている

(12) 初年次ゼミで必須とされる項目については、どのように徹底されますか。

①シラバスが

- ある (学部共通) ある (学科共通) ある (教員ごと) ない

②共通テキストが

- ある ない

③内容のガイドラインまたは共通マニュアルが

- ある (全教員必須で使用) ある (教員ごとの裁量で使用) ない

④初年次ゼミの平準化・質の向上のためのFD研修が

- ある (担当の全教員に参加が義務付けられている)
- ある (新任の全教員に参加が義務付けられている)
- ある (自由参加)
- ない

⑤初年次ゼミの平準化・質の向上を目的とし、科目主務者が複数の教員間のばらつきを無くするためのコーディネーター制度が

- ある ない

(13) 初年次ゼミの提供組織はどこですか。

- 自学部ですべて提供
- 学部ではない組織が提供 (提供組織名 _____)
- 学部と学部でない組織との両方で提供
- その他 (具体的に _____)

以下の質問では初年次教育全般についてお聞きします。

3、初年次教育における先輩学生の活用について。

(1) 2年次以上の先輩学生を初年次教育に活用されていますか。先輩学生が活用される場面、活用の有無、活用規模、活用にあたっての研修時間についてお答えください。

活用場面	活用の有無	活用規模	研修時間
オリエンテーション	<input type="checkbox"/> 活用している <input type="checkbox"/> 活用していない	全体で____人 1年生____人程度に対し1人の割合	____時間程度
履修指導・相談	<input type="checkbox"/> 活用している <input type="checkbox"/> 活用していない	全体で____人 1年生____人程度に対し1人の割合	____時間程度
初年次ゼミ	<input type="checkbox"/> 活用している <input type="checkbox"/> 活用していない <input type="checkbox"/> 教員裁量	全体で____人 1年生____人程度に対し1人の割合	____時間程度
その他 (具体的に_____)	<input type="checkbox"/> 活用している	全体で____人 1年生____人程度に対し1人の割合	____時間程度

4、初年次教育の効果測定等について。

(1) 初年次教育の効果測定はどのような方法で行われていますか(複数回答可)。

- 学生の授業評価を基に行っている
- 学生調査を基に行っている
- 学生の成績を基に行っている
- 教員が記入するこの学生カルテまたは類似のものを基に行っている
- 学生が自ら記入する、成長を促す「ふり返しシート」や「ポートフォリオ」を基に行っている
- その他(具体的に_____)
- 行っていない

(2) 初年次において担当教員(アカデミックアドバイザーや担任など)の学生への面談は行われていますか。また行われている場合、その時間および回数どのように決められていますか。

- 行われている
- 1回____分程度を1年に____回
- 面談を行うとは決められていない(教員裁量による)
- 学生ごとの担当教員が決められていない

(3) 初年次教育では「新入生を自学部の教育についていける水準にまで引き上げる」ことが目標と考えられますが、もし目標水準にまで達しない学生がいた場合の基本スタンスについて伺います。敢えて、どちらかを選ぶとすると、どちらが近いかでご回答ください。

自学部の教育についていける水準にまで引き上げることができなくても、すべての新入生の面倒を見る（水準をある程度犠牲にしても脱落を出さないことを重視する）

自学部の教育についていける水準に達しない新入生はやむを得ないと考える（脱落が出ても水準を守るほうを重視する）

どちらかを重視するとは言えない

5、初年次教育の計画・実施組織について

(1) 初年次教育を計画するのはどの組織ですか。

学部・学科（またはコース）などのライン上にある組織（組織の名称 _____）

教学会議・運営会議などの全学組織（組織の名称 _____）

付置組織（組織の名称 _____）

(2) 初年次教育を実施するのはどの組織ですか。

学部・学科（またはコース）などのライン上にある組織（組織の名称 _____）

教学会議・運営会議などの全学組織（組織の名称 _____）

付置組織（組織の名称 _____）

(3) 初年次教育の計画・実施組織の活動評価を行っていますか（複数回答可）。

第三者評価の中で行われている

自己評価を行っている

学内の他者評価機関によって行われている

評価は行われていない

その他（具体的に _____）

(4) 教員が初年次教育を担当することで、何かの面でインセンティブの一部とされていますか（複数回答可）。

昇任の際の評価の一部としている

FD 活動上の評価の一部としている

その他（具体的に _____）

ない

6、リメディアル教育（ここでは、いわゆる補習教育ではなく、専門教育を受ける前提となる学習のフォローと定義します）について。

（1）開設されている科目名、必要性、開設の有無、受講者の決定方法、単位付与についてお答えください。

科目名	必要性	開設の有無	受講者決定方法	単位付与
数学ⅠA	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している ____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない
数学ⅡB	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している ____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない
数学ⅢC	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している ____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない
物理Ⅰ・Ⅱ	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している ____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない
化学Ⅰ・Ⅱ	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している ____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない

科目名	必要性	開設の有無	受講者決定方法	単位付与
生物Ⅰ・Ⅱ	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している _____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない
英語	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している _____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない
その他 (科目名)	<input type="checkbox"/> 感じている <input type="checkbox"/> 感じていない	<input type="checkbox"/> 開設している <input type="checkbox"/> 開設していない	<input type="checkbox"/> 大学による指定（以下から選択） ① <input type="checkbox"/> プレースメントテスト ② <input type="checkbox"/> 入試成績 ③ <input type="checkbox"/> 高校履修状況から決定 <input type="checkbox"/> 希望者 <input type="checkbox"/> 指定と希望の併用	<input type="checkbox"/> 付与している _____単位 <input type="checkbox"/> 付与していない

■2008年度の貴学部についてお答えください

大学名 _____ 学部名 _____
 学部の1年生の定員 _____ 人 学部設置年度（西暦 _____ 年度）

■ご回答くださった方についてお答えください

ご回答者	所属 役職		(フリガナ) お名前	()
ご連絡先	TEL		e-mail	
	FAX			
	住所	〒(-)		

*ご記入いただいた個人情報は、ご回答内容に関する問い合わせ、及び、調査報告書の発送、及び、今回調査報告に関する案内のためのみに使用いたします。

ご協力ありがとうございました。

2008-2009 年度 初年次教育調査報告書(要約版)

2009 年 12 月

学校法人 河合塾 教育研究部

(東京) 〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-49-7

池袋パークビル 6階

電話 03-6811-5531

(大阪) 〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 3-14-4

河合塾セルスタ 6階

電話 06-6372-6356
